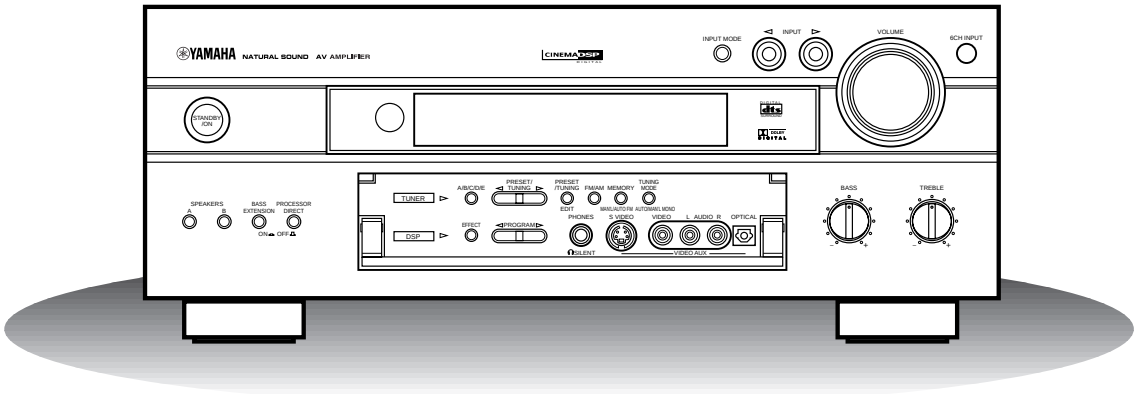
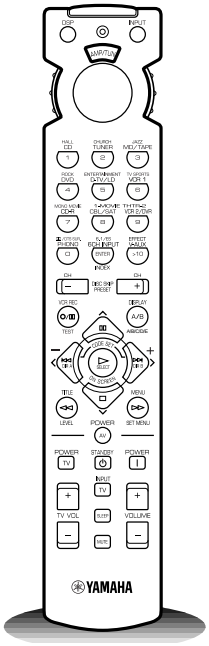
YAMAHA

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX8

取扱説明書





このたびは、YAMAHA AVアンプDSP-AX8をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。
DSP-AX8の優れた性能を充分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に保管してください。

保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

◆ご使用の前に必ずお読みください◆

安全上のご注意（安全に正しくお使いいただくために）

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例

△ 気をつけなければならない内容を表しています。
たとえば ⚠ は「感電注意」を示しています。

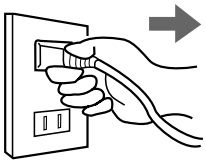
⃠ してはいけない行為を表しています。
たとえば ⃠ は「分解禁止」を示しています。

● 必ずしなければならない行為を表しています。
たとえば ⚡ は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。

⚠ 警告

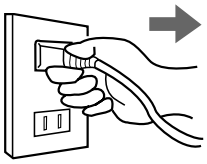
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚡ 煙が出たり変なにおいや音がしたら、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く



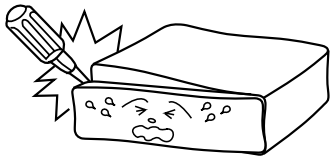
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

⚡ 機器の内部に水や異物が入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く



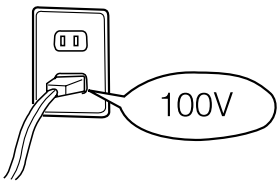
販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

分解禁止 分解・改造を絶対しない（キャビネットをはずすことも含む）



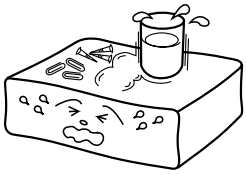
火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

⃠ 電源電圧交流100V以外の電圧で使用しない



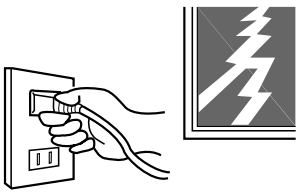
火災・感電の原因となります。
本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。

⃠ 水や金属類を入れたり、ぬらさない



火災・感電の原因となります。
本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。また、本機を水滴などが落ちる場所に設置しないでください。

⃠ 雷が鳴っているときは、アンテナ線や電源プラグに触れない

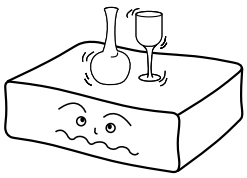


感電の原因となります。

警告

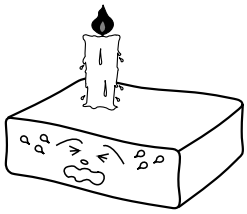
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

陶器やガラス類などを置かない



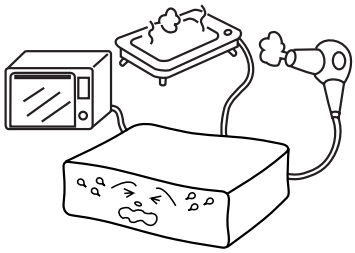
振動により落ちたり、倒れたり、割れたりするとケガをする恐れがあります。

火のついたローソクなどを置かない



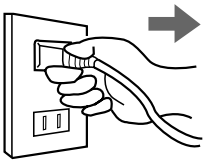
火災・感電の原因となったり、火傷をする恐れがあります。

供給電力を超える消費電力の機器を、電源供給コンセントに接続しない



火災の原因となります。接続機器の消費電力の合計が本機背面に表示されている供給電力を超えないようにしてください。また、供給電力内であっても電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具、ヘアドライヤー、電子レンジなど）は接続しないでください。

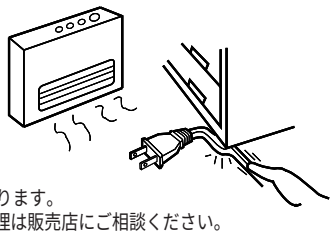
落としたりして本機を損傷した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

電源コード・プラグを破損するようなことをしない

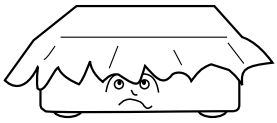
（傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる・ねじる、引っぱる、束ねる、重いものをのせるなどしない）



火災・感電の原因となります。

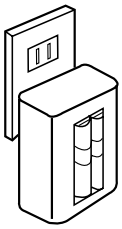
- コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

放熱のため：
布やテーブルクロスをかけない
じゅうたん・カーペットの上には、設置しない
あおむけや横倒しには設置しない
通気性の悪い狭いところへは押し込まない
他の機器とは重ねて設置しない



火災の原因となります。

乾電池は充電しない

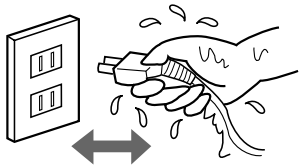


液もれ、破損などを起こし、けが、やけどの原因になります。

⚠ 注意

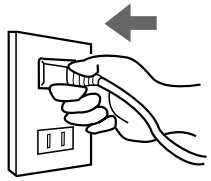
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない



感電の原因となります。

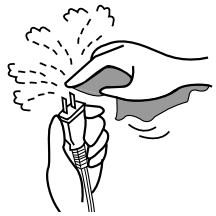
電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。

- 抜くときは必ずプラグを持ち、コードを引っぱらないでください。
- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

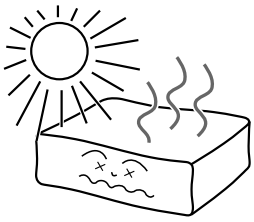
電源プラグのほこりなどは定期的に取り除く



プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に置かない

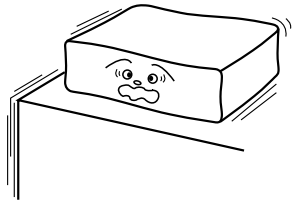


キャビネットや部品に悪い影響を与えたり、内部の温度が上昇し、火災の原因となります。

湿気やほこりの多い場所に置かない

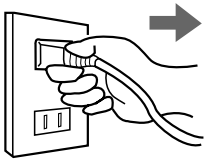
加湿器を使用する場合は、本機との間に十分なスペースをとり、加湿しすぎないようにしてください。本機内部に結露が生じると故障するだけでなく、火災・感電の原因となります。

振動のある場所、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない



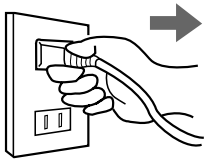
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

各機器を接続する場合は電源プラグを抜き、説明に従って接続する



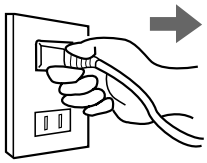
各々の機器の取扱説明書をよく読み、接続には指定のコードを使用してください。

移動するときは電源スイッチを切り、必ず電源プラグを抜き、外部の接続コードを外す



コードが傷つくと火災・感電の原因となります。

お手入れの際は、安全のため電源プラグを抜く

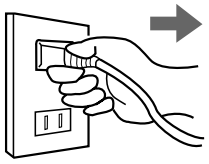


感電の原因となります。

注意

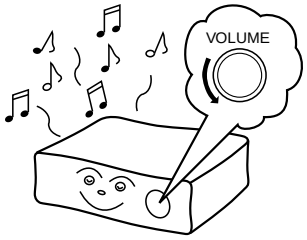
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

長期間使わないときは、必ず電源プラグを抜く



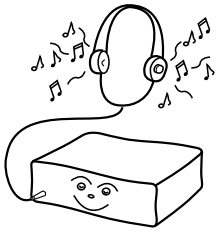
火災の原因となることがあります。

再生を始める前には音量を最小にする



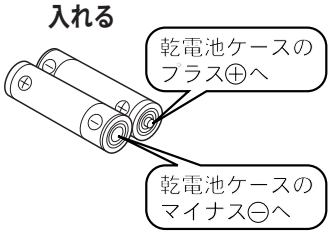
突然大きな音が出て聴力障害などの原因となります。

ヘッドホンを使うときは、音量を上げすぎない



大きな音で聞くと、聴力障害などの原因となります。

付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示（プラス⊕とマイナス⊖）通りに入れる

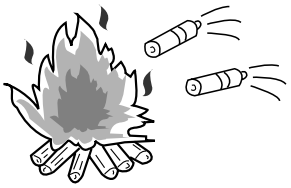


間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

指定以外の乾電池は使用しない

また、種類の違う乾電池、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となります。

乾電池はショート、分解、加熱、火に入れるなどしない



発熱、液もれ、破裂などを起こし、けが、やけどの原因になります。

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。

本機の内部にほこりがたまったまま長い間掃除しないと、火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

目次

本機の特長

特長 2
ご確認ください 3
付属品 3
リモコンの電池の入れ方 3
各部の名称とはたらき 4
フロントパネル 4
リモコン 6
10キーについて 7
リモコンの使用範囲 8
ディスプレイ 9
リアパネル 10

ご使用の前に

スピーカーの設置 11
使用するスピーカー 11
スピーカーの設置場所 11
接続のしかた 12
正しい接続のために 12
オーディオ機器の接続 12
ビデオ機器の接続 14
スピーカーの接続 16
他のアンプとの接続 18
外部デコーダーの接続 18
電源コードの接続 19
オンスクリーン表示 20
表示の種類 20
表示の切り換え 20
スピーカーモードの設定 21
SPEAKER SET 1A～1Eの設定内容 21
スピーカーのレベル調節 22
調節の前に行うこと 22
テストトーン
（TEST DOLBY SUR.） 22

基本操作

再生 24
入力モードと表示 26
音場プログラムの選択 28
通常のステレオ再生 29
FM/AM放送を聴く 30
アンテナの接続 30
選局する 31
放送局のプリセット 32
プリセット選局のしかた 33
プリセット局の入れかえ 34
録音と録画 35

応用操作

セットメニュー 36
セットメニューの操作手順 36
1 SPEAKER SET（スピーカーモードの
設定） 37
2 LOW FRQ TEST（ローフリケンシー
テスト） 39
3 L/R BALANCE（メインスピーカー
バランス） 40
4 HP TONE CTRL（ヘッドホントーン
コントロール） 40
5 CENTER GEQ（センターグラフィック
イコライザー） 40
6 INPUT RENAME（インプットリネーム） 41
7 I/O ASSIGNMENT（入出力アサイン） 41
8 INPUT MODE（初期インプットモード） 41
9 PARAM. INI（パラメーター
イニシャライズ） 41
10 DOLBY D. SET（ドルビーデジタル
セット） 42
11 DTS LFE LEVEL（DTS LFEレベル） 42
12 6.1/ES AUTO（6.1/ESオート） 42
13 SP DELAY TIME（スピーカー
ディレイタイム） 43
14 DISPLAY SET（ディスプレイセット） 43
15 MEMORY GUARD（メモリーガード） 43
エフェクトスピーカーのレベル調節 44
スリープタイマー 45
スリープタイマーの設定 45
スリープタイマーを解除する 45
リモコンで操作する 46
操作ダイヤル 46
操作ダイヤルがどのポジションになっていても
共通に使われるキー 47
外部機器の操作方法 47
操作ダイヤルの各ポジションと使い方 48
メーカーコードの設定 51
新しいリモコン機能のラーニング
（学習機能） 52
工場出荷時の設定に戻すには 53

解説

音場プログラム 54
Hi-Fi DSPプログラム 54
CINEMA DSPプログラム 55
MOVIE THEATERプログラム 58
音場プログラムパラメーターを変更する 59
音場とは 59
音場プログラムパラメーター 59
パラメーター値を変える 60
パラメーターを初期設定値に戻すには 60
デジタル音場パラメーターガイド 61

参考

故障かな？と思ったら 65
仕様 69
メーカーコード一覧表 70

特長

各チャンネルの特性をそろえた高音質ハイパワー5chアンプを搭載

◆ **バランスの良い5chハイパワーアンプ**
定格出力
（20Hz ～ 20kHz、歪率 0.04%、6Ω）
メインチャンネル（L、R）: 100W + 100W
センターチャンネル： 100W
リアチャンネル（L、R）: 100W + 100W

音場処理の心臓部をワンチップ化した「シネマDSPエンジン」内蔵のマルチモードDSP

◆ **各種のデコーダーやDSPによる効果的な音場再生を実現**
◆ デジタルサラウンドフィールドプロセッサー（39音場プログラムのDSP）
◆ ドルビープロロジックデコーダー、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルマトリックス6.1デコーダー
◆ DTS、DTS ESデコーダー
◆ シネマDSP（ヤマハが誇るDSPをドルビープロロジック、ドルビーデジタルおよびDTSにそれぞれ融合させて音場効果を向上させています）
◆ バーチャルCINEMA DSP
◆ サイレントCINEMA DSP

高性能FM / AM チューナー

◆ **使いやすい多機能チューナー**
◆ オートプリセット選局
◆ プリセットされた放送局のエディット機能内蔵

AVアンプにふさわしい多機能構成

◆ **ホームシアターを演出するための機能をフル装備**
◆ 先進の96kHz/24bit D/Aコンバーター
◆ 音場効果を最大限に引き出すための設定ができる15項目のセットメニュー
◆ 調整や設定を分かりやすくするオンスクリーン表示
◆ マルチスピーカーのレベル設定を容易にするトーンジェネレーター
◆ DVDオーディオやその他の音場再生デコーダーにも対応できる6CH INPUT端子
◆ より充実した低音特性が得られるBASS EXTENSIONスイッチ
◆ 鮮明な画像が得られるSビデオ端子（IN/OUT）とコンポーネントビデオ端子（IN/OUT）
◆ デジタル音声信号をダイレクトに接続できるOPTICAL（光）端子（IN/OUT）とCOAXIAL（同軸）端子（IN）
◆ 音楽をお聴きになりながらおやすみいただけるスリープタイマー
◆ メーカーコードの設定およびラーニング（学習）機能付きリモコン

● は操作上のアドバイスなど補足的な説明です。
● 本書では本体とリモコンのどちらでも操作できるが、本体とリモコンのボタン名が異なる場合はリモコンのボタン名を括弧内に表記しています。

これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

DOLBY DIGITAL
ドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY、AC-3、ドルビーデジタル、PRO LOGIC、サラウンドEX、およびダブルD記号 DD は、ドルビーラボラトリーズの商標です。非公開機密著作物。著作権1992～1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。

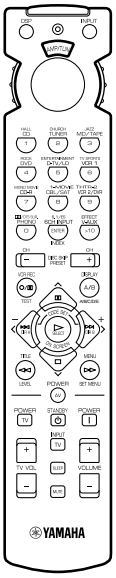
DIGITAL dts SURROUND
DTS Technology LLCからのライセンスに基づき製造されています。さらに、以下のPCT（特許協力条約）/US95/0059 に由来する米国特許5,451,942および米国国内特許出願によるライセンスを受けています。米国特許および外国特許を追加出願中です。“ DTS ” は DTS Technology LLC の商標です。なお、これらの一部または全部を許可なしに複製することはできません。

ご確認ください

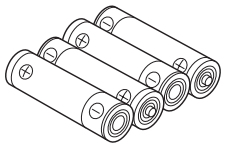
付属品

同梱されている付属品を確認してください。

リモコン

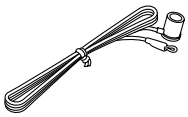


マンガン単4乾電池（R3）（4本）

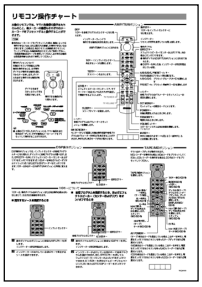


AMループアンテナ

FM簡易アンテナ

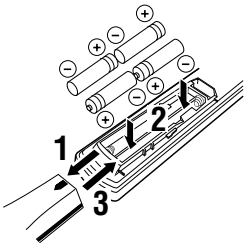


リモコン操作チャート



リモコンの電池の入れ方

リモコンの裏蓋を開けます。付属の単4乾電池（4本）を、リモコンの電池ケース内の表示に従って、プラス（＋）とマイナス（－）の向きを間違えないように、正しく入れます。裏蓋を閉めます。



■ 乾電池についてのご注意

- 消耗した乾電池は早めに交換してください。
- 新しい乾電池と、一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の異なる乾電池（アルカリとマンガンなど）を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。

■ 乾電池の交換

乾電池が消耗すると、リモコンの操作可能距離が極端に短くなったり、キーを押してもインジケーターが点滅しなくなったり、インジケーターが暗くなります。このような場合は全て新しい乾電池に交換してください。

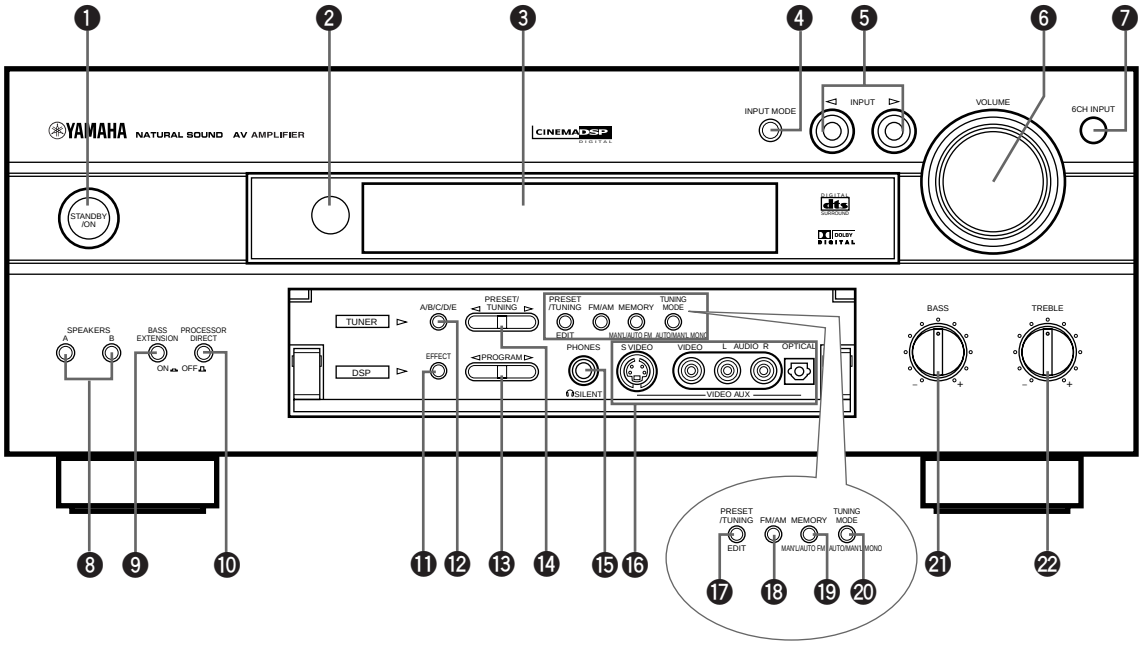
> 電池を外したまましばらく（2分以上）放置したり、消耗した乾電池をリモコンにそのまま入れておくと、メモリー内容が消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新しいものに交換して、メーカーコードをセットアップし再度学習させてください。

ご注意

- 乾電池が液漏れをした場合はただちに破棄してください。漏れた液にふれたり衣類などに付着しないようにしてください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。

各部の名称とはたらき

フロントパネル



❶ STANDBY/ONスイッチ

本機の電源をオン/オフします。電源を入れてから数秒間は音が出ません。

❷ リモコン受光窓

付属リモコンのコントロール信号を受光します。

❸ ディスプレイ

プログラムの名称や、パラメーターなどの動作状況を表示します(P9参照)。

❹ INPUT MODEキー

本機に2種類以上の信号を同時に入力する時に入力信号のモードを選択します(P26参照)。6CH INPUT端子の入力信号のモードは選択できません。

❺ INPUT ⊲/⊳ キー

再生するソース(DVD、D-TV/LD、CBL/SAT、VCR 1、VCR 2/DVR、V-AUX、PHONO、CD、TUNER、CD-R、MD/TAPE)を選択します。

❻ VOLUMEコントロール

全体の音量を調節します。REC OUTレベルには影響しません。

❼ 6CH INPUTキー

6CH INPUT端子に接続したディスクリート信号を再生します。このキーで選択されたソースはINPUT⊲/⊳キーで選択されたものより優先されます。

❽ SPEAKERS A/Bスイッチ

メインスピーカーA、Bを選びます。

❾ BASS EXTENSION ON/OFFスイッチ

スイッチを押してONにすると、メインL、Rの低域を全体のトーンバランスを保持したまま+6dB(60Hz)強調することができます。サブウーファーを使用しない場合に効果的です。但し、セットメニュー「1B MAIN SP」がSMALLに、「1D LFE/BASS OUT」がSWFRに設定されている場合はあまり効果はありません。

❿ PROCESSOR DIRECT ON/OFFスイッチ

スイッチを押してONにするとBASSコントロール、TREBLEコントロールおよびBASS EXTENSIONスイッチがバイパスされ、よりソースに忠実な再生が可能になります。

⓫ EFFECTキー

エフェクトスピーカー（センターとリア）をオン／オフします。EFFECTキーでこれらのスピーカーをオフにすると、ドルビーデジタルやDTS再生では、LFEを除くすべてのチャンネルをメインL、Rにミックスします。ドルビーデジタルやDTS信号がミックスされると、メインL、Rのレベルが調和しないことがあります。

⓬ A/B/C/D/Eキー

FM/AM放送を聴くとき、プリセットグループ（A、B、C、D、E）を選びます。

⓭ PROGRAM ◁ / ▷ キー

音場プログラムを選択します（P28参照）。

⓮ PRESET/TUNING ◁ / ▷ キー

バンド（FMまたはAM）表示の隣にコロン（:）が点灯しているときは、1〜8番のプリセット局番号を選べます。
コロン（:）が点灯していないときは選局できます。

⓯ PHONES端子

ヘッドホンを接続します。深夜のプライベートリスニングの際は、ヘッドホンのご使用をお勧めします。ヘッドホンを接続すると、信号はOUTPUT端子に出力されません。また、すべてのスピーカーから音は出ません。

⓰ VIDEO AUX端子

ゲーム機などを接続する予備入力端子です。

⓱ PRESET/TUNING（EDIT）キー

PRESET/TUNING ◁/▷ キーの機能（プリセット番号の選択か選局）を切りかえます。（コロン（:）の点灯・消灯）
プリセット局の入れかえをするときもこのキーを押します。

⓲ FM/AMキー

FM放送、AM放送を切り換えます。

⓳ MEMORY（MAN ℓ/AUTO FM）キー

受信した放送局をプリセットします。3秒以上キーを押すと、オートプリセットができます。

⓴ TUNING MODE（AUTO/MAN ℓ MONO）キー

マニュアルチューニング（手動選局）またはオートチューニング（自動選局）を選びます。オートチューニングにする場合は、このキーを押してAUTOインジケーターを点灯させます。マニュアルチューニングにする場合は、AUTOインジケーターを消します。

㉑ BASSコントロール

メインL、Rの低音域を調節します。右（＋）に回すと低音域が強調され、左（－）に回すと減衰されます。

㉒ TREBLEコントロール

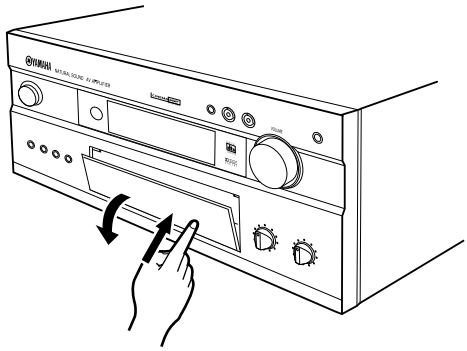
メインL、Rの高音域を調節します。右（＋）に回すと高音域が強調され、左（－）に回すと減衰されます。

ご注意

- トーンコントロールにより、メインチャンネルを極端にブースト（増強）、またはカット（減衰）した場合、フロントとリア（エフェクト）との音のつながりが悪くなることがあります。

■ フロントパネルドア

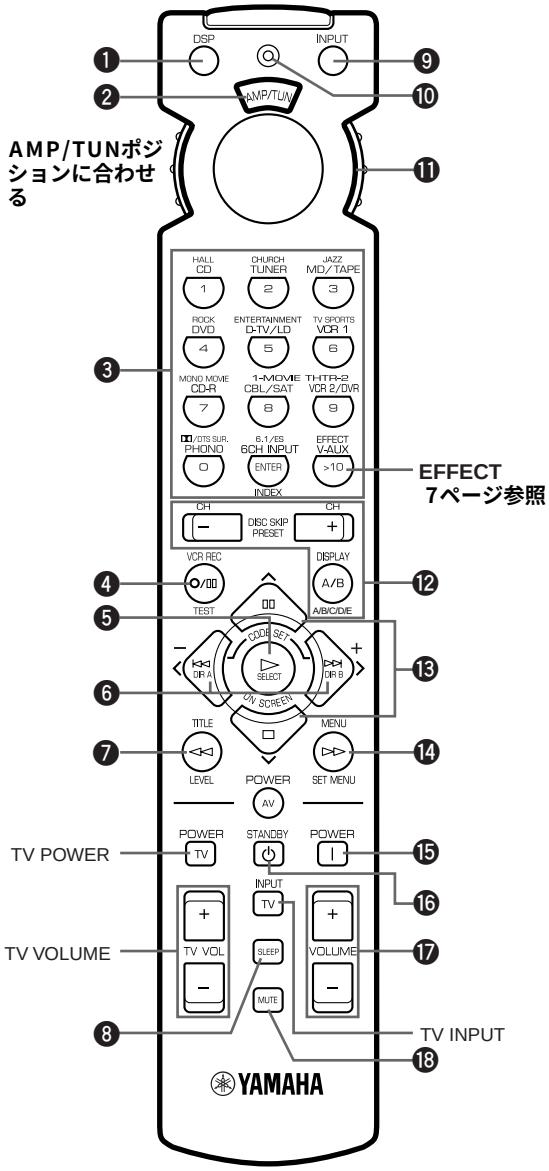
フロントパネルドア内のコントローラーを使用しないときは、ドアを閉めておきます。



ドアの下部を押すとドアが開きます。閉めるときはドアを持ち上げるようにして閉めてください。

リモコン

リモコンによる本機の基本操作について説明します。まず、操作ダイヤルを回してAMP/TUN表示（ポジション）にします。詳しくは46ページから53ページの“ リモコンで操作する ”をご覧ください。



❶ DSPキー
10キーを音場プログラムセレクターに切り換えます（P7参照）。

❷ インジケーターウィンドウ
操作できる機器の名前を表示します。

❸ 10キー（インプットセレクター）
再生するソースを選択します。
10キーについては7ページと8ページを参照してください。

❹ TESTキー
テストトーンを出力します。

❺ ON SCREENキー
モニター（テレビ）画面に本機の操作状態や音場プログラムのパラメーター内容などを表示することができます。押すたびに表示モードが切り換わります。

❻ ＜/＞キー
音場プログラムのパラメーターとセットメニューを調整します。

❼ LEVELキー
エフェクトスピーカー（センター、リア、サブウーファー）の出力レベルをそれぞれ独立して調節できるようにします。

❽ SLEEPキー
スリープタイマーを設定します。

❾ INPUTキー
10キーをインプットセレクターに切り換えます（P7参照）。

❿ インジケーター
リモコンが信号を送信している間、点滅します。

⓫ 操作ダイヤル
ダイヤルを回して、操作する機器を選びます。機器の正しいコードが設定されていなければなりません。51ページの“ メーカーコードの設定 ”を参照してください。機器（ポジション）を選択すると、リモコンはその機器の操作モードになります。

⓬ A/B/C/D/Eキー、PRESET –/+キー
FM/AM放送のプリセット局を選びます。
A/B/C/D/E:　プリセットグループ（A～E）を選択します
PRESET–/+:　プリセット局の番号（1～8）を選択します

⓭ ∧/∨キー
音場プログラムのパラメーターとセットメニューの項目を選択します。

⓮ SET MENUキー
セットメニューの設定モードに入ります。

⓯ POWERキー
本機の電源を入れるときに押します。

⓰ STANDBYキー
電源を切るときに押します。

⑰ VOLUME +/– キー

スピーカーシステム全体の音量を調整します。

⑱ MUTEキー

押すと消音されます(−∞dB)。もう一度押すと、もとの音量に戻ります。

EFFECTキー

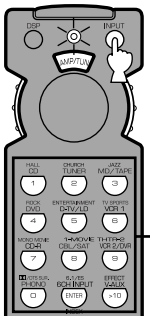
エフェクトスピーカー(センターおよびリア)を、次の場合にオン/オフできます。

- 操作ダイヤルをDSP/TUNポジションに合わせてあるとき。
- DSPキーを押した後、インジケーターが約3秒間点灯している間。

10キーについて

10キーは、操作ダイヤルのポジションまたは他の操作の組み合わせに応じて、さまざまな機能を持ちます。

■ 再生するソースを選択するとき

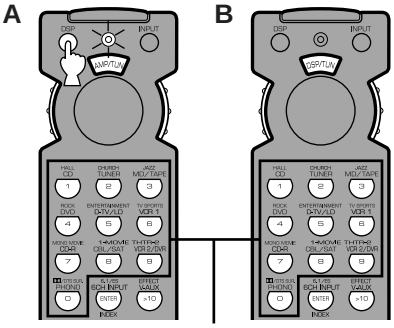


1 操作ダイヤルのポジションに関係なく、INPUTキーを押します。

インジケーターが約3秒間点灯します。

2 インジケーターが点灯している間、10キーで再生するソースを選択できます。

■ 音場プログラムを選択するとき、およびエフェクトスピーカー(センターおよびリア)をオン/オフするとき



A

1 操作ダイヤルのポジションに関係なく、DSPキーを押します。

インジケーターが約3秒間点灯します。

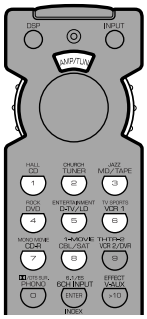
2 インジケーターが点灯している間、10キーで音場プログラムを選択できます。また、EFFECTキーを押してエフェクトスピーカー(センターおよびリア)をオン/オフできます。6.1/ESキーを押せば、ドルビーデジタルマトリックス6.1またはDTS ESデコーダーをオン/オフできます。

B

1 操作ダイヤルをDSP/TUNポジションにします。

2 音場プログラムを直接、10キーで選択できます。また、EFFECTキーを押してエフェクトスピーカー(センターおよびリア)をオン/オフできます。6.1/ESキーを押せば、ドルビーデジタルマトリックス6.1またはDTS ESデコーダーをオン/オフできます。

■ チューナーのプリセット局番を選択するとき



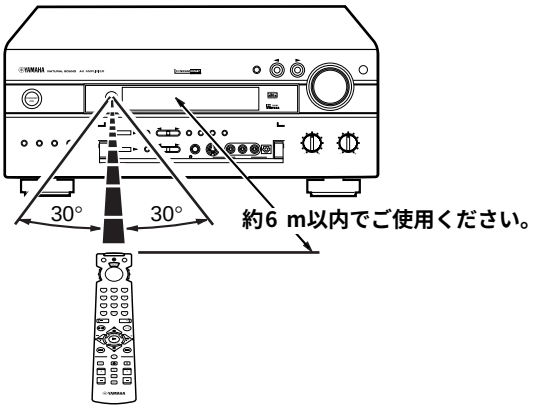
1 **AMP/TUN(またはDSP/TUN)ポジションにしてコード“ 0023 ”を設定します。**

コードの設定については51ページを参照してください。

2 **操作ダイヤルをAMP/TUN(またはDSP/TUN)ポジションにします。**

3 **プリセット局番を直接、10キー(1〜8)で選択できます(P34参照)。**

リモコンの使用範囲

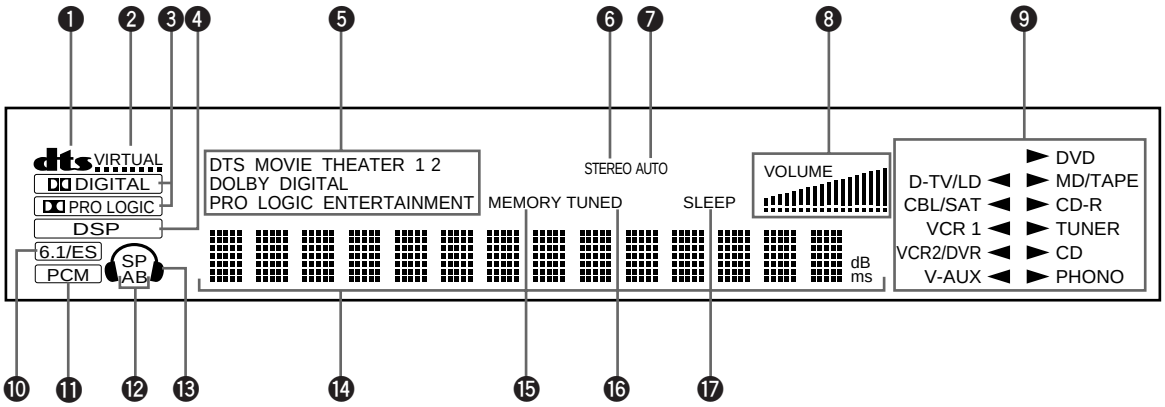


リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。

■ リモコンの取り扱い

- 水やお茶をこぼしたり、落としたりしないでください。
- 下記のような場所には置かないよう、ご注意ください。
  - ストーブのそばや風呂場など、温度・湿度の高いところ。
  - ほこりの多いところ。
  - 極端に寒いところ。

ディスプレイ



❶ dts インジケーター
DTSデコーダーが動作すると点灯します。

❷ VIRTUALインジケーター
バーチャルCINEMA DSP時に点灯します(P29参照)。

❸ DIGITAL 、PRO LOGIC インジケーター
本機に入力されたドルビーデジタル信号によって点灯します。ドルビーデジタルデコーダーが動作すると“DIGITAL”が、ドルビープロロジックデコーダーが動作すると“PRO LOGIC”が点灯します。

❹ DSP インジケーター
DSP音場プログラムを選択すると点灯します。

❺ 音場プログラムインジケーター
音場プログラムのENTERTAINMENT、MOVIE THEATER 1、MOVIE THEATER 2、およびDD/DTS SURROUNDを選択したとき各々のインジケーターが点灯します。

❻ STEREOインジケーター
AUTOインジケーターが点灯しているときに、電波の強いFMステレオ放送を受信すると点灯します。

❼ AUTOインジケーター
チューナーの選局モードをオートにすると点灯します。

❽ VOLUMEインジケーター
音量レベルを表示します。音量が大きくなるにつれて右側に表示が増えて行きます。

❾ 入力ソースインジケーター
インプットセレクターで選んだソースの◀または▶インジケーターが点灯します。

❿ 6.1/ES インジケーター
ドルビーデジタルマトリックス6.1デコーダーまたはDTS ESデコーダーが動作すると点灯します。

⓫ PCM インジケーター
PCM信号を入力すると点灯します。

⓬ SP A/Bインジケーター
SPEAKERS A/Bスイッチで選んだメインスピーカーを表示します。

⓭ ヘッドホンインジケーター
PHONES端子にヘッドホンを接続すると点灯します。

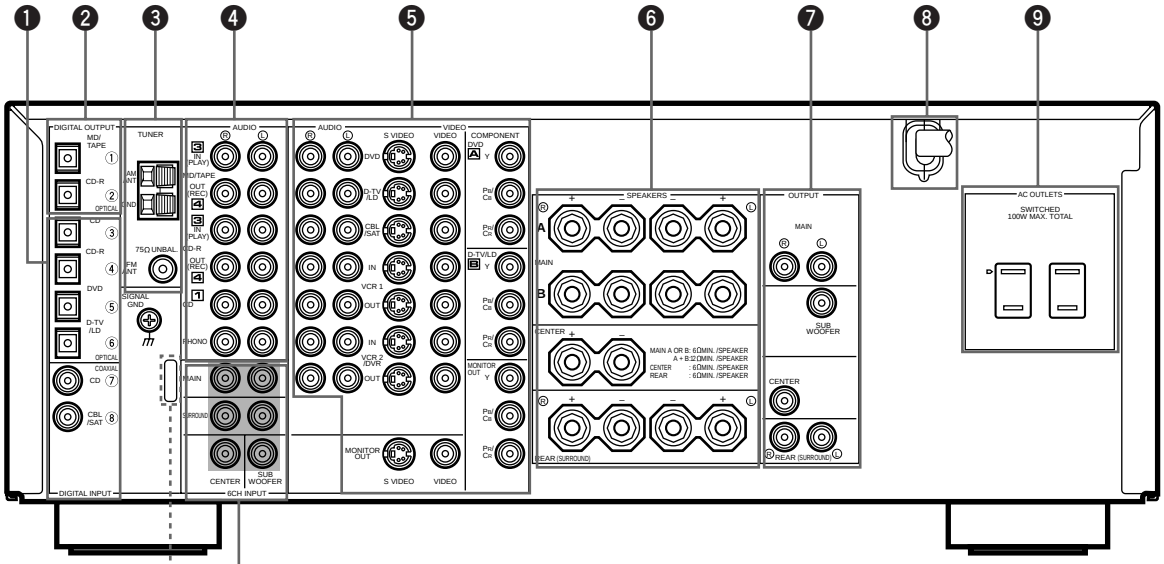
⓮ 音場プログラム名/設定値表示/周波数表示
通常は選択した音場プログラム名が表示されています。また、スピーカーレベルやパラメーター、セットメニューなどのさまざまな設定値を、各々の操作に応じて表示します。なお、FM/AM放送を受信するときには放送局の周波数やプリセット番号を表示します。

⓯ MEMORYインジケーター
FM/AM放送の放送局をプリセットするときMEMORYキーを押すと点滅します。

⓰ TUNEDインジケーター
FM/AM放送が選局されたとき点灯します。

⓱ SLEEPインジケーター
スリープタイマーの動作中に点灯します。

リアパネル



工場検査用の端子ですのでご使用にはなれません。 ❿

❶ デジタル入力端子

❷ デジタル出力端子

❸ アンテナ端子

接続については30ページを参照してください。

❹ オーディオ機器 入・出力端子

接続については12と13ページを参照してください。

❺ ビデオ機器 入・出力端子

接続については14と15ページを参照してください。

❻ スピーカー端子

接続については16と17ページを参照してください。

❼ OUTPUT端子

接続については18ページを参照してください。

❽ 電源コード

壁面などのしっかりしたコンセントにつないでください。

❾ 予備電源コンセント

電源スイッチ連動の電源コンセントです（P19参照）。

❿ 6CH INPUT端子

外部デコーダーの出力をつなぎます。

接続については13と18ページを参照してください。

スピーカーの設置

使用するスピーカー

本機はメインスピーカーL、R（2本）、センタースピーカー（1本）、リアスピーカーL、R（2本）の5スピーカーシステムを使って最良の音場効果が得られるよう設計されています。各スピーカーの再生音色が異なると、移動する人物の声など（音色）が不自然に変化することがあります。できるだけ、メーカーや音色の揃ったスピーカーの使用をお勧めします。

メインスピーカーはメインの音声と効果音を出力し、リアスピーカーはサラウンドと効果音を、センタースピーカーは会話やボーカルなど画面中央に定位する音を出力します。センタースピーカーを使用しなくても十分な効果は得られますが、5スピーカーシステムにおいて、最も良い音響効果が得られます。

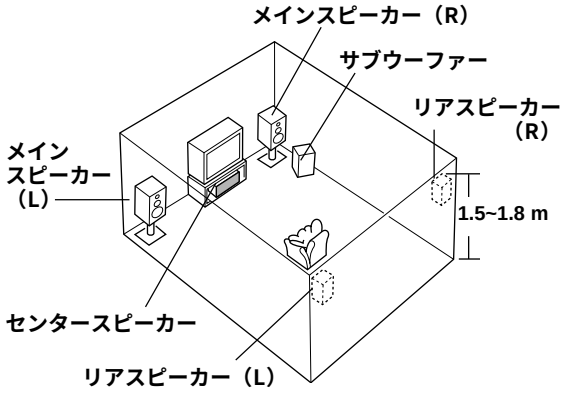
メインスピーカーはできるだけオーディオ機器からの最大出力に対応できるものをお使いください。その他のスピーカーはメインスピーカーと同等である必要はありませんが、再生するソフトを効果的に表現するためには、高性能のスピーカーシステムをご使用ください。

■ サブウーファーの設置

サブウーファーをご使用になると、さらに音響効果を向上させることができます。サブウーファーは低音を強調するだけでなく、ドルビーデジタルやDTS信号を正確に再現することができます。臨場感の優れた低音出力にはヤマハ アクティブサーボ スーパーウーファーシステムのご使用をお勧めします。

スピーカーの設置場所

下図を参考の上、スピーカーを設置してください。



■ メインスピーカー

ステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。モニター（テレビ）を設置している場合は、左右のスピーカーとモニター（テレビ）の距離を等しく設置します。

■ リアスピーカー

後方斜め、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。フロアーに直接座って聴く場合は、床から約1.5m、椅子に座って聴く場合は、床から約1.8mの高さが適当です。

■ センタースピーカー

メインスピーカーの中間に設置します。モニター（テレビ）を設置している場合は、モニター（テレビ）画面とスピーカーの前面を揃え、モニター（テレビ）の上や下など、できるだけモニター（テレビ）画面に近いところの中央に設置します。

ご注意

- センタースピーカーをご使用にならないときは、センターチャンネルからの音声はメインスピーカーL、Rに振り分けられます。この場合、セットメニューの「1A CENTER SP」をNONEに設定してください（P38参照）。

■ サブウーファー

左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐために少し内振りに設置します。低音の聴こえ方は、スピーカーを置く位置と聴く位置の両方に影響されるので、設置する位置を変えてお試しください。

注意!

スピーカーによっては、モニター（テレビ）の画面が乱れる場合があります。（画面が乱れた場合は、モニター（テレビ）とスピーカーを離してください。）画面近くに設置するセンタースピーカーやサブウーファーには、防磁型スピーカーの使用をお勧めします。

接続のしかた

正しい接続のために

注意!

接続の際は、必ず本機および接続する機器の電源を切ってください。

- 右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、入力(IN)、出力(OUT)を確認して正しく接続してください。接続する機器によっては接続方法や端子名が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。
- ヤマハCDプレーヤー、テープデッキなどとシステム接続する場合は、各機器と本機の同じ番号(1、3、4など)のついた端子を接続してください。端子番号は今後発売されるヤマハオーディオ機器にも表示される予定です。
- 接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

オーディオ機器の接続

■ デジタル端子の接続

本機は、アナログ端子の他にデジタル信号をダイレクトに接続できるデジタル端子(COAXIAL[同軸]/OPTICAL[光])を装備しています。(デジタル端子はPCM/ドルビーデジタル/DTS兼用です。)COAXIAL端子とOPTICAL端子から同時にデジタル信号が入力されると、COAXIAL端子からの入力信号を優先します。本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数32kHzの衛星放送AモードからCDやMDディスクの44.1kHz、衛星放送BモードとDVDディスクの48kHzに対応しています。また、DVDディスクの96kHzにも対応しています(P25参照)。

- デジタル入力端子の入力機器の設定をセットメニュー「7 I/O ASSIGNMENT」で変更することもできます(P41参照)。

防塵キャップについて

光ファイバーケーブルを接続する場合は、OPTICAL端子に付いているキャップを抜いてから接続してください。また、抜いたキャップは大切に保管し、端子を使用しない場合は必ずキャップを差し込んでください。(ほこりなどの侵入を防ぎます。)

ご注意

- 本機のOPTICAL端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、正常に動作しないことがあります。

■ レコードプレーヤーの接続

MMカートリッジ、または高出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続します。低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続する場合は、昇圧トランス、またはMCヘッドアンプを使用してPHONO端子に接続してください。

- SIGNAL GND端子は、安全アースではありません。アナログプレーヤーなどを接続した場合の雑音を低減するものです。(レコードプレーヤーによっては、まれにアース線をSIGNAL GND端子に接続しない方がハムノイズが減少することがあります。)

■ CDプレーヤーの接続

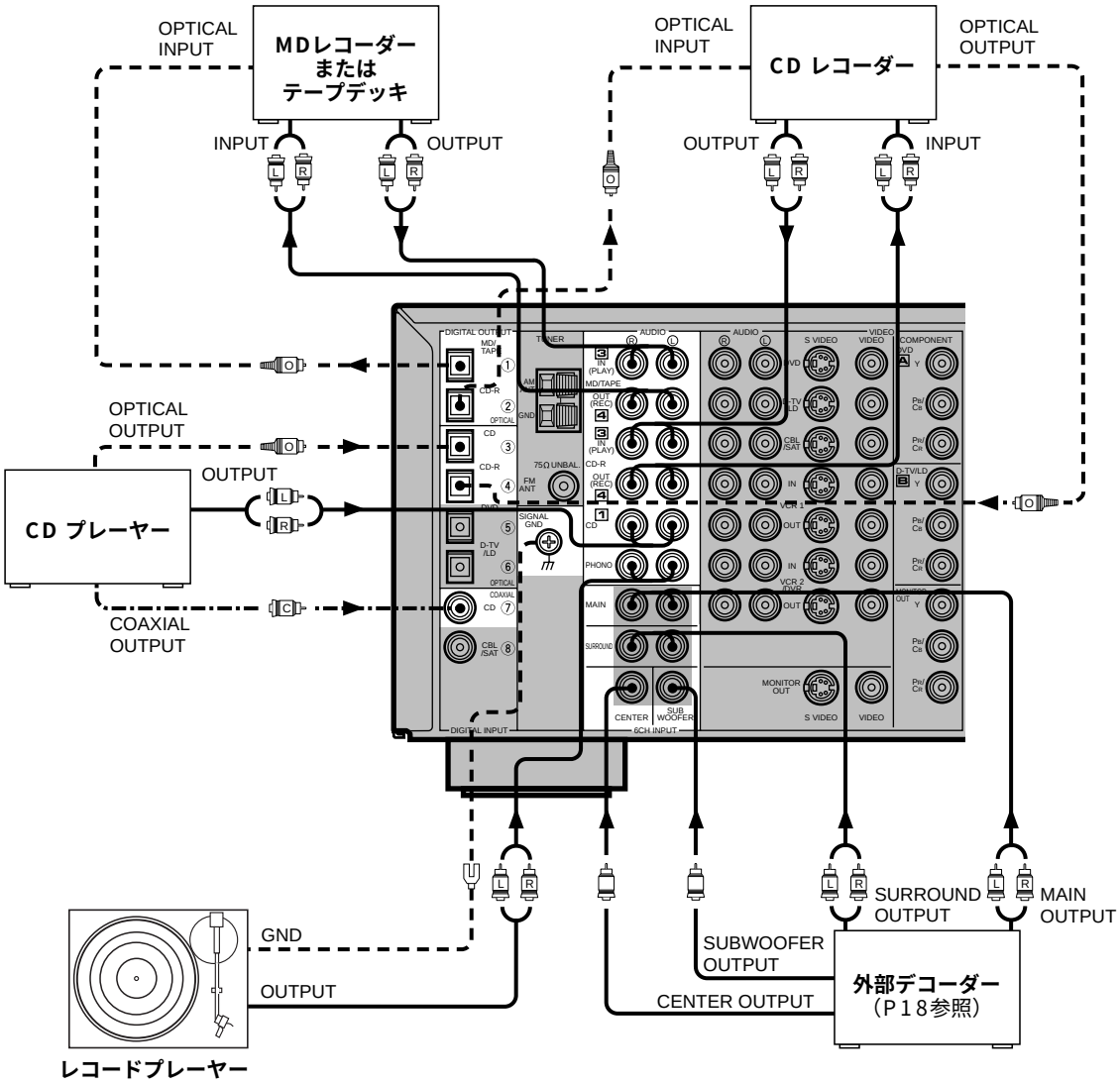
- CDプレーヤーにOPTICALデジタル出力端子がある場合は、本機のOPTICAL CD端子とつなぎます。COAXIALデジタル出力端子がある場合は、本機のCOAXIAL CD端子とつなぎます。
- CDのCOAXIAL端子とOPTICAL端子に同時に信号が入るとCOAXIAL端子の入力信号が優先されます。

■ MDレコーダー、テープデッキまたはCDレコーダーの接続

- CDまたはDVDなどのデジタル信号だけがDIGITAL OUTPUT端子から出力されます。
- 録音機器をアナログとデジタルの入出力端子に接続した場合は、デジタル信号が優先されます。
- MDレコーダーは、セットメニューの「7 I/O ASSIGNMENT」(P41参照)を用いてデジタル入力端子に接続することができます。

ご注意

- 本機の使用中に録音機器が接続してあるときは、録音機器の電源を入れたままにしてください。録音機器の電源が切れていると、本機の音が歪むことがあります。
- 本機の電源が切れているときに、本機に接続されている再生機器から録音すると、録音された音に歪みが生じることがあります。本機の電源を入れた状態でご使用ください。



信号の流れ

アナログ音声左（L）接続コード

アナログ音声右（R）接続コード

光デジタル接続コード

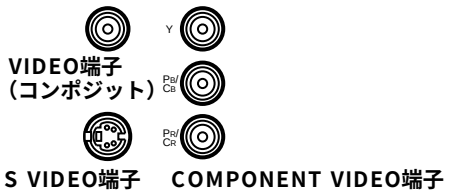
同軸デジタル接続コード

ビデオ機器の接続

■ ビデオ端子について

本機には3種類のビデオ端子が備えられています。VIDEO端子はコンポジット信号を伝送します。S VIDEO信号は、ビデオ信号（コンポジット信号）の輝度を表わす信号（Y信号）と、色を表わす信号（C信号）に分けて伝送する方式です。S VIDEO端子を利用すると映像信号をロスなく伝え、より美しい映像で録画・再生が行えます。COMPONENT VIDEO端子はビデオ信号を、輝度を表す信号（Y信号）と色を表す信号（PB/CBおよびPR/CR信号）の3系統に分けて伝送します。それぞれが独立しているため、色をより忠実に再現します。COMPONENT VIDEO端子の表記には、“Y、PB、PR”、“Y、CB、CR”や“Y、B-Y、R-Y”などがあります。本機には端子名にかかわらず接続できます。これらの信号を正しくモニターに表示するためにはモニターおよび再生機器の取扱説明書を参照してください。

お使いのビデオ機器のSビデオ出力、コンポーネントビデオ出力を本機に接続できます。Sビデオ出力をS VIDEO端子に、コンポーネントビデオ出力をCOMPONENT VIDEO端子に接続してください。



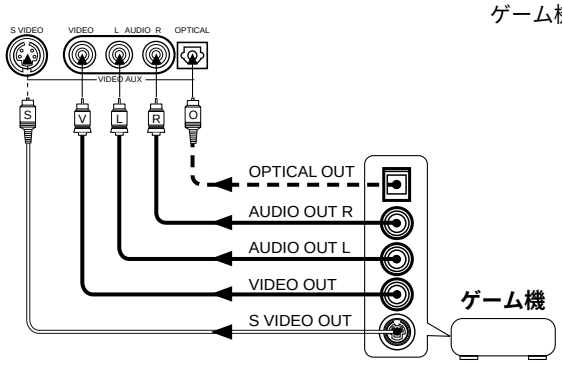
- 本機では、COMPONENT VIDEO端子、S VIDEO端子とピンジャックのVIDEO端子間は独立しています。ピンジャックから入った信号はピンジャックに、S VIDEO端子から入った信号はS VIDEO端子に、COMPONENT VIDEO端子から入った信号はCOMPONENT VIDEO端子に出力されます。
- S VIDEO端子に接続している場合、VIDEO端子に接続する必要はありません。両方に接続している場合はSビデオ信号が優先されます。
- COMPONENT VIDEO A、B端子の入力機器の設定をセットメニュー「7 I/O ASSIGNMENT」で変更することもできます（P41参照）。
- 本機のS VIDEO端子はS1、S2規格には対応していません。

ご注意

- S VIDEOおよびCOMPONENT VIDEO端子の接続にはそれぞれ専用のビデオケーブル（市販）を用意してください。
- COMPONET VIDEO端子に接続した機器の操作については、その機器の取扱説明書をご覧ください。

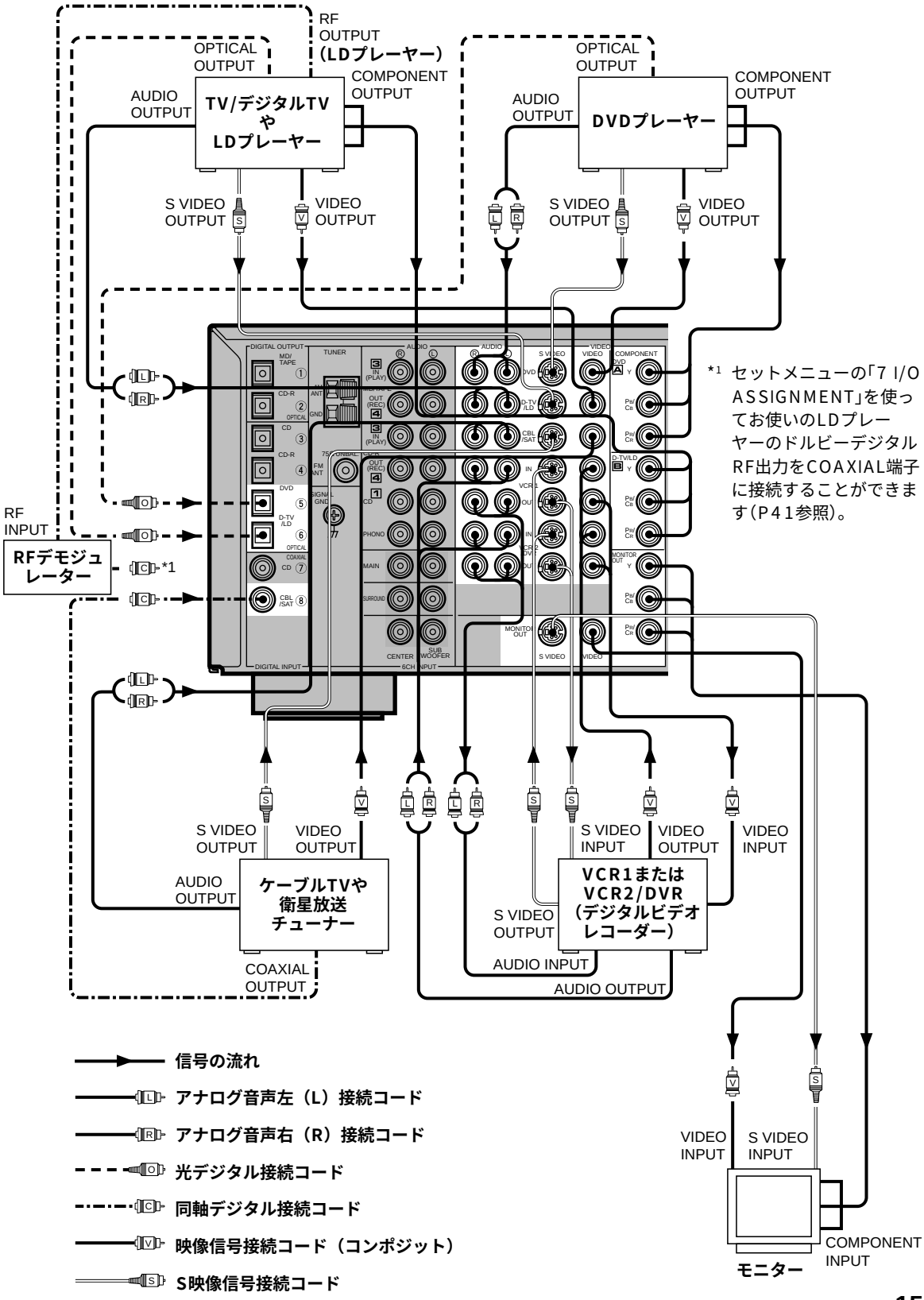
■ VIDEO AUX端子（フロントパネル）

ゲーム機などを接続する予備入力端子です。



ご注意

● お使いのLDプレーヤーにドルビーデジタルRF出力がある場合、RFデモジュレーターを使用して本機に接続してください。



*1 セットメニューの「7 I/O ASSIGNMENT」を使ってお使いのLDプレーヤーのドルビーデジタルRF出力をCOAXIAL端子に接続することができます(P41参照)。

スピーカーの接続

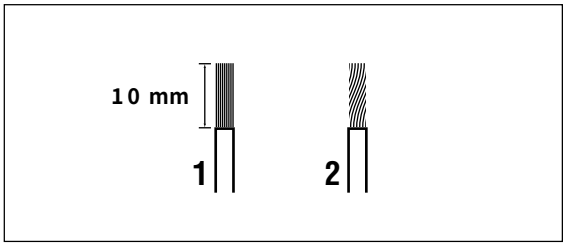
接続する際に、右チャンネル（R）、左チャンネル（L）、“ ＋ ”（赤）、“ － ”（黒）を確認して正しく接続してください。極性（＋、－）を間違えて接続した場合、不自然な再生音になります。

注意!

- スピーカーコードを接続する場合、ショートしないように注意してください。ショートした状態で電源を入れると、保護回路が働いて自動的に電源が切れますが、故障の原因になる恐れがあります。
- 接続するスピーカーのインピーダンスは6Ω以上のものを使用してください。メインスピーカーA、Bを同時に鳴らす場合は、1台につき12Ω以上のものを使用してください。それ以下のインピーダンスのスピーカーを使用すると、保護回路が働いたり、故障する恐れがあります。

接続後、必要ならばご使用になるスピーカーの数や性能に応じてセットメニューのスピーカーモードを設定してください。

■ スピーカーコード

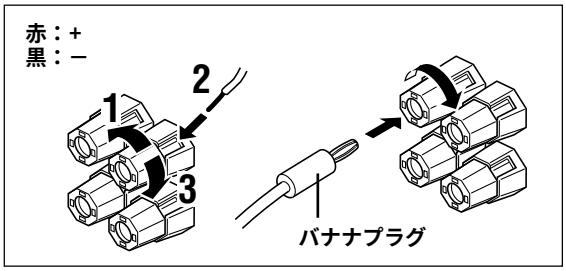


一般的にスピーカーコードは、平行した2本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの1本は極正を判別するために異なった色またはラインが入っています。

1 **スピーカーコード先端の絶縁部（被覆）を10mm位はがします。**

2 **ショートを防ぐために、芯線をしっかりとよじります。**

■ スピーカー端子の接続



1 **スピーカー端子を左に回してゆるめます。**

2 **スピーカー端子のわきの穴にスピーカーコードの芯線を差し込みます。**

3 **スピーカー端子を右に回して締め付けてください。**

- 市販のバナナプラグを使用する場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。

■ MAIN SPEAKERS端子

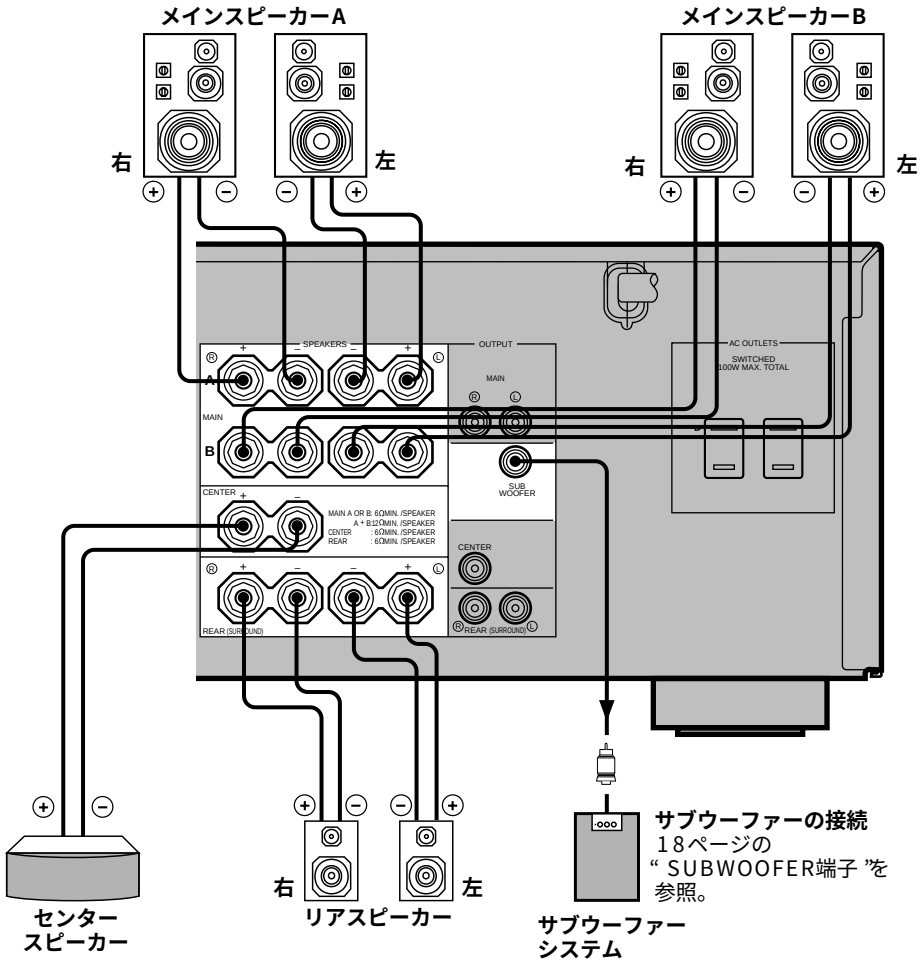
2組のスピーカーまで接続することができます。1組のスピーカーをご使用の場合は、MAIN AまたはB端子のどちらかに接続してください。

■ REAR SPEAKERS端子

リアスピーカーシステムを接続します。

■ CENTER SPEAKER端子

センタースピーカーを接続します。

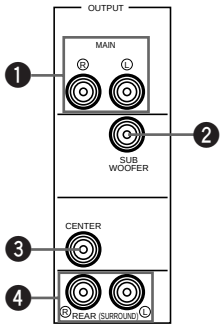

メインスピーカーA
メインスピーカーB
右
左
右
左
SPEAKERS
OUTPUT
AC OUTLETS
SWITCHED
100W MAX. TOTAL
MAIN
A
B
CENTER
MAIN A OR B: 6ΩMIN. /SPEAKER
A + B:12ΩMIN. /SPEAKER
CENTER : 6ΩMIN. /SPEAKER
REAR : 6ΩMIN. /SPEAKER
SUB
WOOFER
REAR (SURROUND)
センター
スピーカー
右
左
リアスピーカー
サブウーファーの接続
18ページの
“ SUBWOOFER端子 ”を
参照。
サブウーファー
システム

他のアンプとの接続

スピーカー出力をパワーアップする場合や、お手持ちのアンプを使用する場合などは、OUTPUT端子と外部パワーアンプ（プリメインアンプ）を接続します。

ご注意

- 他のアンプへ出力するためにRCAピンプラグをOUTPUT端子に接続したときは、対応するスピーカー端子を使用しないでください。



❶ MAIN端子

メインL、Rチャンネルの信号を出力します。外部のパワーアンプ（プリメインアンプ）を接続して、メインスピーカーを駆動する場合に使用します。

ご注意

- この端子から出力される信号には、BASSコントロール、TREBLEコントロール、BASS EXTENSIONスイッチの設定が効きます。

❷ SUBWOOFER端子

ヤマハ アクティブサーボ スーパーウーファーシステムなどのアンプ内蔵サブウーファーを使用するときは、この端子につなぎます。

メイン、センターおよびリアチャンネルからの低音信号はこの端子に送られます（90Hz以下）。ドルビーデジタルやDTSデコード時のLFE信号もこの端子に出力されます。

ご注意

- サブウーファーの音量はサブウーファーで調節してください。本機でサブウーファーの音量レベル調節はできません。
- セットメニュー「1 SPEAKER SET」、「10A LFE LEVEL」、「11 DTS LFE LEVEL」の設定によってはSUBWOOFER端子から出力されない信号もあります。

❸ CENTER端子

センターチャンネルの信号を出力します。外部のパワーアンプ（プリメインアンプ）を接続して、センタースピーカーを駆動する場合に使用します。

❹ REAR（SURROUND）端子

リア・エフェクトチャンネルの信号を出力します。外部のパワーアンプ（プリメインアンプ）を接続して、リア・エフェクトスピーカーを駆動したい場合に使用します。

外部デコーダーの接続

6CH INPUT端子に6（5.1）チャンネル外部デコーダー、プロセッサーやプリアンプなどを接続することができます。

外部デコーダーの出力端子を6CH INPUT端子につなぎます。メイン、サラウンドチャンネルの入出力のL、R端子が正しく接続されているか確認してください。

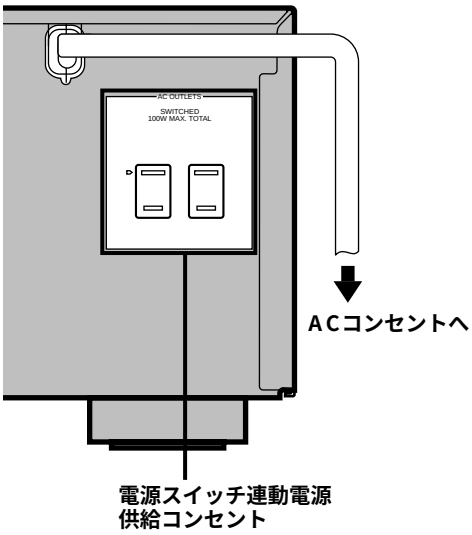
ご注意

- 外部デコーダーからの入力音声には、本機の音場効果はかかりません。
- 6CH INPUT端子から入力した信号には、スピーカーモードの設定（セットメニューの1Aから1E）は適応されません。

電源コードの接続

すべての接続が終わったら、家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントに電源プラグを接続してください。本機の消費電力は230Wです。
接続する時、電源プラグの向き（極性）によって音が変わることがあります。お好みの向きでご使用ください。

■ AC OUTLETS SWITCHED（電源供給コンセント）



外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントで、本機の電源スイッチと連動しています。合計で消費電力100Wまでのオーディオ機器に、電源を供給することができます。
接続する時、電源プラグの向き（極性）によって音が変わることがあります。お好みの向きでご使用ください。

オンスクリーン表示

本機にモニター（テレビ、またはプロジェクター）を接続すると、本機の操作内容などを表示させることができます。セットメニューや音場パラメーターを設定する際にオンスクリーンを利用すれば、項目や設定値が分かりやすく表示されるため、本体のディスプレイ表示に比べて見やすく便利です。

- 映像信号が入力されているときは、映像に重ねて表示されます。
- オンスクリーン表示はREC OUTに出力されないので映像と一緒に録画されることはありません。
- ビデオソースを再生していないとき（あるいは再生機器の電源が入っていないとき）に、セットメニューの「14 DISPLAY SET」でオンスクリーン表示のオート（ブルーバック）／オフを設定できます（P43参照）。

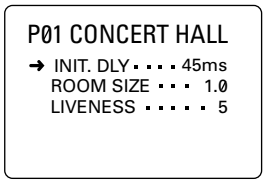
表示の種類

オンスクリーン表示には次の3種類があります。

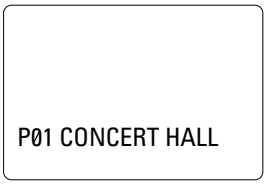
フル表示
音場プログラムのパラメーターが、常にモニター表示されます（P60参照）。

ショート表示
本体のディスプレイと同じ内容（操作状態）が、モニター画面の下に数秒間表示された後、消えます。

表示OFF
モニター画面の下に“ DISPLAY OFF ”が表示された後、消えます。ON SCREENキー以外のキーを操作しても何も表示されません。



フル表示例



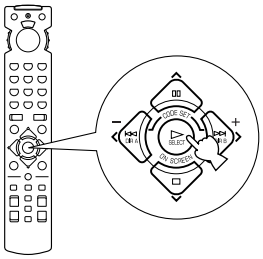
ショート表示例

- フル表示の場合、INPUT ⊲ / ⊳ キーやVOLUMEコントロールなどの操作は、本体ディスプレイと同じ内容が画面下に数秒間表示されます。
- セットメニューやテストトーン時は、表示の種類にかかわらずオンスクリーン表示されます。

表示の切り換え

1 **電源を入れると、モニター画面、および本体のディスプレイにメインの音量が数秒間表示され、その後音場プログラム表示になります。**

2 **リモコンのON SCREENキーを押すと、表示フォーマットがフル表示→ショート表示→表示OFF→フル表示→…の順に切り換わります。**



ご注意

- S VIDEO端子とVIDEO端子の両方を接続しているソースを選択し、さらにMONITOR OUTにS VIDEO端子とVIDEO端子の両方が接続されている場合、映像は両方に出力されますが、オンスクリーンはS VIDEO側に表示され、VIDEO側には表示されません。映像信号が入力されていない場合は、両方に表示されます。
- COMPONENT VIDEOのMONITOR OUT端子につないだモニター画面には、オンスクリーン表示されません。オンスクリーン表示をさせたい場合は、S VIDEO端子かVIDEO端子のどちらかにも接続してください。
- コピーガード信号が入ったビデオソフトを再生したり、ノイズの多い映像信号を再生した場合、オンスクリーン表示がブレたり、ズレたりすることがありますが、本機の故障ではありません。

スピーカーモードの設定

ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、セットメニューにある5種類のスピーカーモードを設定します。
以下はSPEAKER SETの項目です。初期設定と選択できるモードをまとめています。もし、初期設定がご使用のスピーカーシステムに合わない場合は、セットメニューで設定してください（P36参照）。

SPEAKER SET 1A～1Eの設定内容

項目	設定内容	初期設定
1A CENTER SP	センタースピーカーの性能や有無に応じて、出力モードを選択します。 LRG（ラージ）、SML（スモール）とNONEが選択できます。	LRG
1B MAIN SP	メインスピーカーの性能に応じて、出力モードを選択します。 LARGE（ラージ）、SMALL（スモール）が選択できます。	LARGE
1C REAR L/R SP	リアスピーカーL、Rの性能や有無に応じて、出力モードを選択します。 LRG（ラージ）、SML（スモール）とNONEが選択できます。	LRG
1D LFE/BASS OUT	LFE/BASS（低音）信号を出力するスピーカーを選択します。 SWFR（サブウーファー）、MAINとBOTHが選択できます。	BOTH
1E MAIN LEVEL	メインスピーカーレベルを選択します。 Normalと－10dBが選択できます。	Normal

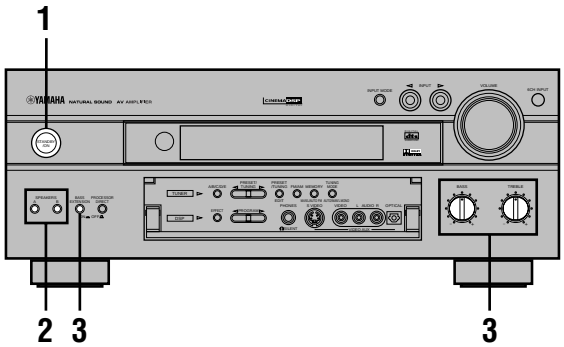
スピーカーのレベル調節

テストトーンを使ってリスニングポジションで聞こえる各スピーカーからの音量が一定になるように調節します。この調節はデジタル音場処理、ドルビープロロジックデコーダー、ドルビーデジタルデコーダー、DTSデコーダーを最良の環境で使用するために重要です。

ご注意

● ヘッドホンをつないでいるとテストモードに入れません。PHONES端子からヘッドホンを抜いてください。

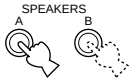
調節の前に行うこと



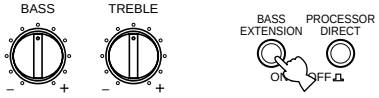
1 **電源を入れます。モニターの電源も入れます。**

2 **SPEAKERS AもしくはBを押して使用するメインスピーカーを選択します。**

2組のメインスピーカーを使用する時はAとBの両方を押します。



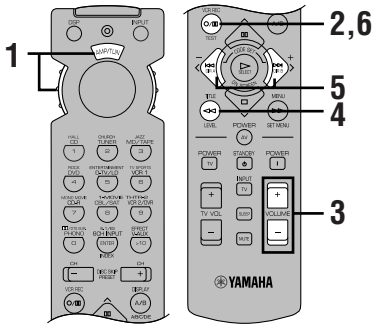
3 **本体のトーンコントロール(BASS, TREBLE)を中央にセットします。BASS EXTENSIONスイッチをOFFにします。**



OFFにする

テストトーン (TEST DOLBY SUR.)

サラウンドサウンドシステムに必要な5つのスピーカーの出力レベルを調節します。調節は必ずリスニングポジションで行います。調節が終わったらリスニングポジションに座ったまま、VOLUME+/−キーで調節した結果を確認してください。

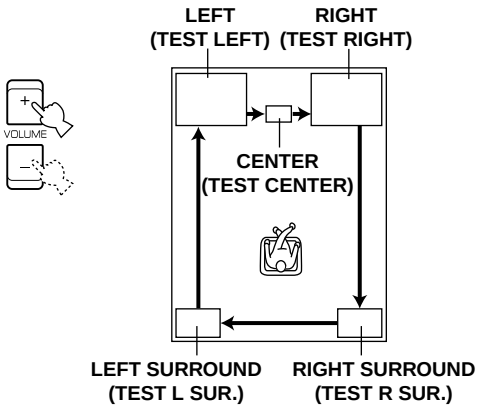


1 **操作ダイヤルをAMP/TUN(またはDSP/TUN)のポジションにします。**

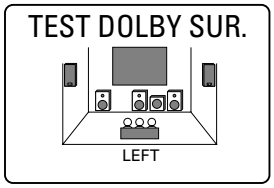
2 **TESTキーを押すとテストトーンが出力されます。**

3 **テストトーンが聴こえるように音量を調節します。**

テストトーンは、LEFT(メインLスピーカー)→CENTER(センタースピーカー)→RIGHT(メインRスピーカー)→R. SUR.(リアRスピーカー)→L. SUR.(リアLスピーカー)→…の順で循環し、それぞれ約2.5秒間ずつ聴こえます。



テストトーンの出力状態は、リスニングルームのイラストでわかりやすくモニターに表示されます。



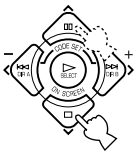
● セットメニュー「1A CENTER SP」をNONEに設定した場合は、センタースピーカーの信号は左右のメインスピーカーに同じレベルで振り分けられ、調節することはできません。

ご注意

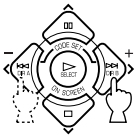
● テストトーンが聴こえない場合は、音量を絞り電源を切ってからスピーカーの接続を確認してください。

4 LEVELキーを押して調節するスピーカーを選びます。

● 一度LEVELキーを押すと、∨ または ∧ キーで調節するスピーカーを選べます。



5 ＜ または ＞ キーを押して、エフェクトスピーカーの音量がメインスピーカーの音量と同じになるように調節します。



調節中はテストトーンはそのスピーカーに固定されます。

6 調節が終わったら、TESTキーを押します。

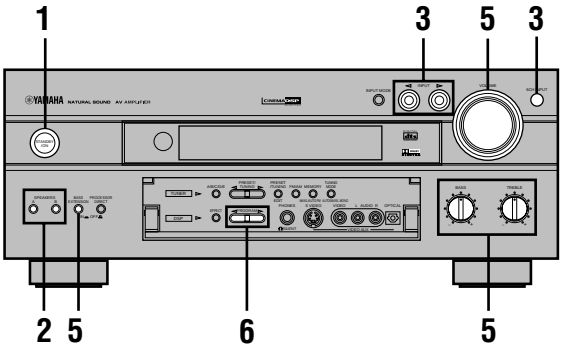
テストトーンは止まり、本体ディスプレイとモニター画面は音場プログラム表示になります。

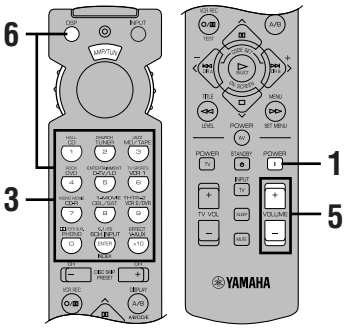
● センタースピーカーの音色が異なる場合は、セットメニュー「5 CENTER GEQ」を使って音色が合うように調節してください（P40参照）。

● エフェクトスピーカー（センターおよびリアL、R）の音量レベルを＋10dBまで上げてもメインスピーカーより音が小さい場合は、セットメニュー「1E MAIN LEVEL」を－10dBに設定します（P39参照）。メインスピーカーの音量レベルを約1/3に下げることができます。メインレベルを変更した場合は、センタースピーカーおよびリアL、Rスピーカーのレベル調節をもう一度行ってください。

再生

リモコンをご使用の場合は、操作ダイヤルをAMP/TUNのポジションにします。





1 STANDBY/ON(またはPOWER)を押して電源を入れます。モニターの電源も入れます。

本体ディスプレイとモニター画面にはメインの音量が数秒間表示され、その後音場プログラム表示に変わります。

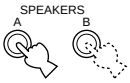
本体

または

リモコン

2 SPEAKERS AもしくはBを押して使用するメインスピーカーを選択します。

2組のメインスピーカーを使用する時はAとBの両方を押します。

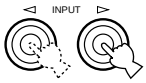


本体

3 INPUT ◁ / ▷ キー(またはインプットセレクター)を押して再生するソースを選びます。

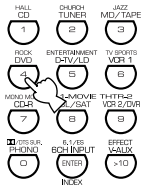
●入力ソースが本体ディスプレイに◀あるいは▶で示されます。

●入力ソース名と入力モードが数秒間本体ディスプレイとモニター画面に表示されます。



本体

または



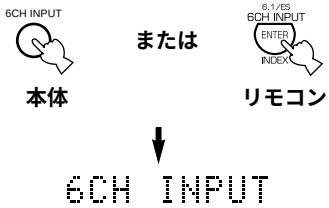
リモコン

選択した入力ソース

DVD:	DVDを見る。
D-TV/LD:	テレビ、デジタルテレビ放送またはLDを見る。
CBL/SAT:	ケーブルテレビ放送、または衛星放送を見る。
VCR 1:	ビデオデッキ1のビデオを見る。
VCR 2/DVR:	ビデオデッキ2またはデジタルビデオレコーダーのビデオを見る。
V-AUX:	フロントパネルのVIDEO AUX端子につないだAV機器を再生する。
PHONO:	レコードを聴く。
CD:	CDを聴く。
TUNER:	FM/AM放送を聴く。
CD-R:	CD-Rを聴く。
MD/TAPE:	MDまたはテープを聴く。

6CH INPUT端子に接続したソースを選択する

6CH INPUTキーを押して、“ 6CH INPUT ”を本体ディスプレイとモニター画面に表示させます。



ご注意

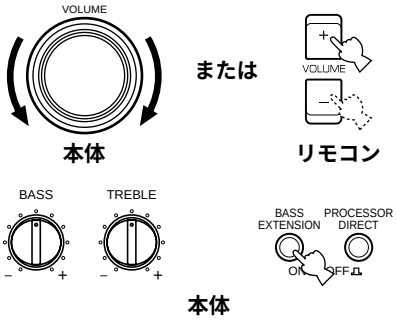
- “ 6CH INPUT ”が本体ディスプレイとモニター画面に表示されている場合、ほかのソースを再生することはできません。INPUT ⊲ / ⊳ キー（またはインプットセレクター）を使って別の入力ソースを選択するには、6CH INPUTキーを押して本体ディスプレイとモニター画面から“ 6CH INPUT ”の表示を消してください。
- 映像と共に6CH INPUT端子に接続された音声を楽しみたい場合には、最初にビデオソースを選択して、次に6CH INPUTキーを押してください。

4 機器の再生（または放送の受信）を始めます。

再生する機器の取扱説明書を参照してください。

5 音量を調節します。

BASSコントロール, TREBLEコントロールおよびBASS EXTENSIONスイッチでメインスピーカーの音質を調整できます。

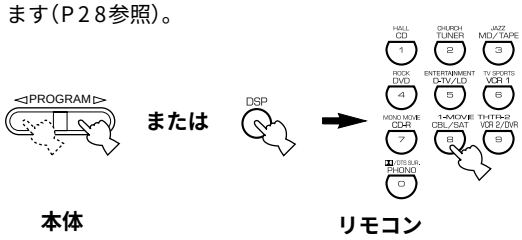


ご注意

- REC OUT端子と接続している機器の電源が切れている場合、再生音が歪んだり、音量が下がることがあります。このような場合は、接続している機器の電源を入れてご使用ください。

6 音場プログラムを選択します。

音場プログラムキーで好みの音場プログラムを選択します（P28参照）。



■ 消音する（音をミュートする）

リモコンのMUTEキーを押します。

前の音量に戻すには、もう一度MUTEキーを押してください。

- VOLUME +/－キーや音場プログラムキーなどを押してもミュートは解除できます。.
- 消音中（ミュート中）に、本体ディスプレイとモニター画面に“ MUTE ON ”が表示されます。

■ 本機の使用を終了するとき

STANDBY/ON（またはSTANDBY）を押して、本機の電源を切ってください。

■ デジタル信号に関するご注意

本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数96kHzのデジタル信号にも対応しています。これを利用するには、96kHzデジタル信号で作られたソースとこれに対応したプレーヤーが必要です。詳しくはプレーヤーの取扱説明書を参照してください。96kHzデジタル信号を入力する場合、次の点にご注意ください。

1. 以下の表示がディスプレイに表示されます。

2. 音場プログラムが選択できなくなります。音声はメインスピーカーからのみ通常の2チャンネルステレオサウンドとして出力されます。

ご注意

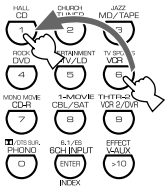
- セットメニュー「1B MAIN SP」がSMALLに、「1D LFE/BASS OUT」がBOTHに設定されている場合、サブウーファーからも音が出ます。

3. 44ページに説明されているスピーカー出力レベル調節ができなくなります。

■ BGV機能

BGV機能とは、ビデオ系ソースの映像と、オーディオ系ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です（例えばビデオを観ながらクラシック音楽を楽しむことができます）。

ビデオ系ソースを選択した後、リモコンのインプットセレクターで、オーディオ系ソースを選択します。BGV機能はフロントパネルのINPUT ◁ / ▷ キーではできません。



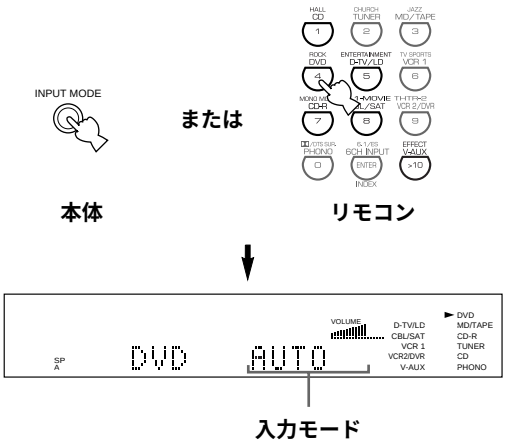
リモコン

入力モードと表示

本機には、デジタル（同軸、光）、アナログなど各種の入力端子が付いています。お使いの機器を2種類以上の入力端子に接続している場合、入力信号の優先順位を設定することができます。

リモコンをご使用の場合は、操作ダイヤルをAMP/TUNのポジションにします。

希望する入力モードが本体ディスプレイとモニター画面に表示されるまで、INPUT MODE キー（または入力ソースを選択するために押したリモコンのインプットセレクター）を繰り返し押してください。



AUTO：　次の順序で入力信号が自動的に選択されます。
1) ドルビーデジタルまたはDTS信号
2) デジタル（PCM）信号
3) アナログ信号

DTS：　このモードでは、別の信号が同時に入力されてもDTS信号に固定されます。

ANALOG：　アナログ入力に固定されます。デジタル信号が同時に入力されても再生されません。

ご注意

- OPTICAL（光）入力端子とCOAXIAL（同軸）入力端子に同時にデジタル信号が入力された場合、COAXIAL（同軸）入力端子からのデジタル信号が優先されます。
- 入力モードがAUTOの場合、ドルビーデジタルまたはDTS信号が入力されると、本機は自動的にデコーダーを選択して5.1チャンネルソースを再生します。
- 以下の場合、一部のLDおよびDVDプレーヤーで音声出力が遮断されることがあります：入力モードがAUTOに設定されている状態で、ドルビーデジタルまたはDTSディスクを再生中にサーチ（検索）をしている時。再び再生を始めると、デジタル信号が再び選択されているため、音声出力の出始めが少し遮断されます。
- 入力モードがAUTOの状態で、デジタル音声が録音されていないLDを再生する場合、プレーヤーによっては音声が再生されないことがあります。この場合は入力モードをANALOGに設定してください。

■ DTSの再生に関する注意

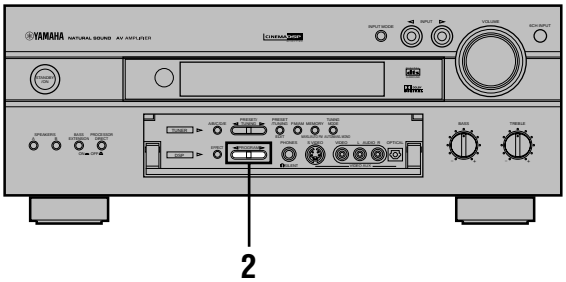
- プレーヤーのデジタル出力データに何らかの処理がされた場合、本機とプレーヤーをデジタル接続しても、DTSソースを再生することはできません。
- DTSソースを、入力モードをANALOGに設定して再生した場合、未処理のDTS信号を出力します。DTSソースを再生したい場合は、ソースをデジタル入力端子に接続して、必ず入力モードをAUTOまたはDTSに設定してください。
- DTSソースを再生中に、入力モードをANALOGに切り換えた場合音声は出力されません。
- DTSソースを、入力モードをAUTOに設定して再生する場合、本機がDTS信号を検知し、DTSデコーダーをオンする少しの間ノイズが発生します。これは誤動作ではありません。あらかじめ入力モードをDTSに設定すれば、これを回避することができます。
- 入力モードがAUTOに設定された状態でDTSソースの再生を続けていると、本機が自動的に“ DTSモード ”に切り換わって、その後の動作中にノイズが発生するのを防止します（本体ディスプレイの“ dts ”インジケーターが点灯します）。DTSソースの再生が終了するとすぐに、“ dts ”インジケーターが点滅します。このインジケーターが点滅している間（約30秒間）は、DTSソースしか再生することができません。すぐに標準PCMソースを再生したい場合は、入力モードをAUTOに設定しなおしてください。
- 入力モードがAUTOに設定され、DTSソースの再生中に、サーチまたはスキップ操作が実行されると、“ dts ”インジケーターが点滅します。この状態が30秒以上続くと、自動的に“ DTSモード ”からPCMデジタル信号入力モードに切り換わり、“ dts ”インジケーターは消えます。

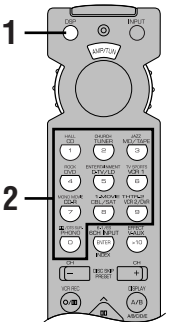
■ LDソースの再生に関する注意

- デジタル・サウンドトラックを持っていないLDソフトの場合、LDプレーヤーをアナログ入力端子に接続して、入力モードをAUTOまたはANALOGに設定してください。
- LDプレーヤーが非標準方式で信号を伝送する場合、本機はドルビーデジタルまたはDTS信号を検知できません。その場合、デコーダーが自動的にPCMまたはアナログに切り換わります。
- LDプレーヤーのような一部のAV機器は、アナログおよびデジタル出力端子から異なるオーディオ信号を出力します。必要に応じて、入力モードを変更してください。
- LDプレーヤーを操作して、ドルビーデジタルディスクを再生している時に、ポーズ（一時停止）またはチャプター早送り操作から標準再生に切り換えた場合、ドルビーデジタル信号が再生される前に瞬間的にPCMまたはアナログ音声が聞こえることがあります。

音場プログラムの選択

本機には、世界各地の著名な演奏会場での実測データを元に作成されたHi-Fi DSP音場プログラムに加え、より幅広い表現力を持つCINEMA DSP音場プログラムを内蔵しています。再生するときに好みの音場を呼び出して、その臨場感と効果をお楽しみください。各プログラムについては54ページから57ページを参照してください。





1 リモコンのDSPキーを押します。

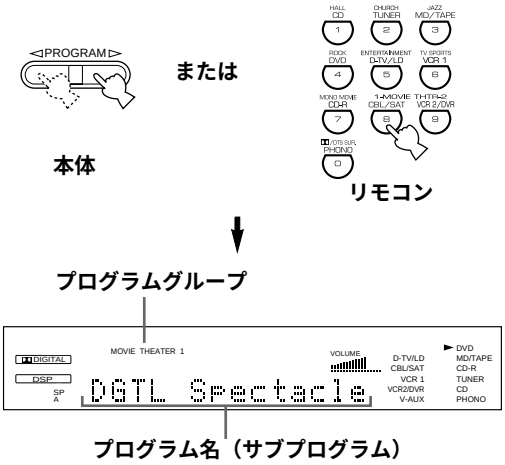
インジケーターが約3秒間点灯します。

リモコン

- 操作ダイヤルをDSP/TUNポジションにしてあるときは、この手順は不要です。

2 インジケーターが点灯している間に、10キーで音場プログラムを選択します。または、本体のPROGRAM ◁ / ▷ キーを繰り返し押して選択します。

- 例えば、MOVIE THEATER 1を繰り返し押すとサブプログラムの‘ Spectacle ”を選べます。
- プログラム名は、本体ディスプレイおよびモニター画面に表示されます。

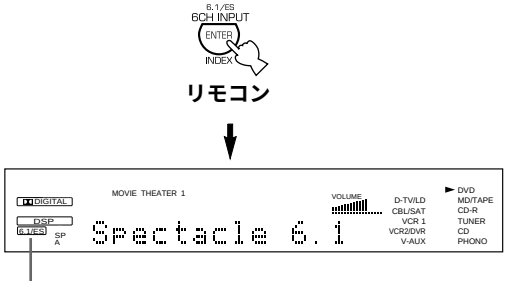


ご注意

- 音場プログラムはプログラム名ではなく、自分のリスニングルームの状況やお好みに合わせて選択してください。リスニングルームの音響効果は音場プログラムに影響を与えます。プログラムによって作り出される効果を最大限に引き出すために、リスニングルーム内の反射音を最小限に抑えてください。
- 入力ソースを選択すると、本機は自動的にその入力ソースと共に使用された音場プログラムを選択します。
- 本機をオフにすると、今まで再生していたソースと音場プログラムがメモリーされ、電源をオンにしたとき自動的に選択されます。
- 入力モードがAUTOの場合に、ドルビーデジタルまたはDTS信号が入力されると、音場プログラムはソースに対応したデコーディングプログラムに自動的に切り換わります。
- モノラルソースをPRO LOGIC/NormalまたはPRO LOGIC/ENHANCED音場で再生した場合は、メインスピーカーとリアスピーカーからの音声は聴こえません。センタースピーカーからのみ音声を聴くことができます。ただし、セットメニューの「1A CENTER SP」がNONEに設定されている場合は、センターチャンネルの音声がメインスピーカーから出力されます。
- 6CH INPUT端子に接続されているソースを再生した場合は、本機の音場プログラムは使用できません。
- サンプリング周波数96kHzデジタル信号が入力されている場合は、音場プログラムを選択することができません。その場合、音声は通常の2チャンネルステレオとして再生されます。

■ ドルビーデジタルマトリックス6.1/DTS ESデコーダー

ドルビーデジタルサラウンドEX方式またはDTS ES方式のソフトを再生するときは、6.1/ESキーを押してください（42ページの「12 6.1/ES AUTO」および57ページを参照してください）。



6.1/ES インジケーターが点灯します。

■ バーチャルCINEMA DSPとサイレントCINEMA DSP

セットメニューの「1C REAR L/R SP」をNONEに設定すると、バーチャルCINEMA DSP音場を体感することができます。選択された音場プログラムに従って、音場処理がバーチャルCINEMA DSPモードに変更され、メインスピーカー（L、R）によってバーチャルCINEMA DSPが再生されます。また、デジタル音場プロセッサーがオンになっている時に、ヘッドホンをPHONES端子に接続すると、サイレントCINEMA DSPを聴くことができます。

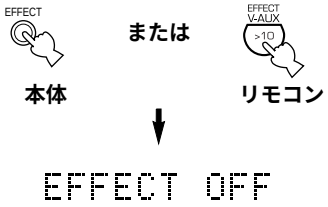
ご注意

- 以下の場合はセットメニュー「1C REAR L/R SP」がNONEに設定されていてもバーチャルCINEMA DSPにはなりません。
  - 5ch Stereo、DOLBY DIGITAL/Normal、DTS/Normal音場プログラムを選択している時
  - EFFECTがOFFの時
  - 本機の6CH INPUT端子に接続されたソースを再生している時
  - デジタル入力でサンプリング周波数が96kHzの時
  - ドルビーデジタルKARAOKEソースを再生している時
  - テストトーンを使用している時
  - ヘッドホンを接続している時

通常のステレオ再生

EFFECTキーを押して‘EFFECT OFF’にすると、通常のステレオ再生になります。

EFFECTキーをもう一度押すと音場効果がONになります。



- 操作ダイヤルをDSP/TUN以外のポジションにしてあるときは、初めにリモコンのDSPキーを押し、次にEFFECTキーを押してください。

ご注意

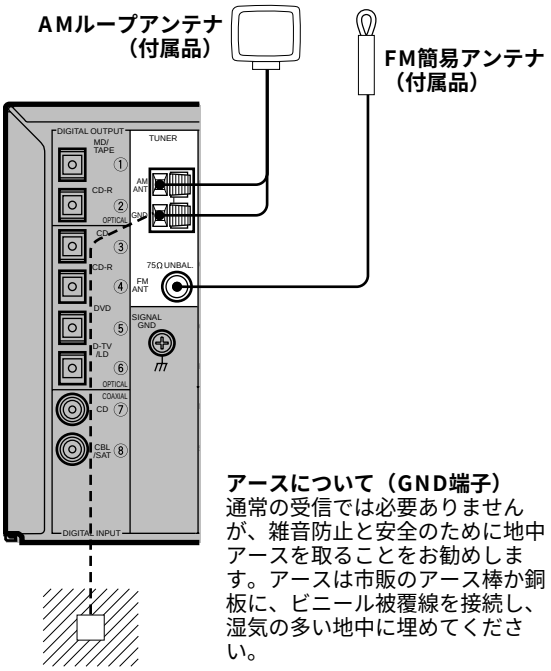
- EFFECT OFFの時は、センターおよびリアスピーカーから音は出ません。
- ドルビーデジタル、DTS再生時にEFFECT OFFにすると、ダイナミックレンジが圧縮され、またセンターおよびリアチャンネルの信号はメインL、Rにミックスされて出力されます。
- ドルビーデジタルソフトによっては、セットメニュー「10B D-RANGE」をMINに設定した時や、EFFECT OFF時に音量が極端に下がる場合があります。このような場合は音場効果をONにしてご使用ください。

FM/AM放送を聴く

アンテナの接続

本機にはAMループアンテナ及びFM簡易アンテナが付属しています。付属のアンテナは、電波状況が非常に良い地域で受信する場合にご使用ください。

各々のアンテナを端子に正しく接続してください。



アースについて（GND端子）
通常の受信では必要ありませんが、雑音防止と安全のために地中アースを取ることをお勧めします。アースは市販のアース棒か銅板に、ビニール被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。

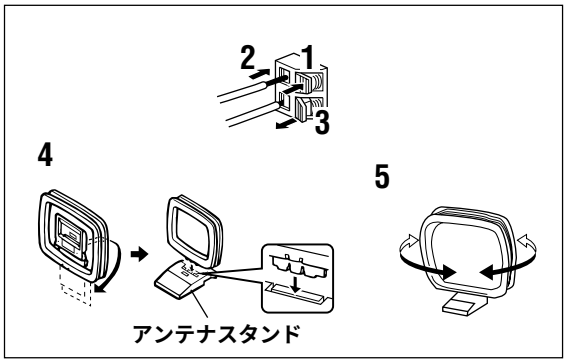
■ FM簡易アンテナの接続

付属のFM簡易アンテナをFM ANT端子に接続してください。

ご注意

- FM屋外アンテナを接続したときは、付属のFM簡易アンテナは接続しないでください。

■ AMループアンテナの組立と接続



1 **AM ANT端子とGND端子のレバーを押し続けます。**

2 **AMループアンテナのコードをAM ANT端子とGND端子に差し込みます。（コードに極性はありません。）**

3 **レバーを放すとロックします。**
コードを軽く引いて、正しく接続されているか確認してください。

4 **アンテナをアンテナスタンドに取り付けます。**

5 **アンテナを左右に回し、受信状態が最も良くなる方向に向けます。**

- AMループアンテナはスタンドから取り外して壁などに取り付けることもできます。

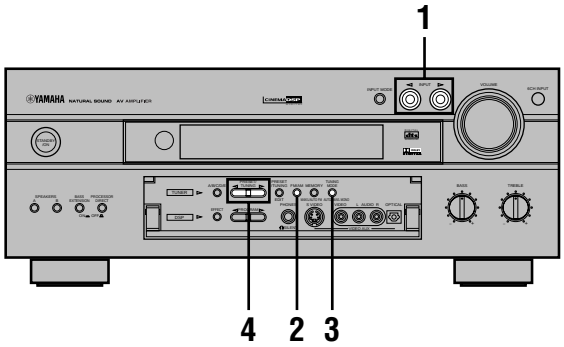
ご注意

- AMループアンテナは本機から離して設置してください。
- AMループアンテナは屋外アンテナを接続した場合でも必ず接続しておいてください。

放送を良好に受信するためには屋外アンテナを設置することをお勧めします。詳細は最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

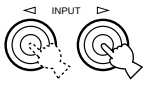
選局する

選局のしかたには、自動的に選局するオート選局と、手動で選局するマニュアル選局の2種類あります。
電波の強い放送局を受信するときは、オート選局が速くて便利です。

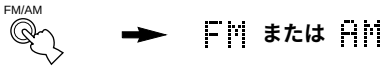


■ オート選局

1 **INPUT ◁ / ▷ キーを押してTUNERを選びます。**

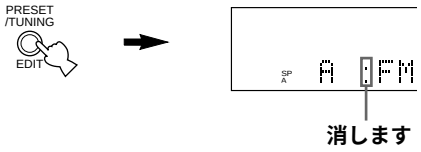


2 **FM/AMキーを押して、バンド（FMまたはAM）を選びます。**



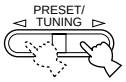
3 **TUNING MODE（AUTO/MAN'L MONO）キーを押して、ディスプレイにAUTOインジケーターを点灯させます。**

ディスプレイのバンド表示の隣にコロン（:）が点灯している時は、PRESET/TUNING（EDIT）キーを押してコロンを消します。



4 **PRESET/TUNING ◁ または ▷ キーを押します。**

高い周波数の放送局を探すときは ▷ キーを、低い周波数の放送局を探すときは ◁ キーを押します。受信した放送局が希望の局ではないときは、もう一度キーを押します。

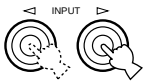


- 電波が弱くてお聴きになりたい放送局が選局できない時はマニュアル選局してください。
- 放送局を受信するとディスプレイにTUNEDインジケーターが点灯し、周波数が表示されます。

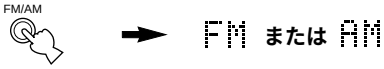
■ マニュアル選局

電波の弱い放送局は、マニュアル選局をしてください。

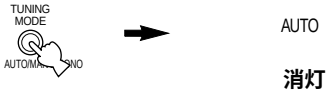
1 **INPUT ◁ / ▷ キーを押してTUNERを選びます。**



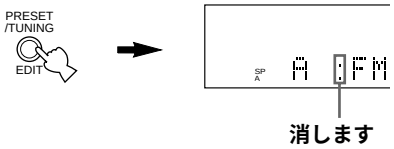
2 **FM/AMキーを押して、バンド（FMまたはAM）を選びます。**



3 **TUNING MODE（AUTO/MAN'L MONO）キーを押して、ディスプレイのAUTOインジケーターを消します。**

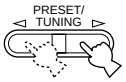


ディスプレイのバンド表示の隣にコロン（:）が点灯している時は、PRESET/TUNING（EDIT）キーを押してコロンを消します。



4 **PRESET/TUNING ◁ または ▷ キーを押します。**

押し続けると連続的に周波数が変わります。



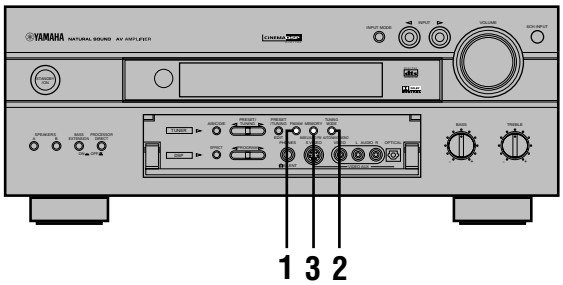
ご注意

- マニュアル選局でFMステレオ放送を受信するとモノラル受信になりますが、雑音は軽減されます。

放送局のプリセット

■ オートプリセットのしかた（FM放送局）

FM局のみを自動的にプリセットすることができます。電波の強い放送局を40局（8局×5グループ）までプリセットすることができます。放送局をプリセット（メモリー）しておけば、あとは簡単なキー操作で選局することができます（P33参照）。

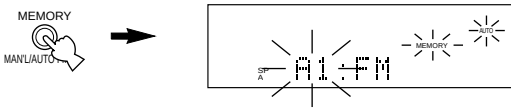


1 **FM/AMキーを押してFMを選びます。**

2 **TUNING MODE（AUTO/MAN'L MONO）キーを押して、ディスプレイにAUTOインジケーターを点灯させます。**

3 **MEMORY（MAN'L/AUTO FM）キーを約3秒間以上押し続けます。**

プリセット番号とMEMORYとAUTOインジケーターが点滅します。5秒程すると現在表示されている周波数から高い周波数へ向けて、オートプリセットが始まります。



オートプリセットが終了すると最後にプリセットした放送局の周波数が表示されます。

ご注意

- 新しい放送局がプリセットされると、前にプリセットされていた放送局は消え、新しい放送局に入れかわります。
- プリセットされたFMまたはAM放送局を手動で入れかえることができます。33ページの“マニュアルプリセットのしかた”を参照してください。
- オートプリセットでは、プリセットする放送局の数が「E8」に満たない場合には全帯域を一巡して停止します。
- オートプリセットでは、電波の強いFM放送局だけがプリセットされます。電波の弱い放送局をプリセットするときは、受信モードをモノラルにしてマニュアルプリセットをしてください（P33参照）。

オートプリセットオプション

FM局をメモリーし始めるプリセット番号を選択できます。また、周波数の低い方へ向けてオートプリセットを始めることもできます。オートプリセットを始める前に（手順3でMEMORYキーを押した後）次の操作をしてください。

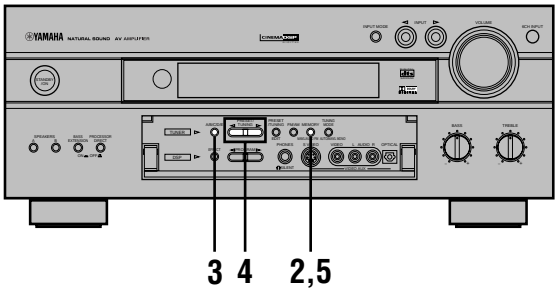
1. A/B/C/D/EとPRESET/TUNING ◁ / ▷ キーを押して、最初にメモリーさせたいプリセット番号を選択します。局が「E8」まですべてメモリーされると、オートプリセットが停止します。
2. PRESET/TUNING（EDIT）キーを押してコロン（:）を消し、それからPRESET/TUNING ◁ キーを押すと、周波数の低い方へ向けてオートプリセットを開始します。

メモリーバックアップについて

本機の電源を切ってもプリセットの内容は消えずに記憶（メモリー）されています。また、電源コードをACコンセントから抜いても約1週間位はメモリーしています。もし、時間が経過してメモリーが消えてしまったときは、再度プリセットしてください。

■ マニュアルプリセットのしかた

マニュアルでも40局(8局 x 5グループ)までプリセットできます。

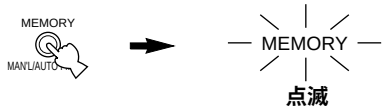


1 プリセットしたい放送局を選局します。

31ページの手順を参照してください。

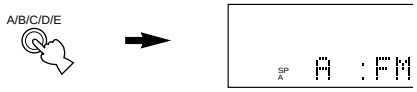
2 MEMORY(MAN 'L/AUTO FM)キーを押します。

MEMORYインジケーターが約5秒間点滅し、プリセットできる状態になります。.



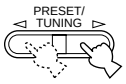
3 MEMORYインジケーターの点滅中に、A/B/C/D/Eキーを押してプリセットグループ(A〜E)を選びます。

グループが表示されます。バンド表示の隣にコロン(:)が点灯していることを確認してください。



4 MEMORYインジケーターの点滅中に、PRESET/TUNING ◁ / ▷ キーを押し、プリセット番号(1〜8)を選びます。

▷ を押すと数が増え、◁ を押すと減ります。



5 MEMORYインジケーターの点滅中に、MEMORY(MAN 'L/AUTO FM)キーを押します。

選択したプリセットグループ、プリセット番号と放送バンド(FMまたはAM)、周波数がディスプレイに表示されます。

表示されている放送局がA1 にプリセットされました。

6 他の放送局を続けてプリセットするときは1〜5の手順を繰り返します。

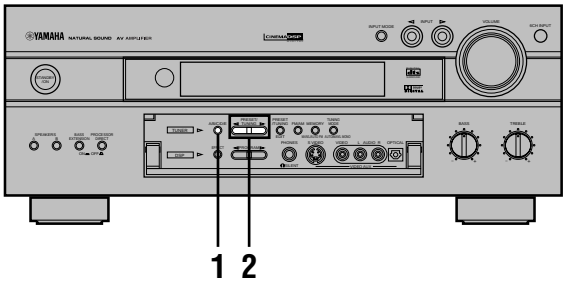
ご注意

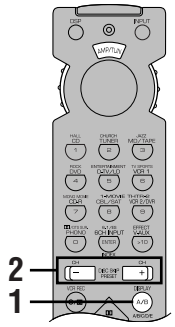
- 新しい放送局がプリセットされると、前にプリセットされていた放送局は消え、新しい放送局に入れかわります。
- プリセットしたとき、放送局の周波数と受信モード(ステレオ／モノラル)もメモリーされます。

プリセット選局のしかた

プリセット番号を選ぶだけでそこにプリセットした放送局を選局できます。

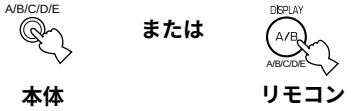
リモコンでもプリセット選局できます。操作ダイヤルをAMP/TUNのポジションにした後、TUNERキーを押して入力ソースをTUNERにしてください。





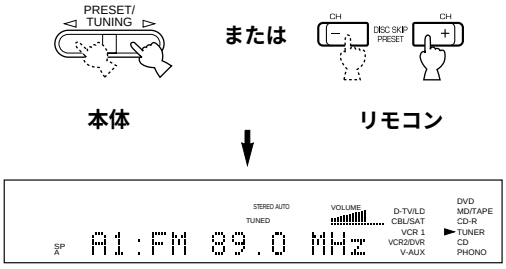
1 **A/B/C/D/Eキーを押して、放送局をプリセットしたグループを選びます。**

プリセットグループがディスプレイに表示されます。A/B/C/D/Eキーを押してグループを変えられます。



2 **PRESET/TUNING ◁ / ▷ キー（または PRESET ー/+ キー）を押して、プリセット番号を選びます。**

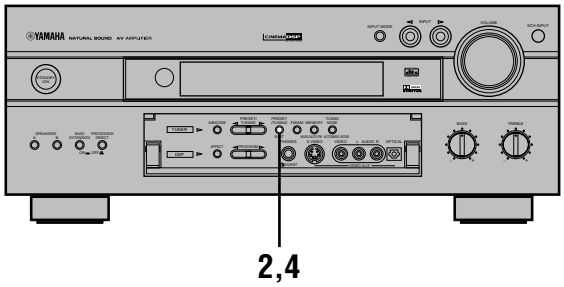
プリセットグループとプリセット番号が放送バンド（FMまたはAM）、周波数とともにディスプレイに表示されます。TUNEDインジケーターが点灯します。



● 操作ダイヤルのAMP/TUNまたはDSP/TUNポジションに、コード“0023”を設定しておくと、リモコンの10キー（1〜8）でプリセット局番を選べます。

プリセット局の入れかえ

プリセットした放送局を入れかえることができます。ここでは「E1」にプリセットした放送局を「A5」に、「A5」の放送局を「E1」に変更する場合の手順を説明します。

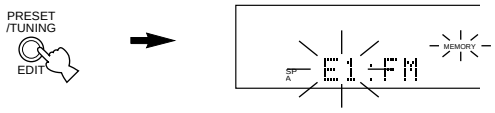


1 **「E1」にプリセットした放送局を選局します。**

33ページの“プリセット選局のしかた”を参照してください。

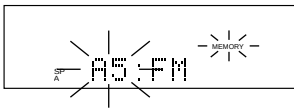
2 **PRESET/TUNING（EDIT）キーを約3秒間以上押します。**

E1とMEMORYインジケーターがディスプレイに点滅します。



3 **「A5」にプリセットした放送局を本体のキーを使って選局します。**

A5とMEMORYインジケーターがディスプレイに点滅します。



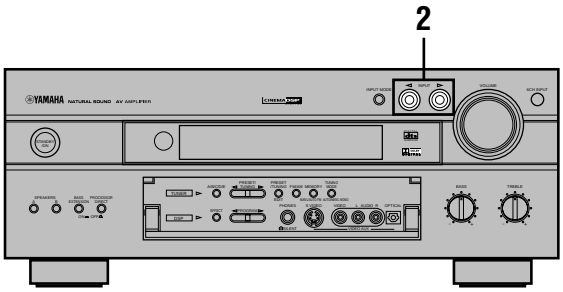
4 **PRESET/TUNING（EDIT）キーを押します。**

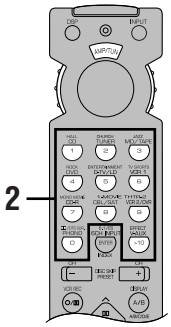
プリセット局が入れかわります。

入れかえが終了した時

録音と録画

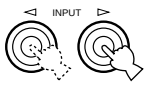
録音レベルの調節や操作は、それぞれの録音機器で行います。ご使用になる機器の取扱説明書を参照してください。



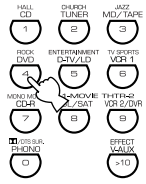


1 **本機および再生する機器の電源を入れます。**

2 **録音／録画したいソースを選びます。**



または



本体　　**リモコン**

3 **ソースを再生します（または放送局を選局します）。**

4 **録音／録画を開始します。**

ご注意

- 録音／録画する場合、事前に「試し録音」「試し録画」を行ってください。
- 本機の電源を切ると、接続した機器間の録音／録画は行えません。
- トーンコントロール（BASS, TREBLE）、BASS EXTENSIONスイッチ、VOLUMEコントロール、セットメニュー「3 L/R BALANCE」、音場プログラムなどを操作しても、録音／録画には影響しません。
- S VIDEO端子からの録画は、S VIDEO端子どうしのみ、コンポジット端子からの録画はコンポジット端子どうしのみ有効です。
- 入力ソースと同一のREC OUTには出力されません。（たとえば、VCR1の信号はVCR1のREC OUTには出力されません。）
- REC OUTのデジタルとアナログは独立しているため、アナログ信号はアナログ端子に、デジタル信号はデジタル端子にのみ出力されます。デジタルとアナログ両方の入出力端子があるMDなどを接続する場合は、両端子ともつなぐことができます。
- あなたが録音したものは個人で楽しむ場合以外は著作権者に無断で使用することはできません。

■ DTSソフトの録音について

DTS信号はデジタルビットストリームで伝送されます。DTS信号をデジタル録音しても、ノイズだけが録音されます。DTS対応ディスクの信号を録音するために次の事項に注意し、必要な設定を行ってください。

DTS LD、DVD、CDの場合、2チャンネルアナログオーディオ信号として録音します。

LD：　LDプレーヤーのL、R出力をアナログ2チャンネル出力に設定します。

DVD：DVDプレーヤーのメニュー機能を使って、2チャンネルミックス出力をPCMまたはドルビーデジタルサウンドトラックに設定します。

CD：　デジタルビットストリーム伝送のため録音できません。

セットメニュー

本機には、15項目のセットメニューがあります。スピーカーモードや、センターグラフィックイコライザー、パラメーターイニシャライズなどの便利な機能がセットメニューに納められています。必要に応じてセットメニューを呼び出し、設定してください。

- 再生中もセットメニューの設定を行えます。
- セットメニューはモニター画面を見ながら設定することをお勧めします。本体のディスプレイ表示でも設定できますが、モニター画面のほうが分かりやすく容易に設定できます。

ご注意

- 本体ディスプレイの表示はオンスクリーン表示を簡略化したものです。

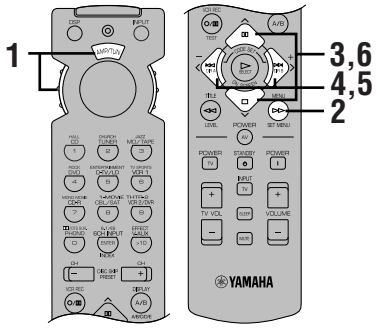
1 SPEAKER SET
- **1A CENTER SP**
- **1B MAIN SP**
- **1C REAR L/R SP**
- **1D LFE/BASS OUT**
- **1E MAIN LEVEL**

2 LOW FRQ TEST
3 L/R BALANCE
4 HP TONE CTRL
5 CENTER GEQ
6 INPUT RENAME
7 I/O ASSIGNMENT
8 INPUT MODE
9 PARAM. INI
10 DOLBY D. SET
- **10A LFE LEVEL**
- **10B D-RANGE**

11 DTS LFE LEVEL
12 6.1/ES AUTO
13 SP DELAY TIME
14 DISPLAY SET
15 MEMORY GUARD

セットメニューの操作手順

リモコンで操作します。



ご注意

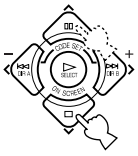
- 項目によっては更に別な手順が必要となる場合もあります。

1 操作ダイヤルをAMP/TUN（またはDSP/TUN）のポジションにします。

2 SET MENUキーを押します。

SET MENU 1/4
➜1 SPEAKER SET
2 LOW FRQ TEST
3 L/R BALANCE
4 HP TONE CTRL
▲/▼ :Up/Down
–/+ Enter

3 ∧ または ∨ キーを繰り返し押して、設定したいメニュー（1〜15）を選択します。

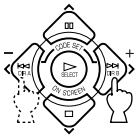


SET MENU 1/4
1 SPEAKER SET
➜2 LOW FRQ TEST
3 L/R BALANCE
4 HP TONE CTRL
▲/▼ :Up/Down
–/+ Enter

- SET MENUキーを繰り返し押しても、∨キーと同じ順番でセットメニューの項目を選べます。

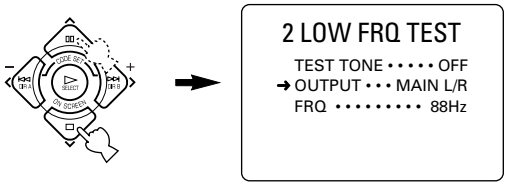
4 〈 または 〉 キーを一度押して、選択したメニューのセットアップモードに入ります。

現在の設定がモニター画面と本体ディスプレイに表示されます。

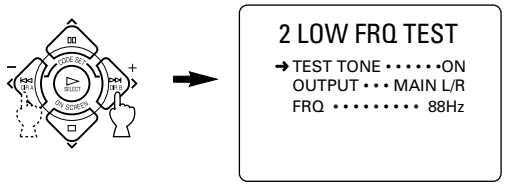


2 LOW FRQ TEST
➜ TEST TONE • • • • • OFF
OUTPUT • • • MAIN L/R
FRQ • • • • • • • • • • 88Hz

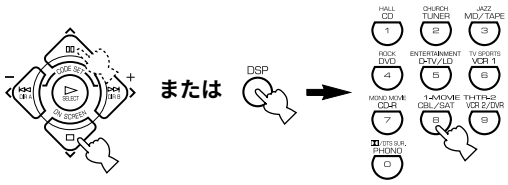
項目によっては ∧ または ∨ キーを押して、サブメニューを選びます。



5 **〈 または 〉 キーを繰り返し押して、設定を変えます。**



6 **セットメニューを終了するときは、音場プログラム表示になるまで ∧ または ∨ キーを繰り返し押すか、プログラムキーのどれかを押します。**



メモリーバックアップについて

本機の電源を切っても、セットメニューの設定内容はメモリー（記憶）されています。約1週間は電源コードをコンセントから外しても、メモリー内容はそのまま記憶されています。ただし1週間を過ぎると、セットメニューが初期設定に戻り、メモリー内容が消去されることがあります。このような場合は再度、設定を行ってください。

1 SPEAKER SET（スピーカーモードの設定）

ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、スピーカーモードを設定します。サブウーファーをご使用になる場合は必ず設定してください。

ご注意

- デジタル入力でサンプリング周波数が96kHzの場合は、1Bと1Dのみ設定が可能です。1A、1Cと1Eは適応されません。
- 6CH INPUT端子から入力した信号には、1A～1Eのスピーカーモードの設定は適応されません。

■ 1A CENTER SP（センタースピーカーモード）

センタースピーカーを追加することによって、画像と音像が一致します。また優れた音場効果の得られるリスニングエリアも広がるため、多くのリスナーでお楽しみいただけるようになります。

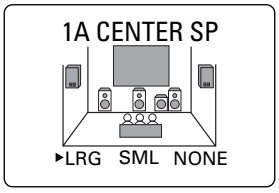
モニター画面には、センタースピーカーモードの状態が設定に合わせてイラスト表示されます。

使用するセンタースピーカーに合わせて、モード（LRG/SML/NONE）を選択します。

初期設定：LRG

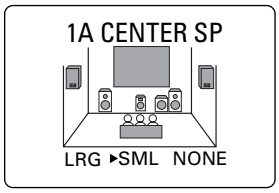
LRG

センタースピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。センターチャンネル信号の全帯域が、そのままセンタースピーカーに出力されます。

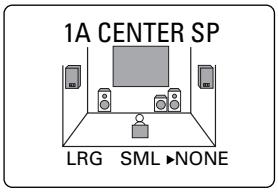


SML

センタースピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。センターチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1D LFE/BASS OUT」で選択したスピーカーに出力されます。



NONE
センタースピーカーを使用しないときのモードです。センターチャンネル信号は、メインのL、Rスピーカーに同じレベルで振り分けられます。



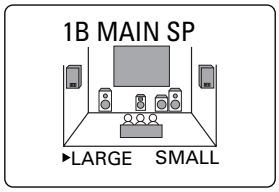
■ 1B MAIN SP（メインスピーカーモード）

モニター画面には、メインスピーカーモードの状態が設定に合わせてイラスト表示されます。

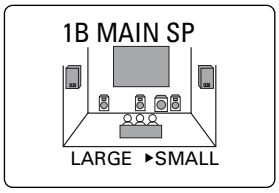
使用するメインスピーカーに合わせて、モード（LARGE/SMALL）を選択します。

初期設定：LARGE

LARGE
メインスピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。メインL、Rチャンネル信号の全帯域が、そのままメインL、Rスピーカーに出力されます。



SMALL
メインスピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。メインL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1D LFE/BASS OUT」で選択されたスピーカーに出力されます。



ご注意

- SMALL設定時でも、「1D LFE/BASS OUT」の設定がMAINの場合は、メインL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域はメインに出力されます。

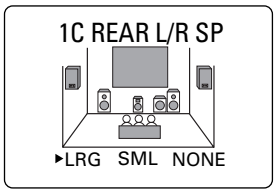
■ 1C REAR L/R SP（リアL、Rスピーカーモード）

モニター画面には、リアスピーカーモードの状態が設定に合わせてイラスト表示されます。

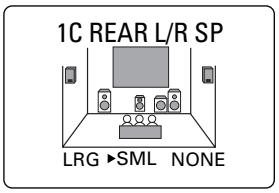
使用するリアL、Rスピーカーに合わせて、モード（LRG/SML/NONE）を選択します。

初期設定：LRG

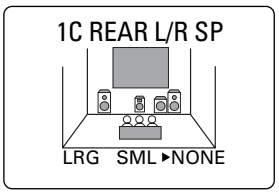
LRG
リアL、Rスピーカーに大型のスピーカーを使用したり、リアL、Rスピーカーにリア側サブウーファーをスピーカーケーブル結線で接続して使用する場合のモードです。リアL、Rチャンネル信号の全帯域が、そのままリアスピーカーに出力されます。



SML
リアL、Rスピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。リアL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1D LFE/BASS OUT」で選択されたスピーカーに出力されます。



NONE
リアL、Rスピーカーを使用しないときのモードです。



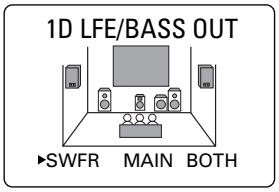
- 「1C REAR L/R SP」をNONEに設定するとバーチャルCINEMA DSPモードになります。

■ 1D LFE/BASS OUT（バスアウトモード）

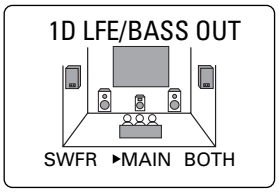
LFE/BASS信号を出力するスピーカーを設定します。（LFE信号：ドルビーデジタルやDTS動作時に出力される低域効果音。低音域信号は90Hz以下。）

初期設定：BOTH

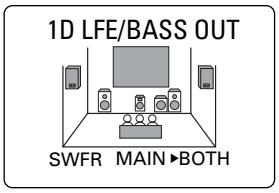
SWFR
サブウーファーを使用する場合のモードです。
LFEと、1A～1Cの設定により他チャンネルの低音域（90Hz以下）が、サブウーファーに出力されます。



MAIN
サブウーファーを使用しない場合のモードです。
LFEと、1A～1Cの設定により他チャンネルの低音域（90Hz以下）が、メイン L、Rスピーカーに出力されます。



BOTH
サブウーファーを使用し、さらにメインスピーカーモードの設定に関わりなく、メインスピーカーの90Hz以下の低音域をLFEチャンネルにミックスする場合のモードです。



ご注意

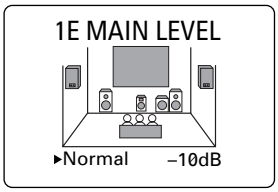
- 1A～1Cの設定をスモールにすると他チャンネルの低音域（90Hz以下）がLFEチャンネルとしてサブウーファーに出力されます。

■ 1E MAIN LEVEL（メインレベルモード）

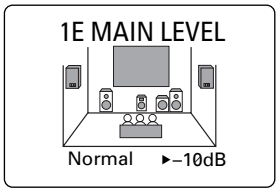
メインスピーカーが極端に高効率であるため、センタースピーカーとリアスピーカーの出力レベルがメインスピーカーに合わない場合には、設定を変えてください。

初期設定：Normal

Normal
通常はこの設定にします。テストトーンでのスピーカーレベル調節の際、エフェクトスピーカーの出力レベルとメインスピーカーのレベルが同じ場合です。



－10 dB
テストトーンでのスピーカーレベル調節の際、エフェクトスピーカーの出力レベルがメインスピーカーより小さい場合は、この設定にします。



2 LOW FRQ TEST（ローフリケンシーテスト）

サブウーファーと各スピーカーの音のつながりを周波数の低いテストトーンによってテスト（確認）します。リスニングポジションに座り、リモコンで操作してください。

1 **＜ または ＞ キーを押してTEST TONEをONに設定し、テストトーンが聞こえるように、VOLUME +/－キーで音量を調節します。**

ご注意

- 音量を上げ過ぎないように注意してください。
- テストトーンが聞こえない場合は、ボリュームを絞ってから電源を切り、スピーカーの接続を確認してください。

2 **∨ キーを押してOUTPUTを選択し、< または > キーを押して、比較したいスピーカーを設定します。**

SWFR選択時は、90Hz以上のテストトーンはハイカットフィルターでカットされます。テストトーンは選択したスピーカーから出力されなくなります。また、セットメニュー「1 SPEAKER SET」の設定により、90Hzを境にテストトーン出力チャンネルが変わることがあります。

3 **サブウーファーとの音のつながりがスムーズなことを確認するために、テストトーンの中心周波数を変えます。∨ キーを押してFRQ(周波数)を選択し、< または > キーを押して中心周波数(35〜250Hz)または周波数帯域(35−250Hz)を選びます。**

4 **サブウーファーの音量をサブウーファー側で調整し、確認します。**

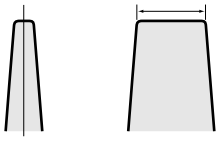
■ テストトーンについて

本機のテストトーンはトーンジェネレーターによって作り出しています。全帯域フラットな広帯域ノイズから、急峻なバンドパスフィルターでFRQ指定された周波数を中心とした帯域を切り出します。中心周波数は、35Hz→39Hz→44Hz→「1/6オクターブステップ」で変わります。サブウーファーのレベル調節ばかりでなく、リスニングルームの低域特性チェックにも応用できます。特に超低域ではリスニングポジションや、スピーカーの設置場所、サブウーファーの極性によって状態が大きく変わります。いろいろお試しください。

デジタルトーンジェネレーター
(広帯域ノイズ発生)

周波数

中心周波数　**35 Hz−250 Hz**



バンドパスフィルター

3 L/R BALANCE (メインスピーカーバランス)

メインスピーカーのL、Rの音量バランスを設定します。

可変範囲:10ステップ(L−0−R)
初期設定:0

> キーを押すと左(L)のメインスピーカーの音が小さくなり、< キーを押すと右(R)のメインスピーカーの音が小さくなります。

4 HP TONE CTRL(ヘッドホントーンコントロール)

ヘッドホンの低音域および高音域を調節します。

可変範囲(dB):−6〜+3
初期設定:(低音域、高音域ともに)0dB

5 CENTER GEQ(センターグラフィックイコライザー)

センタースピーカーの音色を、メインL、Rスピーカーの音色と合わせるために、センターチャンネルのグラフィックイコライザーを調節します。100Hz、300Hz、1kHz、3kHzおよび10kHzの周波数が選べます。

可変範囲(dB):−6〜+6
初期設定:(5バンドともに)0dB

1 **∨ キーを押すと高い周波数、∧ キーを押すと低い周波数が選べます。**

2 **< または > キーを押して、レベルを設定します。**

● テストトーン使用時に、「CENTER GEQ」の調節を行うと、テストトーンを聞きながらセンタースピーカーの音色を調節できます。「CENTER GEQ」の手順を行う前にTESTキーを押します。モニター画面に“TEST DOLBY SUR.”が表示され、テストトーンが各々のスピーカーから順に出力されます。「CENTER GEQ」の操作を始めると、テストトーンの出力はセンタースピーカーに固定され、周波数を変えながら音声がどう変わっていくか試すことができます。テストトーンを終了するにはTESTキーを押します(P22〜23参照)。

6 INPUT RENAME（インプットリネーム）

各入力名を変更することができます。変更後は、その名前で入力が表示されます。

1 **インプットセレクター（またはINPUT ◁ / ▷ キー）を押して、名前を変更する入力を選びます。**

2 **＜ または ＞ キーを押して、変更する文字またはスペースに＿（アンダーバー）を合わせます。**

3 **∧ または ∨ キーを押して入力する文字を選び、＜ または ＞キーを押してアンダーバーを移動させます。**

- ∨ キーを押すと次の順序で表示されます。∧ キーを押すと逆の順序で表示されます。
  A～Z→スペース→0～9→スペース→a～z→スペース→＃＊＋，－．／：＜＞？→スペース

- 最大8文字の名前を入力できます。

4 **入力が終わったら、8文字目にカーソルを移動し、＞ キーを押します。**

7 I/O ASSIGNMENT（入出力アサイン）

COMPONENT端子（A、B）およびデジタル入出力端子（①～⑧）の用途設定を変更できます。

■ 7A [A] [B]（COMPONENT VIDEO端子）

初期設定：[A] DVD
[B] D-TV/LD

■ 7B（1）（2）（OPTICAL OUTPUT端子）

初期設定：（1）MD/TAPE
（2）CD-R

■ 7C（3）～（6）（OPTICAL INPUT端子）

初期設定：（3）CD
（4）CD-R
（5）DVD
（6）D-TV/LD

■ 7D（7）（8）（COAXICAL INPUT端子）

初期設定：（7）CD
（8）CBL/SAT

ご注意

- それぞれの項目（7A～7D）の中では、同一の端子名をアサインすることはできません。

8 INPUT MODE（初期インプットモード）

再生機器を2種類以上の入力端子に接続している場合の、電源投入時の入力モードを設定します（P26参照）。

初期設定：AUTO

AUTO
電源投入時AUTOに設定されます。

LAST
入力モードの最後の設定をメモリーして、電源投入時に同じ設定になります。

9 PARAM. INI（パラメーターイニシャライズ）

音場プログラムのパラメーターを、プログラムグループごとにイニシャライズします（初期設定値に戻します）。

1 **DSPキーを押します。**

2 **リモコンの10キー（音場プログラムキー）を押すと、その音場プログラムがイニシャライズされます。**

- パラメーターが変更されている音場プラグラムは、そのプログラムナンバーの前にアスタリスク（＊印）が付いています。

ご注意

- 音場プログラムにサブプログラムがある場合でも個別のイニシャライズは行えません。
- アスタリスク（＊）が付いていないプログラムをイニシャライズしても、何も変わりません。
- 「15 MEMORY GUARD」の設定（P43参照）がONの時は、イニシャライズできません。
- 一度イニシャライズした音場プログラムを、元の状態（パラメーターが変更された状態）に戻すことはできません。

10 DOLBY D. SET（ドルビーデジタルセット）

この設定はドルビーデジタル再生時のみ有効です。

■ 10A LFE LEVEL（LFEレベル）

ドルビーデジタルでのLFE信号の再生レベルを設定します。LFE信号は、ドルビーデジタルにおいて、意図されたシーンでのみ出力される特殊な低域効果音です。

可変範囲（dB）：－20～0
初期設定：（スピーカー、ヘッドホンともに）0dB

ご注意

● 使用するサブウーファーやヘッドホンなどの能力に応じて、LFEレベルを調節してご使用ください。

■ 10B D-RANGE（ダイナミックレンジ）

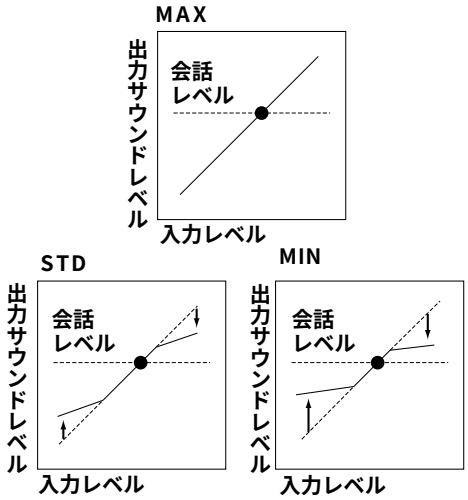
ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジを、MAX、STDまたはMINの3種類から設定します。

初期設定：（スピーカー、ヘッドホンともに）MAX

MAX
信号ソースのダイナミックレンジを最大限に再生します。

STD（STANDARD）
ソフト製作者が家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

MIN
小音量でも聴きやすく、深夜の視聴に適したダイナミックレンジです。



ご注意

● ドルビーデジタルソフトによっては、ダイナミックレンジのMINに対応していないため、音量が極端に下がる場合があります。このようなときは、ダイナミックレンジをMAXまたはSTDに設定してご使用ください。

11 DTS LFE LEVEL（DTS LFEレベル）

この設定はDTS再生時にのみ有効です。

DTSでのLFE信号の再生レベルを設定します。LFE信号は、DTSソースにおいて、意図されたシーンでのみ出力される特殊な低域効果音です。

可変範囲（dB）：－10～＋10
初期設定：（スピーカー、ヘッドホンともに）0dB

ご注意

● 使用するサブウーファーやヘッドホンなどの能力に応じて、LFEレベルを調節してご使用ください。

12 6.1/ES AUTO（6.1/ESオート）

6.1/ESデコーダーのオン／オフを、入力信号に応じて自動的に動作させるか、リモコンの6.1/ESキーでオン／オフにするかを設定します。

ON
ドルビーデジタルサラウンドEXまたはDTS ES自動認識対応ソフトが再生されると、6.1/ESデコーダーが自動的にオンになります。

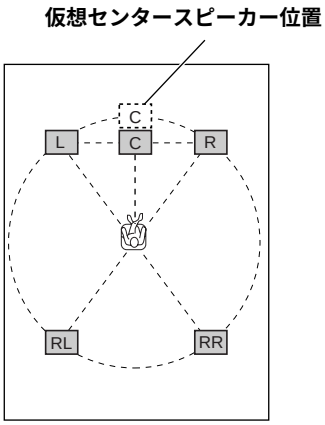
OFF
リモコンの6.1/ESキーのオン／オフで、6.1/ESデコーダーをオン／オフできます。

13 SP DELAY TIME（スピーカーディレイタイム）

センタースピーカーのディレイタイムを設定します。ドルビーデジタルまたはDTS再生時に有効です。

通常センタースピーカーはメインL、Rスピーカーと同一線上に置きますが、本来ならば同時に出た音が同時にリスナーの耳に届くように、3つのスピーカーとリスナーの距離が同一になるのが理想的です。ディレイタイムを設定することによって、仮想的にセンタースピーカーの位置を遠ざけ、等価的にリスナーと3つのスピーカーとの距離を合わせることができます。センターディレイは、音場の奥行き感やセリフの量感を増す効果があります。

可変範囲（ms）：0から5



- 目安として1ms増すとリスニングポジションから約30cm遠ざかったことになります。

14 DISPLAY SET（ディスプレイセット）

■ BLUE BACK > AUTO/OFF（ブルー画面設定）

オンスクリーン表示の設定でAUTOにすると、ビデオ信号の入力が無いときに、画面をブルーバックにできます。OFFにするとブルーバックにはなりません。

■ OSD SHIFT（OSD オフセット位置）

< / > キーでオンスクリーン表示位置を上下に調整できます。

■ DIMMER（デイマー）

本体ディスプレイの明るさを調節します。

15 MEMORY GUARD（メモリーガード）

設定したパラメーターやレベルなどを保護します。

ONで保護される設定

- 音場プログラムのパラメーター設定値
- MEMORY GUARD以外のセットメニュー
- センター、リア、サブウーファーのレベル
- オンスクリーン表示の設定

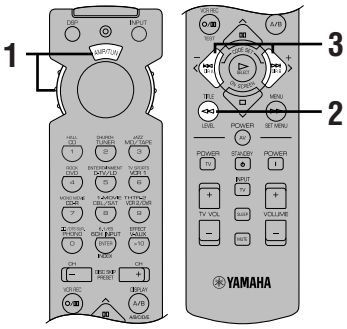
ご注意

- 「15 MEMORY GUARD」をONに設定すると、テストモードに入れません。
- 「15 MEMORY GUARD」をONに設定すると、他のセットメニューは呼び出せません。

エフェクトスピーカーのレベル調節

ソースの再生音を聴きながら、エフェクトスピーカー（センター、リアR、リアL、サブウーファー）のスピーカーレベル調節が行えます。

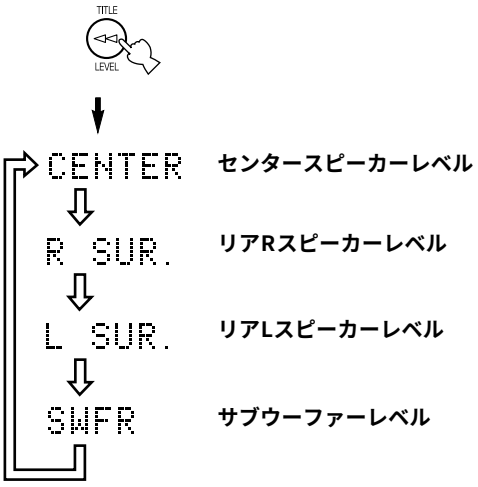
調節はリモコンで行います。



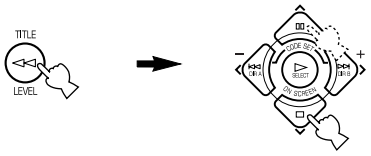
1 操作ダイヤルをAMP/TUN（またはDSP/TUN）のポジションにします。

2 LEVELキーを押して調節するスピーカーを選びます。

LEVELキーを押すごとに、センター→リアR→リアL→サブウーファー→センターの順で本体ディスプレイとモニター画面に表示されます。



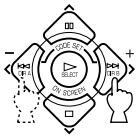
● LEVELキーでレベル表示にすると、∨ キーでもスピーカーを選択することができます。（∧ キーを押すと逆方向に選択できます。）



3 〈 または 〉キーを押して、スピーカーレベルを調節します。

●センターおよびリアL、Rスピーカーの調節範囲は、＋10〜－10dBです。

●サブウーファーの調節範囲は、－20〜0dBです。



ご注意

● スピーカーモードがNONEに設定されている場合、そのスピーカーのレベル調節はできません。

● LEVELキーでスピーカーレベルを調節すると、テストトーンで調節したスピーカーレベルも変更されます。

メモリーバックアップについて

本機の電源を切っても、調節したレベルは消えずに記憶（メモリー）されています。また、電源コードをACコンセントから抜いても約1週間位はメモリーしています。もし、時間が経過してメモリーが消えてしまったときは、1〜3の手順でレベルを再調節してください。

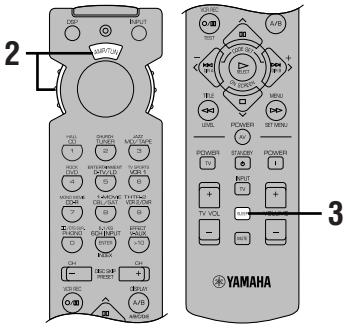
スリープタイマー

設定した時間が経過すると電源が自動的に切れるので、聴きながら、もしくは録音しながらおやすみになれます。スリープタイマーは本機のSWITCHED AC OUTLETSに接続した機器（ソース）の電源も切ります。

スリープタイマーの設定はリモコンで行います。

● 市販のタイマーを本機に接続するとウェイクアップタイマーの設定ができます。詳しくはタイマーの取扱説明書を参照してください。

スリープタイマーの設定



1 **ソースを選択して再生します。**

2 **操作ダイヤルをTVポジション以外の位置にします。**

3 **SLEEPキーを押して電源が切れるまでの時間を設定します。**

SLEEPキーを押すごとに次のように切り替わります。

→ SLEEP 120 min → SLEEP 90 min →
SLEEP OFF ← SLEEP 30 min ← SLEEP 60 min ←

4 **スリープタイマーが設定されるとSLEEPインジケーターが点灯します。**

ディスプレイは音場プログラム表示に戻ります。

スリープタイマーを解除する

“ SLEEP OFF ”の表示が出るまでSLEEPキーを繰り返し押します。

しばらくすると“ SLEEP OFF ”は消え、SLEEPインジケーターも消えます。ディスプレイは音場プログラム表示に戻ります。

● リモコンのSTANDBYキー（または本体のSTANDBY/ONキー）を押すか、電源コードを抜いてもスリープタイマーは解除できます。

リモコンで操作する

リモコンは本機および他のヤマハA/V機器を操作できます。他社の機器（またはヤマハのいくつかの機器）を操作するには、他のメーカーコードによるリモコンの設定を行ってください。

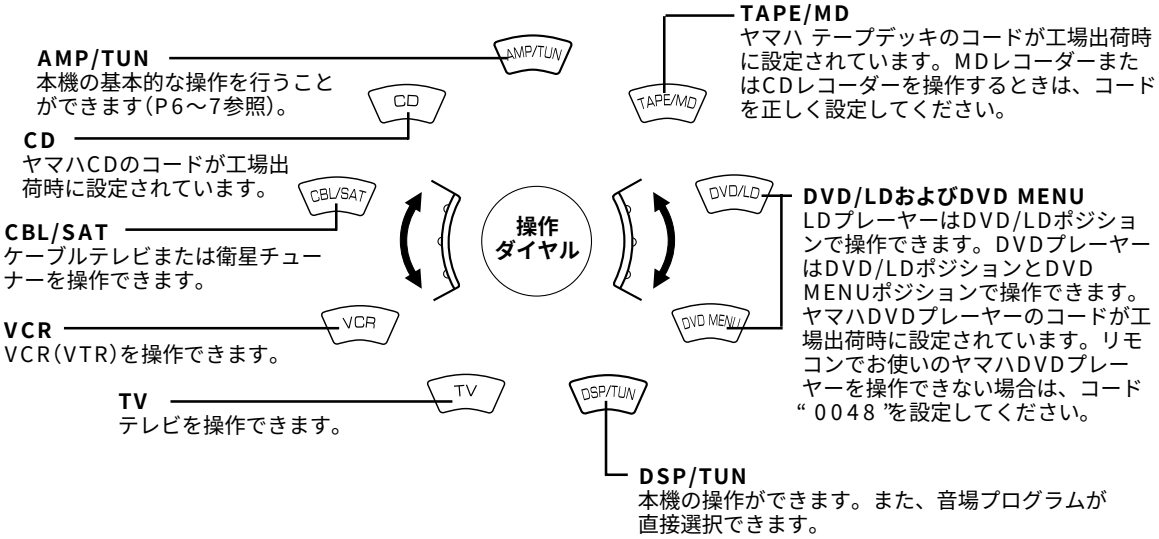
リモコンは「ラーニング（学習）」という、高度の機能を持っています。学習機能によって、赤外線リモコンを使用しているAVシステム（または他の家電機器）のリモコンの機能をラーニングすることができます。この機能により、リモコンの数を減らすことができます。

ご注意

- リモコンの操作範囲と乾電池については3ページと8ページを参照してください。
- 各部分の名称とはたらきについては、6ページから8ページを参照してください。
- リモコンのメモリーがいっぱいになったら、ラーニングできるキーがあっても、それ以上学習はできません（P52参照）。

操作ダイヤル

接続している外部機器をリモコンで操作するために選択できるポジションは9つあります。例えば、CDポジションを選択するは、リモコンはCD操作モードに設定されて、リモコンのキーでCDプレーヤーを操作できます。操作ダイヤルを回すと、ポジションは次のように切り換わります。



ご注意

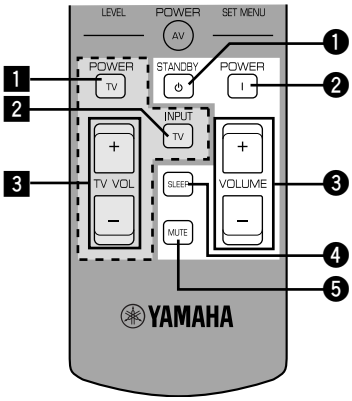
- リモコンの一般的な操作キーは、操作ダイヤルのポジションに応じて異なります。詳しくは次のページ以降を参照してください。

操作ダイヤルがどのポジションになっていても共通に使われるキー

操作ダイヤルのポジションに関係なく、本機およびテレビを次のキーで操作できます。

ご注意

● テレビの操作を行う前に、TVポジションで、ご使用になるテレビのコードを設定してください。



■ 本機の操作

6と7ページを参照してください。

❶ **STANDBY**

❷ **POWER**

❸ **VOLUME +/−**

❹ **SLEEP**

● テレビのコードを設定してある場合は、操作ダイヤルをTVポジションに合わせると、このキーをテレビのスリープタイマーの設定に使用できます。

❺ **MUTE**

● テレビのコードを設定してある場合は、操作ダイヤルをTVポジションに合わせると、このキーをテレビの消音（MUTE）に使用できます。

■ テレビの操作

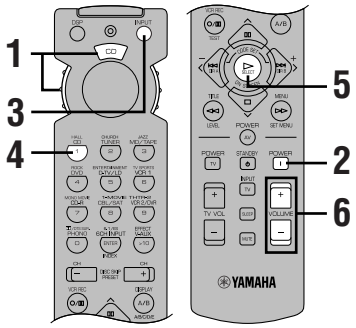
1 TV POWER（電源を入れます）

2 TV INPUT（入力を切り換えます）

3 TV VOLUME +/−（音量を調節します）

外部機器の操作方法

例として、ヤマハCDプレーヤーの操作について説明します。



1 操作ダイヤルをCDポジションにします。

2 POWERキーを押して、電源を入れます。

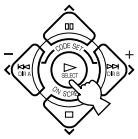
3 INPUTキー押します。

インジケーターが約３秒間点灯します。

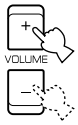
4 インジケーターが点灯している間に、CDキーを押します。

5 ▷ キー（再生）を押します。

CDプレーヤーの操作キーについては、48ページの“CDポジション”を参照してください。



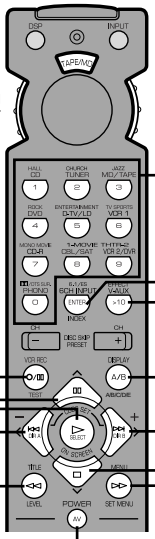
6 VOLUME +/−キーで音量を調節してお聴きください。



リモコンに、この取扱説明書の70ページ以降に記載してあるメーカーコードを設定すれば、他社の機器をリモコンで操作することができます。設定のしかたは、51ページの“メーカーコードの設定”を参照してください。

操作ダイヤルの各ポジションと使い方

■ TAPE/MDポジション（テープデッキ、MDレコーダーまたはCDレコーダー）



TAPE/MDポジションを選択します。

10キー(MD/CD-R)

INDEX(CD-R)

+10キー(MD/CD-R)

デッキA/B(テープ)
ダブルカセットテープデッキの、デッキAとBのいずれかを選択します。
DISPLAY(MD/CD-R)

○/▯▯ 録音/一時停止(テープ/MD)

▯▯ 一時停止(MD/CD-R)

▷ 再生

⏮ DIR A
デッキAの再生方向を選択します。
スキップ−(MD/CD-R)

⏭ DIR B(テープ)
デッキBの再生方向を選択します。
スキップ +(MD/CD-R)

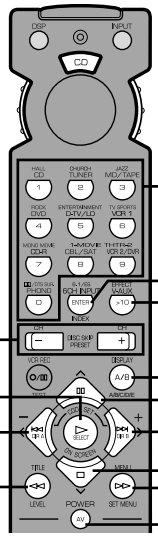
□ 停止

◁◁ 巻き戻し(テープ)
サーチ(MD/CD-R)

▷▷ 早送り(テープ)
サーチ(MD/CD-R)

AV POWERキー
(テープ)他社のコードを設定している場合、このキーを押すと、電源をオン/オフできるリモコンを持ったテープデッキであれば電源が入ります。
(MD)他社のコードを設定している場合、このキーを押すと、電源をオン/オフできるリモコンを持ったMDレコーダーであれば電源が入ります。
(CD-R)他社のコードを設定している場合、このキーを押すと、電源をオン/オフできるリモコンを持ったCDレコーダーであれば電源が入ります。

■ CDポジション



CDポジションを選択します。

▯▯ と □ キーについて
●ヤマハのCDプレーヤー(工場出荷時)の場合は ▯▯ または □ キーを一度押すと、一時停止となります。もう一度押すと停止となります。

10キー

INDEX

+10キー

DISC SKIP −/+
(CDチェンジャー付きのCDプレーヤー用)

DISPLAY

▯▯ 一時停止
ヤマハCDプレーヤー(工場出荷時の設定)：一時停止/停止

▷ 再生

⏭ スキップ +

⏮ スキップ −

□ 停止
ヤマハCDプレーヤー(工場出荷時の設定)：一時停止/停止

◁◁ サーチ

▷▷ サーチ

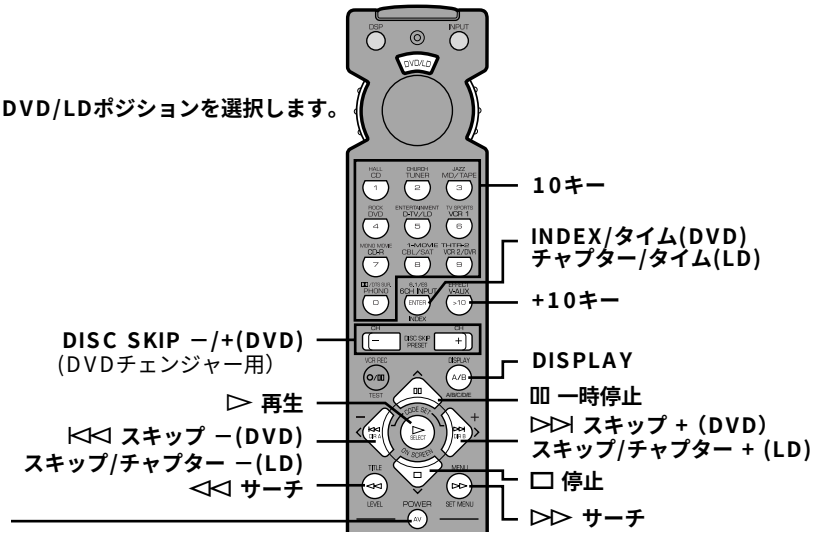
AV POWERキー
他社のコードを設定している場合、このキーを押すと、電源をオン/オフできるリモコンを持ったCDプレーヤーであれば電源が入ります。

ご注意

- 濃い灰色で図示したキーは、他社のコードを設定している場合でも機能しません。
- お手持ちの機器によっては、いくつかのキーが機能しないこともあります。お持ちの機器の取扱い説明書を参照してください。

DSPとINPUTキー以外のどのキーにも、リモコン機能のラーニングが可能です。52ページの“新しいリモコン機能のラーニング”を参照してください。

■ DVD/LDポジション



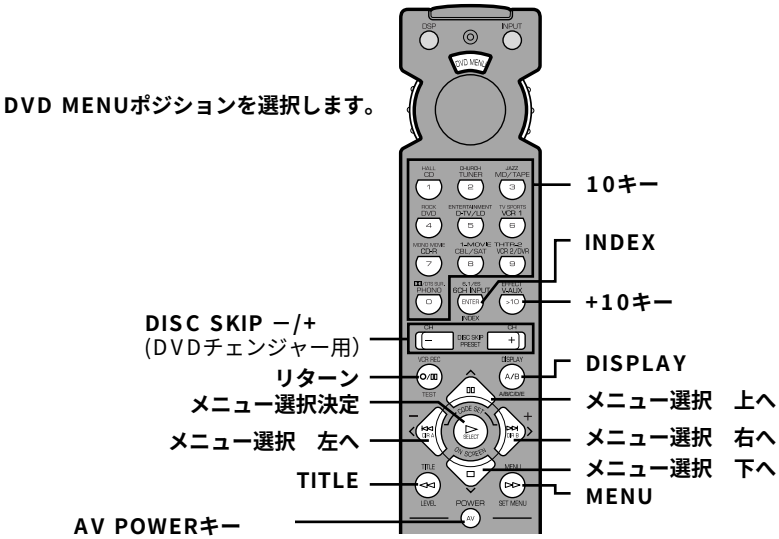
(DVD)コード“ 0048 ”を設定している場合、このキーを押すと、ヤマハDVDプレーヤーの電源が入ります。また他社のコードを設定している場合、このキーを押すと、電源をオン/オフできるリモコンを持ったDVDプレーヤーであれば電源が入ります。

(LD)他社のコードを設定している場合、このキーを押すと、電源をオン/オフできるリモコンを持ったLDプレーヤーであれば電源が入ります。

■ DVD MENUポジション

ご注意

● DVDプレーヤーによっては、DVD メニューの操作ができないものもあります。



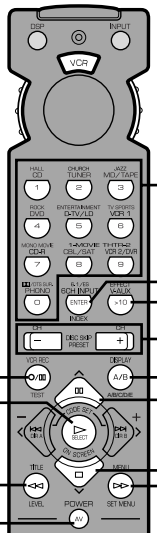
(DVD)コード"0048"を設定している場合、このキーを押すと、ヤマハDVDプレーヤーの電源が入ります。また他社のコードを設定している場合、このキーを押すと、電源をオン/オフできるリモコンを持ったDVDプレーヤーであれば電源が入ります。

ご注意

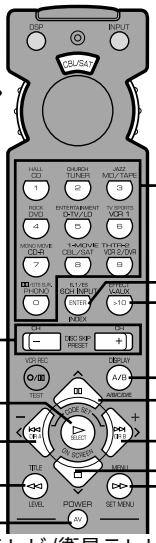
● 濃い灰色で図示したキーは、他社のコードを設定している場合でも機能しません。
● お手持ちの機器によっては、いくつかのキーが機能しないこともあります。お持ちの機器の取扱い説明書を参照してください。

DSPとINPUTキー以外のどのキーにも、リモコン機能のラーニングが可能です。52ページの“ 新しいリモコン機能のラーニング ”を参照してください。

■ VCRポジション



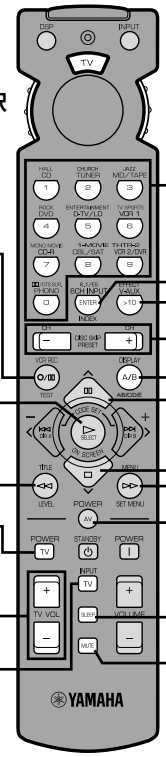
■ CBL/SATポジション



■ TVポジション

ご注意

● VCRポジションにVCRのコードを設定している場合、このポジションでVCRを操作できます。



ご注意

● 濃い灰色で図示したキーは、他社のコードを設定している場合でも機能しません。
● お手持ちの機器によっては、いくつかのキーが機能しないこともあります。お持ちの機器の取扱い説明書を参照してください。

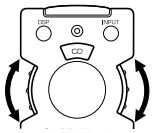
DSPとINPUTキー以外のどのキーにも、リモコン機能のラーニングが可能です。52ページの“新しいリモコン機能のラーニング”を参照してください。

メーカーコードの設定

操作ダイヤルの各ポジションに、お手持ちの機器のメーカーコードを設定できます。

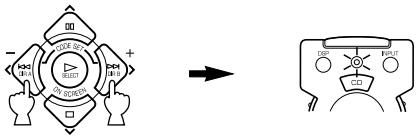
1 **お使いになりたい機器の電源を入れます。**

2 **操作ダイヤルを、お使いになる機器のポジション（TAPE/MD、CD、DVD/LDなど）に合わせます。**



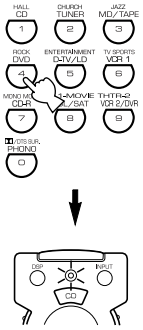
3 **〈 および 〉キーを同時に、約4秒間押します。**

インジケーターが2回点滅します。



4 **10キーで、お使いになる機器の4桁のメーカーコードを入力します。インジケーターが2回点滅することを確認してください。**

インジケーターが点滅しないとき、または急速に数回点滅した場合は、手順3をもう一度行ってコードを再入力してください。



5 **コードが正しく設定されているかどうか確認するために、AV POWERキーを押します。**

機器をリモコンで操作できない場合は、同じメーカーの他のコードを設定してみてください。

ご注意

- １つのポジションには１つのコードしか設定できません。
- DVD/LDおよびDVD MENUのポジションでは：DVD/LDプレーヤーのコードを入力する場合は、操作ダイヤルを必ず DVD/LDポジションに合わせてください。DVD/LDポジションで設定されたコードは同時にDVD MENUポジションにも設定されます。操作ダイヤルをDVD MENUポジションに合わせても、DVDプレーヤーのコードは設定できません。
- お手持ちの機器が、リストアップされているメーカーコードのいずれにも該当しない場合は、他のリモコンから機能をラーニングすることができます（詳しくは52ページを参照してください）。
- すでにキーに対してリモコン機能をラーニングしている場合は、ラーニングによる機能（P52参照）が、設定されたメーカーコードの機能より優先します。

■ 2台目（3台目）のVCRを使用するには

ケーブルテレビ/衛星テレビのチューナーまたはDVDプレーヤーが使われていないときは、CBL/SATおよびDVD MENUポジションで2台目（3台目）のVCRを操作できます。

ご注意

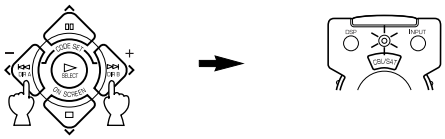
- DVD MENUポジションで2台目（3台目）のVCRを操作したいときは、DVD/LDポジションにLDプレーヤーのコードを設定してください。

1 **お使いになるVCRの電源を入れます。**

2 **操作ダイヤルをCBL/SATまたはDVD MENUポジションに合わせます。**

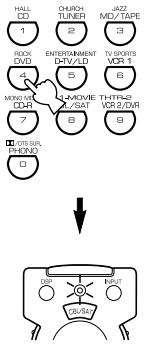
3 **〈 および 〉キーを同時に、約4秒間押します。**

インジケーターが2回点滅します。



4 **10キーで、2台目（3台目）のVCRの、4桁のコードを入力します。インジケーターが2回点滅することを確認してください。**

インジケーターが点滅しないか、または急速に数回点滅した場合は、手順3をもう一度行ってコードを再入力してください。



5 **コードが正しく設定されているかどうか確認するために、AV POWERキー（または他の操作キー）を押してください。**

VCRをリモコンで操作できない場合は、同じメーカーの他のコードを設定してみてください。

新しいリモコン機能のラーニング（学習機能）

メーカーコードが対応していない機能をラーニングしたい場合、またはメーカーコードを利用できない場合は、次の操作を行ってください。AMP/TUNとDSP/TUNポジションを除く、操作ダイヤルのすべてのポジションで、DSPとINPUTキーを除くすべてのキーに機能をラーニングすることができます。従って各キーには、操作ダイヤルの各ポジションに対してそれぞれ独立してラーニングできます。

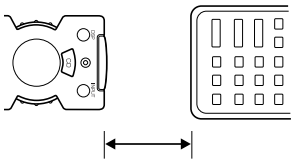
● 約60の機能をラーニングできます。

ご注意

● 本リモコンは赤外線を利用しています。外部機器のリモコンも赤外線を利用していれば、そのリモコンの殆どの機能を学習することができます。しかし、特殊な信号または極度に長い信号は、ラーニングできないことがあります（外部機器の取扱説明書を参照してください）。

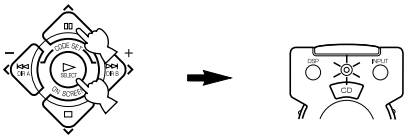
1 操作ダイヤルを、ラーニングしたい機器のポジションに合わせます。

2 本リモコンと、もう一つのリモコンを約1～4cm離して、赤外線送受信部が互いに対向するように置きます。



3 ◻◻ および ▷ キーを同時に、約4秒間押し続けます。

インジケーターが2回点滅します。

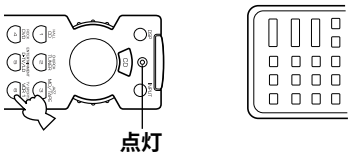


ご注意

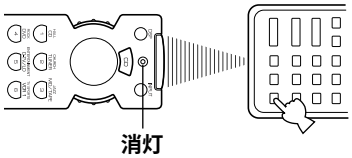
● 手順4と5で30秒間何もキーを押さないときは、インジケーターが2回点滅してラーニングモードがキャンセルされます。その場合は手順3からやり直してください。

4 新しい機能をラーニングしたいキーを押します。

インジケーターが点灯します。



5 インジケーターが消えるまで、もう一つのリモコンの、ラーニングさせたい機能のキーを押してください。



ご注意

● リモコンが、もう一つのリモコンからの信号を受信できない場合は、インジケーターが急速に点滅します。
● メモリーがいっぱいになると、インジケーターが2回点滅し、他の機能をラーニングできなくなります。既にラーニングされた機能のうち不必要なものを消去し、新しい機能をラーニングできるようにしてください。
● 手順5の後、30秒間何もキーを押さないときは、インジケーターが2回点滅します。これは、ラーニングが終了し、リモコンがラーニングモードから抜け出たことを示します。

6 続けて、別の機能をラーニングするには、手順4と5を繰り返してください。

7 ラーニングモードから抜け出るには、DSPキーまたはINPUTキーを押すか、操作ダイヤルを回してください。

インジケーターが2回点滅します。

ご注意

● 外部機器のリモコンの乾電池が操作（リモートコントロール）信号を送るのに十分な電力をもっている場合でも、ラーニングのための信号を送るには電力が不足していることがあります。
● 2台のリモコンが互いに接近しすぎているか、遠く離れすぎている場合は、ラーニングができない場合があります。
● リモコンに直射日光が当たっていると、ラーニングできない場合があります。

メモリーバックアップ

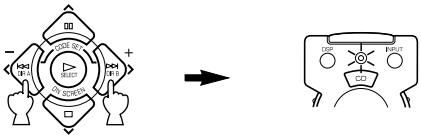
リモコンから乾電池を抜いたまま2分間放置したり、消耗した乾電池がリモコンに入ったままになっていると、メモリーの内容が消去されることがあります。メモリーが消去されたら、新しい乾電池を挿入し、メーカーコードを設定し、もう一度ラーニングしてください。

工場出荷時の設定に戻すには

■ 工場出荷時のコードに戻し、ラーニングした機能をすべてのポジションで消去するには

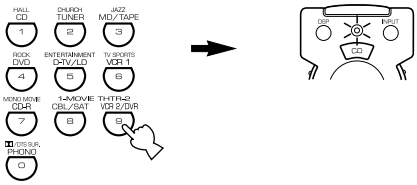
1 **＜および＞キーを同時に、約4秒間押します。**

インジケーターが2回点滅します。



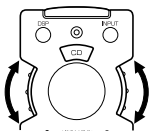
2 **コード“9990”を入力します。**

インジケーターが2回点滅するのを確認します。



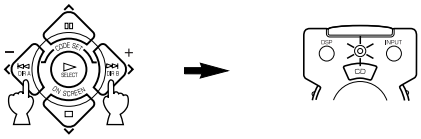
■ 工場出荷時のコードに戻し、ラーニングした機能を各ポジションで消去するには

1 **操作ダイヤルを、工場出荷時の設定に戻したいポジションに合わせます。**



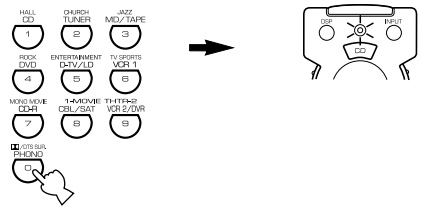
2 **＜および＞キーを同時に、約4秒間押します。**

インジケーターが2回点滅します。



3 **コード“0000”を入力します。**

インジケーターが2回点滅するのを確認します。



工場出荷時には下記のコードが設定されています

操作ダイヤルのポジション	機器	コード
TV	TV	0101
CBL/SAT	衛星チューナー	0006
VCR	VCR	0002
DVD/LD	DVDプレーヤー	0008（ヤマハDVDプレーヤー）
CD	CDプレーヤー	0005（ヤマハCDプレーヤー）
TAPE/MD	テープデッキ	0004（ヤマハテープデッキ）
AMP/TUN	本機	0003
DSP/TUN	本機	0013

設定したコードを「リモコン操作チャート」に書き留めておくことをお勧めします。

音場プログラム

本機には、高性能マルチプログラム・デジタル音場プロセッサー（DSP）が搭載されています。このプロセッサーにより、劇場のような音場をリスニングルームで再現することができます。お聴きになるソースに合わせて音場プログラムを選択し、適切な調整を行うことにより、優れたオーディオサウンドを再生することができます。

下記のリストは、各音場プログラムによって再現される音場に関する説明です。そのほとんどが、実際の音響環境の正確な実測データをもとにしたデジタル再生です。

ご注意

● 下記の名称や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

Hi-Fi DSPプログラム

■ オーディオソース：No.1～No.5

No.	プログラム（グループ）	サブプログラム	特長
1	CONCERT HALL	ー	円形ホールをイメージさせる広大な音場で、全周囲に反射音が拡がり、サラウンド感が強く、豊麗な響きが特長です。
2	CHURCH	ー	120m近い尖塔を持つ大きな教会です。石を積み上げて造られており、天井が高く、細長い空間を持っています。残響時間は非常に長くなりますが、逆に初期反射は少なくなります。そのため、直接音の厚みは余りありませんが、響きが多く、教会特有の音場を再現します。
3	JAZZ CLUB	ー	ニューヨークで話題のライブハウス“ザ・ボトムライン”のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。
4	ROCK CONCERT	ー	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460程です。客席中央左寄りの音場です。
5	ENTERTAINMENT	Disco	ディスコミュージックに包まれる乗りの良い音場空間を演出するプログラムです。
		5ch Stereo	後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特徴のホームパーティーを演出する音場プログラムです。

ご注意

● メインスピーカーL、Rからは入力されたままのステレオ音声が出力されます。センタースピーカーからは音が出ません。（ドルビーデジタルまたはDTS入力時にこれらのプログラムを選択した場合は出力されます。また、5ch Stereo選択時には入力ソースに関わらず設定した全てのスピーカーから出力されます。）

CINEMA DSPプログラム

■ ビデオ・ソースの場合：No. 5〜No. 7

No.	プログラム（グループ）	サブプログラム	特長
5	ENTERTAINMENT	Game	モノラル、ステレオを問わず、ゲームサウンドにビビッドな奥行きとサラウンド感を与え、迫力と臨場感のあるゲームが楽しめます。
6	TV SPORTS	−	プレゼンス音場は狭めてあるが、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しており、様々なバラエティーや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと拡がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。6.1/ESデコーダー動作時は、リアセンター音源とリアセンター音場が加わります。
7	MONO MOVIE	−	古いモノラル名作映画専用のポジションです。オペラハウス系のプレゼンス音場と適度な残響処理により、往年の名作映画のモノラル音声が臨場感を持って再生されます。6.1/ESデコーダー動作時は、リアセンター成分が再生されます。

■ 映画の場合：No. 8〜No. 10

No.	プログラム（グループ）	サブプログラム		入力ソース	特長
8	MOVIE THEATER 1	Spectacle	70 mm Spectacle	アナログ、PCM、ドルビーデジタル（2チャンネル）	70mm映画の大画面シアターそのものの超ワイドな空間に映画の空気がそのまま存在するようなスペクタクルな音場です。微妙な音の響きまでも再現する表現力をもち、映像と空間に今までにないリアリティを生みだします。70mm映画初期の作品から最新のドルビーソフトおよびDTSソフトまで、幅広くスペクタクルな世界が楽しめます。
			DGTL Spectacle *1	ドルビーデジタル	
			Spectacle 6.1 *2		
			DTS Spectacle *1	DTS	
			Spectacle ES *2		
		Sci-Fi	70 mm Sci-Fi	アナログ、PCM、ドルビーデジタル（2チャンネル）	最新のSFX映画のサウンドデザインをセリフと音楽効果音にクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ空間を演出します。高度なテクニックを駆使したドルビーステレオ、ドルビーデジタル、DTSソフトまで、Science Fictionの世界を仮想空間音場で楽しめます。
			DGTL Sci-Fi *1	ドルビーデジタル	
			Sci-Fi 6.1 *2		
			DTS Sci-Fi *1	DTS	
			Sci-Fi ES *2		

音場プログラム

No.	プログラム（グループ）	サブプログラム		入力ソース	特長
9	MOVIE THEATER 2	Adventure	70 mm Adventure	アナログ、PCM、ドルビーデジタル（2チャンネル）	最新の映画サウンドデザインを最高に再現するプログラムです。70mm／ドルビーデジタルおよびDTSマルチトラックにデザインされた演出を忠実に再現すると共に音場プログラム自体の響きをできるだけ抑え、響きをデットにした最新の映画館とコンセプトを同じにしています。プレゼンス音場に、オペラハウス音場データを使用。会話の定位、立体感に優れています。サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用、力強い響きと共にアクション、アドベンチャーなどのデザインされたサウンドを明確に再現し、痛快な臨場感をもたらします。
			DGTL Adventure *1	ドルビーデジタル	
			Adventure 6.1 *2		
			DTS Adventure *1	DTS	
			Adventure ES *2		
		General	70 mm General	アナログ、PCM、ドルビーデジタル（2チャンネル）	70mm/ドルビーデジタルおよびDTSマルチトラックのサウンドを再現するプログラムで、全体に柔らかい拡がり感のある響きが特長です。プレゼンス音場はやや狭い印象で、セリフの響きを抑え明瞭度を損なわずにスクリーン周囲とスクリーンの奥に立体的に再現されます。サラウンド音場は後方の広い空間に音楽やコーラス等のハーモニーが美しく響く印象です。
			DGTL General *1	ドルビーデジタル	
			General 6.1 *2		
			DTS General *1	DTS	
			General ES *2		

No.	プログラム（グループ）	サブプログラム		入力ソース	特長
10	DD/DTS SURROUND	Normal/ Matrix 6.1/ES	PRO LOGIC/Normal	アナログ、PCM、ドルビーデジタル（2チャンネル）	ドルビーサラウンド プロロジック／ドルビーデジタルデコーダーまたはDTSデコーダーで正確に処理されたムービーサウンドをストレートに再生します。セパレーション特性に優れ、スムーズで正確な音源の移動や定位が得られます。6.1/ESデコーダー動作時はリアセンター成分が再生されます。このプログラムでは、デジタル音場プロセッサーは作動しません。
			DOLBY DIGITAL/ Normal *1	ドルビーデジタル	
			DOLBY DIGITAL/ Matrix 6.1 *2		
			DTS DIGITAL SUR./ Normal *1	DTS	
			DTS DIGITAL SUR./ ES *2		
		Enhanced	PRO LOGIC/Enhanced	アナログ、PCM、ドルビーデジタル（2チャンネル）	ドルビーサラウンドまたはDTSサラウンドのオリジナル定位を乱すことなく、正確なデコード動作とDSP処理を行います。35mm映画館のマルチサウンドスピーカーを、より理想的なものへシミュレーションした音場です。サラウンド音場は、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。そのため、音の移動は後方から左右、スクリーンに自然につながり、映画制作側の意図する効果を再現します。6.1/ESデコーダー動作時はリアセンター音源とリアセンター音場が加わります。
			DOLBY DIGITAL/ Enhanced *1	ドルビーデジタル	
			DOLBY DIGITAL/ Enhanced 6.1 *2		
			DTS DIGITAL SUR./ Enhanced *1	DTS	
			DTS DIGITAL SUR./ Enhanced ES *2		

*1 ドルビーデジタルマトリックス6.1またはDTS ESデコーダーがオフの時。
*2 ドルビーデジタルマトリックス6.1またはDTS ESデコーダーがオンの時。“ 6.1/ES ”インジケーターが本体ディスプレイに点灯します。

- 入力モードがAUTOに設定されている場合、ドルビーデジタル信号またはDTS信号が入力されると、音場プログラムは自動的にドルビーデジタル再生用音場またはDTS再生用音場に切り換わります。
- セットメニューの「12 6.1/ES AUTO」がONに設定されている場合、ドルビーデジタルサラウンドEXまたはDTS ES自動認識対応のソフトを再生すると、ドルビーデジタルマトリックス6.1またはDTS ESデコーダーが自動的にオンになり、対応する音場プログラムに切り換わります。
- ドルビーデジタル5.1チャンネルソースまたはDTS 5.1チャンネルソースの再生時に、リモコンの6.1/ESキーでドルビーデジタルマトリックス6.1またはDTS ESデコーダーをONまたはOFFできます。

ご注意

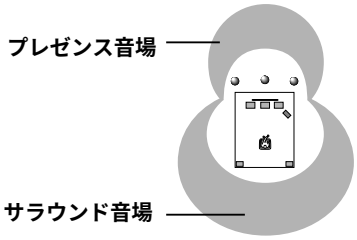
- DD/DTS SURROUNDのサブプログラム“ Normal ”を選択している場合は、“ DSP ”インジケーターは点灯しません。
- セットメニューの「1A CENTER SP」をNONEに設定すると、センタースピーカーから音が出ません。
- モノラルソースをCINEMA DSPプログラム5（Game）と6から9で再生した場合、メインスピーカーから効果音がでます。

MOVIE THEATERプログラム

通常手にする映画のパッケージソフトは、ドルビーサラウンドのマトリックス技術によって4チャンネル(L/C/R/S)の音声情報がエンコード処理され、L、Rに収められています。それをデコード(復元)するのがドルビープロロジックデコーダーです。MOVIE THEATERプログラムは、エンコード・デコード処理によって失われがちな拡がり感や微妙な音のニュアンスまでも再現しようというものです。

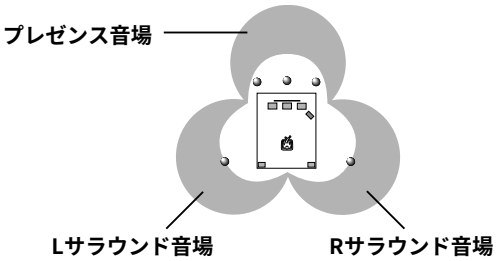
マトリックス処理を行わない70mmフィルムの6チャンネルマルチトラックで得られるような明瞭な音源の定位と豊かな拡がりを、ダビングステージのクオリティと理想的な音場で楽しめるのがMOVIE THEATER70mmプログラムです。また、最新の映画館用デジタルサラウンドシステムであるドルビーデジタルやDTS(デジタルシアターシステムズ)のサウンドをそのまま家庭でも楽しめるように開発されたのがドルビーデジタルデコーダーおよびDTSデコーダーです。本機のMOVIE THEATERプログラムでは、映画館用にデザインされたドルビーデジタルやDTSサウンドを家庭用のスピーカーシステムで、家庭のスペースで再生しても、臨場感あふれるスケールの大きな音場をお楽しみいただけます。

■ ムービーシアター70mmプログラム



雄大な音場空間を表現でき、サラウンド音に広がりを持たせることで包囲感が表現できます。また、フロントにも奥行きが出て、ドルビーステレオ映画館のような臨場感が再現できます。

■ ムービーシアター・ドルビーデジタルおよびDTSプログラム



ドルビーデジタルおよびDTSのフロント、Lサラウンド、Rサラウンド信号に独立したヤマハ3音場DSP処理を施します。これにより、チャンネルセパレーションの良さなどを犠牲にすることなく、雄大な音場表現や包囲感の優れたサラウンド再生が可能になり、最新のデジタルサラウンド映画館のような臨場感が再現できます。

音場プログラムパラメーターを変更する

音場とは

生の楽器の豊かで優美な音色を実際に作り出すのは、室内の壁から発せられる数多くの反射音です。こうした反射音は音を“生き生き”とさせるだけでなく、演奏者のいるステージや、観客席を含めた演奏会場そのものの規模や形状をも伝えてくれます。

■ 音場の構成要素

音場を構成する要素として、楽器がかなでる音が直接伝わってくる直接音と、周囲の物体に反射してくる2種類の反射音があります。

初期反射音

1つの表面のみに（例えば、天井や壁に）反射してから、極めて急速（直接音が発生してから50msから100ms後）にリスナーの耳に到達する反射音です。これらの反射音は特定の環境の場合に61ページの図に示す固有のパターンに分類されます。初期反射音によって直接音に明瞭さが付加されます。

後部残響音

2つ以上の表面（例えば、壁、天井、部屋の後部）で何度も反射を繰り返しながら、多数の反響音がひとまとめになって連続した音響の“余韻”が残ります。これらの反射音は方向性がなく、直接音の鮮明さを劣化させます。

直接音、初期反射音、後部残響音がひとつになることで、リスナーは演奏会場や劇場をイメージすることができるのです。デジタル音場プロセッサーはこの反射音、残響音を再現して、音場を作り出します。

リスニングルームで適切な反射音や後部残響音を再現できれば、独自のリスニング音場を作り出すことができるわけです。リスニングルームをコンサートホール、ダンスフロア、大聖堂などさまざまな演奏会場や劇場の音響効果に変えることができます。意のままに音場を再現する能力こそ、デジタル音場プロセッサーを通じてヤマハがこれまでに実践してきたことです。

音場プログラムパラメーター

音場プログラムは、演奏会場や劇場の規模、残響時間、リスナーから演奏者までの距離などを判断するためのパラメーターで構成されています。各プログラムは、プログラム固有の音場を作り出すためにヤマハによって正確に計算された数値を用いてこれらのパラメーターが設定されます。パラメーターの数値を変更せずに音場プログラムを使用することをお勧めしますが、本機を使用すれば独自の音場を作り出すこともできます。まずは内蔵プログラムの1つを手始めに、これらのパラメーターを調整してみるとよいでしょう。

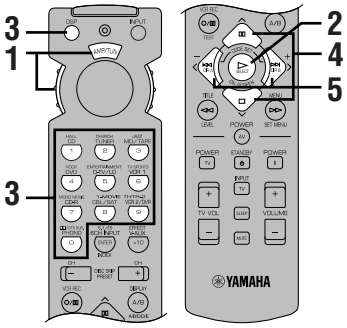
各音場プログラムに設定されているパラメーターセットを元にして、お望みの効果を正確に作り出すために音響環境の特性を変更することができます。これらのパラメーターは、実際のコンサートホールをはじめとした演奏会場における音場を再現する数多くの自然音響ファクターに対応しています。例えば、リスニングルームの大きさは初期反射音間の時間の長さに影響します。音場プログラムの多くに設定されている“ROOM SIZE（ルームサイズ）”パラメーターはこれらの反射音間のタイミングを変更し、結果的にリスニングする“ルーム”の形状を変えています。ルームサイズのほかに、リスニングルームの形状や表面の特性も最終的な音に重大な影響を与えます。例えば、音を吸収する表面は反射音や残響音をより速く減衰させます。また、反射性の高い表面は反射音がより長時間持続されます。このようにデジタル音場パラメーターに関するこれらのファクターを調整できますから、リスナーの気分や好みの音楽にぴったり合った自分だけのリスニング環境を再現するために“デザインしなおす”ことができます。

61から64ページの“デジタル音場パラメーターガイド”を参照してください。

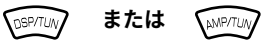
パラメーター値を変える

音場プログラムのパラメーターは、初期設定値のままで十分お楽しみいただけます。基本的に設定を変更する必要はありませんが、音場プログラムの一部のパラメーターは、プリセット値を変更することができ、ソースや部屋の音響に合わせて音場プログラムをアレンジして楽しめます。
リモコンで操作します。

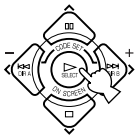
● パラメーター値は、モニター画面を見ながら変更することをお勧めします。本体ディスプレイよりもモニター画面のほうが容易に変更できます。



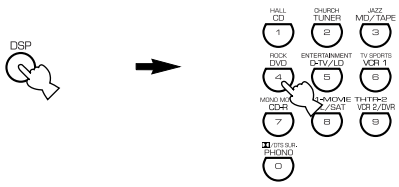
1 **操作ダイヤルをDSP/TUN（またはAMP/TUN）のポジションにします。**

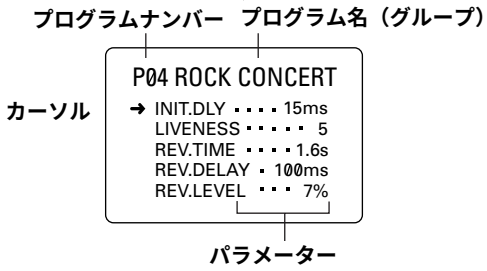


2 **モニターの電源を入れ、ON SCREENキーを押してフル表示を選択します。**



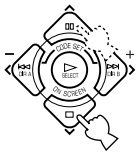
3 **音場プログラムを選択します。**





例：ROCK CONCERT

4 **∧ または ∨ キーを押して、パラメーターを選択します。**



5 **< または > キーを押して、パラメーターの設定値を変更します。**

● 初期設定値以外に変更すると、パラメーター名の前にアスタリスク（＊）がモニター画面に表示されます。

6 **必要に応じて、3～5の手順を繰り返し、他のプログラムのパラメーターを変更します。**

メモリーバックアップについて
本機の電源を切っても、パラメーターの設定内容はメモリー（記憶）されています。約1週間は電源コードをコンセントから外しても、メモリー内容はそのまま記憶されています。ただし1週間を過ぎると、パラメーターが初期設定に戻り、メモリー内容が消去されることがあります。このような場合は再度、設定を行ってください。

パラメーターを初期設定値に戻すには

■ パラメーターの一部を初期設定値に戻すには

パラメーターを選択します。初期設定値で一旦表示が止まるまで、< または > キーを押し続けます。モニター画面から、パラメーター名の前のアスタリスク（＊）が消えます。

■ 音場プラグラム内のパラメーターをすべて初期設定値に戻すには

セットメニュー「9 PARAM. INI」を使用して、各音場プログラムごとにパラメーターをすべて初期設定値に戻せます（P41参照）。音場プログラムグループ内すべてのパラメーターが初期化されます。

ご注意

● プログラムによっては、有効なパラメーターが数ページのOSD画面に表示される場合があります。∧ または ∨ キーを押してページをスクロールしてください。
● セットメニュー「15 MEMORY GUARD」がONに設定されている場合は、パラメーターを変更できません。パラメーターを変更する場合は、OFFに設定してください（P43参照）。

デジタル音場パラメーターガイド

デジタル音場パラメーターを調整してリスニングルームの音場をアレンジして楽しめます。

ご注意

● 以下のパラメーターはすべてのプログラムに設定できるわけではありません。

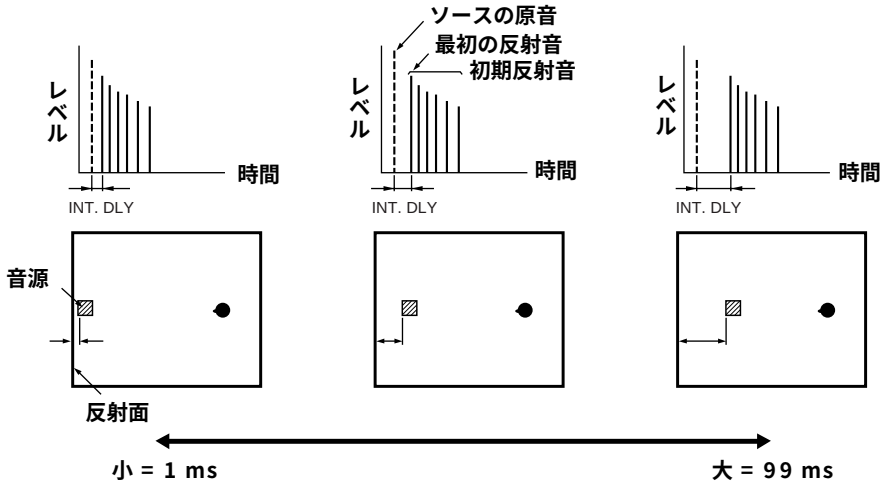
■ INIT.DLY（initial delay）（P.INIT.DLY：プレゼンス音場用）

機能：　音源と壁面との距離感を調節。

可変範囲：　1ms～99ms

解説：　直接音から初期反射音が始まるまでの時間（遅延時間）をコントロールするパラメーターです。
初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁面に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。INIT.DLYを調節することにより、ソースの音源から周りの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のできかた等がコントロールできます。

● 遅延時間を長くした場合、組み合せによっては違和感のある音になることがあります。

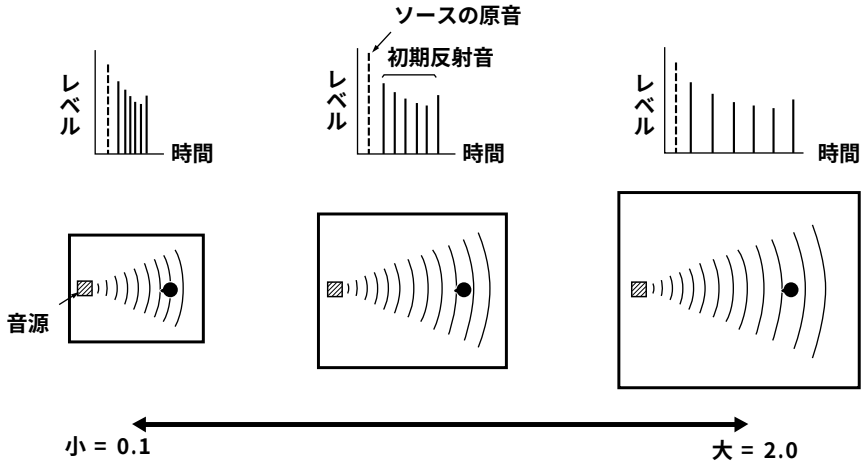


■ ROOM SIZE（P.ROOM SIZE：プレゼンス音場用）

機能：　拡がり感の調節。

可変範囲：　0.1～2.0

解説：　空間の拡がり感をコントロールするパラメーターです。
値を大きくするほど広い空間になり、値を小さくするほど狭い空間になります。音が反射を繰り返すとき、壁と壁の間が広い大きなホールほど、反射音と反射音の時間的な間隔が長くなります。このことから、反射音どうしの時間間隔をコントロールすれば、拡がり感を変えることができるということになります。
1.0で実測値そのまま、2.0にすると、一辺の長さが倍の空間になります。

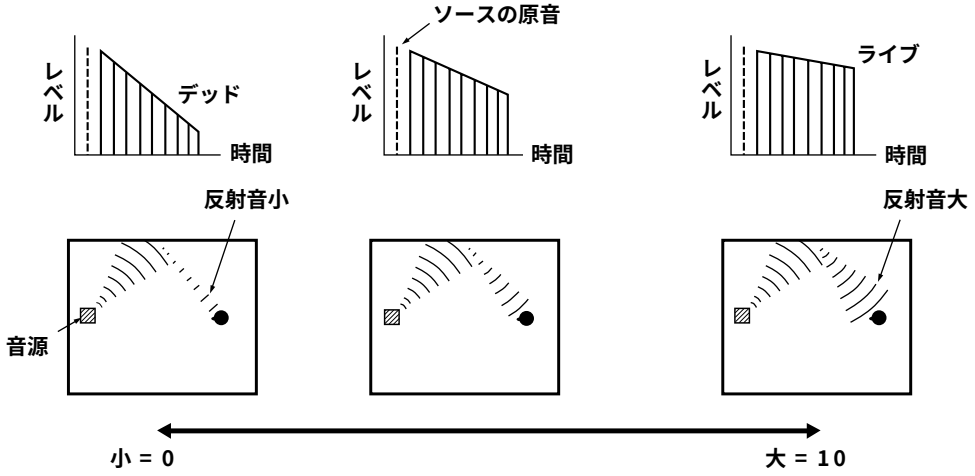


■ LIVENESS

機能:　響き具合の調節。

可変範囲:　0〜10

解説:　初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。値を大きくするほど、反響が多くライブな音場になり、値を小さくするほど反響が少ないデッドな音場になります。実際のホールでのライブ感／デッド感は、反射面の吸音特性によって決定され、反射音の減衰が早ければデッドに、遅ければライブに感じられます。



■ S.DELAY (surround delay)

機能:　サラウンド音場の遅延時間を調節。

可変範囲:　0ms〜49ms（可変範囲は信号によります。）

解説:　ドルビーデジタル／DTS入力時:
直接音とサラウンド音源との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音源が遅れて発生します。
ドルビーデジタル／DTS以外の入力時:
直接音とサラウンド音場との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音場が遅れて発生します。サラウンド音源は存在しません。

■ S.INIT.DLY (surround initial delay)

機能:　サラウンド音場の遅延時間を調節。
（「フロント2チャンネル（または3チャンネル）＋リア2チャンネル」以上で、ドルビーデジタルおよびDTS入力時のみ有効）

可変範囲:　1ms〜49ms

解説:　直接音とサラウンド音場との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音場が遅れて発生します。

■ S.ROOM SIZE (surround room size)

機能:　サラウンド音場の拡がり感を調節。

可変範囲:　0.1〜2.0

解説:　サラウンド音場の拡がり感をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドの音場空間が拡がります。

■ S.LIVENESS (surround liveness)

機能:　サラウンド音場の響き具合を調節。

可変範囲:　0〜10

解説:　サラウンド音場の減衰量をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンド音場の響きが強くなります。

■ RC.INIT.DLY（rear center initial delay）

機能：　リアセンター音場の遅延時間を調節。
（6.1/ESデコーダーがオンのときのみ有効）

可変範囲：1ms～49ms

解説：　直接音とリアセンター音場との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどリアセンター音場が遅れて発生します。

■ RC.ROOM.SIZE（rear center room size）

機能：　リアセンター音場の拡がり感を調節。
（ドルビーデジタルサラウンドEXおよびDTS ES入力時のみ有効）

可変範囲：0.1～2.0

解説：　リアセンター音場の拡がり感をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、リアセンターの音場空間が拡がります。

■ RC.LIVENESS（rear center liveness）

機能：　リアセンター音場の響き具合を調節。
（6.1/ESデコーダーがオンのときのみ有効）

可変範囲：0～10

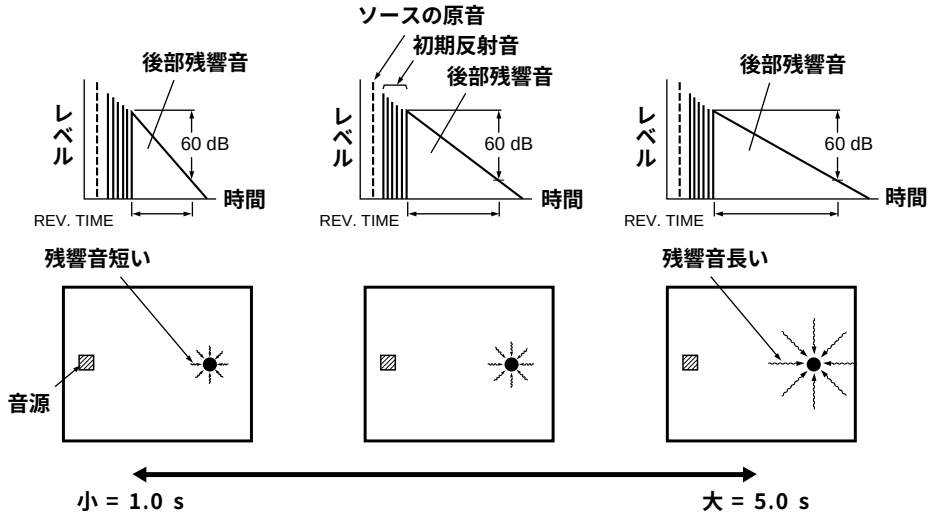
解説：　リアセンター音場の減衰量をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、リアセンター音場の響きが強くなります。

■ REV.TIME (reverberation time)

機能：　余韻の長さを調節。

可変範囲：1.0s～5.0s

解説：　後部残響音が減衰していく時間をコントロールするパラメーターです。
約1kHzの残響音が60dB減衰するのにかかる時間を基準にしています。値を小さくするほど、残響音が早く減衰します。
REV.TIMEを調節することにより、デッド気味のソースやリスニングルームに少し長めの残響時間を設定したり、逆にライブ気味のソースやリスニングルームには、短い残響時間を設定して自然な残響音となるようにコントロールすることができます。

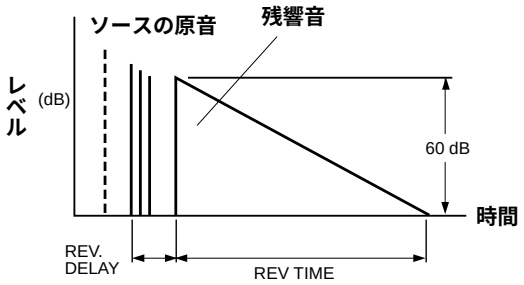


■ REV.DELAY (reverberation delay)

機能:　残響音の遅延時間を調節。

可変範囲:　0ms～250ms

解説:　残響音が発生し始めるまでの時間です。値を大きくするほど、残響音が最初の初期反射音より遅れて発生するようになります。同じREV.TIMEでも、REV.DELAYを長くしていくと大きな空間の残響感になります。

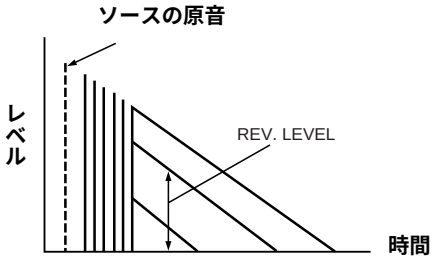


■ REV.LEVEL (reverberation level)

機能:　余韻の強さを調節。

可変範囲:　0%～100%

解説:　後部残響音のレベルをコントロールするパラメーターです。
値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。値を小さくするほど後部残響音のレベルが小さくなり、余韻が弱く感じられます。



■ CT.DELAY (center delay)

■ LS.DELAY (left surround delay)

■ RS.DELAY (right surround delay)

機能:　5チャンネルステレオモード時に上記チャンネルの遅延時間を調節するパラメーターです。

可変範囲:　0ms～50ms

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や、対処しても正常に動作しない場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買上店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

■ 全般

症状	原因	解決方法	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みます。	19
	スピーカーコードがショートした状態で電源を入れると保護回路により電源が切れることがある。	スピーカーの接続を確認してください。	16、17
電源スイッチを押しても電源が入らない。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みます。	19
音や画像が出ない。	接続が不完全。	接続を確認してください。	12 ー 15
	再生するソースの選択が適切でない。	INPUT ◁ / ▷ キーまたは6CH INPUTキーで正しく選択をしてください。	24
	スピーカーがしっかり接続されていない。	しっかり接続してください。	16、17
	SPEAKERSスイッチ（A、B）が正しく設定されていない。	使用するスピーカーに対応するSPEAKERSスイッチをONに設定してください。	24
	ボリューム（音量）が絞られている。	ボリュームを大きくしてください。	25
	消音されている。	リモコンのMUTE（消音）キーまたはVOLUME +/ーキーなどを押して消音を取り消し、音量を調節してください。	25
	CD-ROMなどが再生されるなど、本機で再生できないPCMオーディオ、ドルビーデジタルまたはDTS信号以外のデジタル信号が本機に入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	ー
画像が表示されない。	本機とモニターがSビデオ接続されていない状態で、本機にSビデオ信号が入力されている。	モニターのSビデオ端子を本機のS VIDEO MONITOR OUT端子に接続してください。	14、15
音声が突然出なくなる。	ショートなどの原因により保護回路が作動している。	スピーカー配線が相互に接触していないことを確認してから、本機のスイッチをONに入れなおしてください。	16、17
	スリープタイマーが作動した。	電源をONにして、ソースを再生しなおしてください。	45
	消音されている。	リモコンのMUTE（消音）キーまたはVOLUME +/ーキーなどを押して消音を取り消し、音量を調節してください。	25
片側チャンネルの音がほとんど出ない。	接続が不完全。	接続を確認してください。 また、スピーカーコードの断線も確認してください。	12 ー 17
	セットメニューの「3 L/R BALANCE」が正しく設定されていない。	バランスを正しく設定しなおしてください。	40

症状	原因	解決方法	参照ページ
エフェクトスピーカーから音が出ない。	EFFECT OFFになっている。	EFFECTキーを押して、EFFECT ONにしてください。	29
	ドルビーサラウンド、ドルビーデジタル、DTS信号の入っていないソースを再生している。	別の音場プログラムを選択してください。	54 ー 57
	サンプリング周波数96kHzデジタル信号が本機に入力されている。		25
センタースピーカーから音が出ない。	センタースピーカーレベルが絞られている。	センタースピーカーのレベルを上げます。	44
	セットメニューの「1A CENTER SP」がNONEになっている。	センタースピーカーモードを正しく設定します。	37
	Hi-Fi DSPプログラムNo.1～5を選択している。	別の音場プログラムを選択してください。	54 ー 57
	ドルビーデジタルまたはDTSソースにセンターチャンネル信号が含まれていない。		ー
リアスピーカーから音が出ない。	リアスピーカーレベルが絞られている。	リアスピーカーのレベルを上げます。	44
	音場プログラムのNo. 10でモノラルソースを再生している。	他の音場プログラムを選択して再生します。	54 ー 57
サブウーファーから音が出ない。	セットメニューの「1D LFE/BASS OUT」をMAINにしたまま、ドルビーデジタルやDTSソースを再生している。	SWFRまたはBOTHに設定してください。	39
	セットメニューの「1D LFE/BASS OUT」をSWFRまたはMAINにしたまま、2チャンネルソースを再生している。	BOTHに設定してください。	39
	ソースに低音信号（90Hz以下）が含まれていない。		ー
低音の再生不良。	サブウーファーを使用していないのにセットメニューの「1D LFE/BASS OUT」がSWFRまたはBOTHに設定されている。	MAINに設定してください。	39
	セットメニューの各スピーカーの出力モード（メイン、センターまたはリア）がスピーカー構成に一致していない。	各スピーカーを適切な出力モードに設定してください。	37、38
ハム音が出る。	ピンプラグコードの接続が不完全。	ピンプラグをしっかり差し込みます。	12 ー 15
	レコードプレーヤーのGND端子が接続されていない。	レコードプレーヤーのアースコードを本機のGND端子に接続してください。	12、13
レコードの再生音が小さい。	MCカートリッジが装着されたレコードプレーヤーで再生されている。	MCヘッドアンプまたはMCトランスを介してレコードプレーヤーを本機に接続してください。	12

症状	原因	解決方法	参照ページ
音量を上げることができない。または、音が歪んでいる。	本機のREC OUT端子に接続された機器の電源がOFFになっている。	接続機器の電源をONにしてください。	12
サラウンド効果を付加した音を録音できない。	サラウンド効果を付加した音は録音できません。		35
デジタル録音できない。	ソースがアナログ入力端子に入力されている。	ソースをデジタル入力端子にも入力してください。	12 ー 15
スピーカーレベルやパラメーターなどの設定値を変更できない。	セットメニューの「15 MEMORY GUARD」がONに設定されている。	OFFに設定してください。	43
本機が正常に作動しない。	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によってフリーズしている。	コンセントからAC電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	―
本機に接続しているテープデッキまたはCDプレーヤーにヘッドホンを差し込んで聴いていると、音質が劣化する。	本機の電源が切れている。	本機の電源をONにしてください。	―
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている。	本機がデジタル機器または高周波機器に接近しすぎている。	本機をそれらの機器から離して設置してください。	―

■ FM/AM放送の受信

	症状	原因	解決方法	参照ページ
FM	ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい。.	FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力が弱い場合に起きる。	アンテナの接続を確認してください。 FM屋外アンテナを設置してください。	30、31
	FM専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い。	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや設置場所を変えてください。	30
	オート選局ができない。	FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力が弱い場合に起きる。	屋外アンテナを多素子のものに変えてみてください。 またはマニュアル選局をしてください。	30、31
	プリセット選局ができない。	プリセット（メモリー）が消えている。	もう一度プリセットしてください。	32
AM	オート選局ができない。	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AMループアンテナの方向を変えてください。 マニュアル選局をしてみてください。	30、31
	“ジー”“ザー”“ガリガリ”などの連続雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	30
	“ブンブン”“ヒューヒュー”などの雑音が入る	本機の近くでテレビを使用している。	本機からテレビを離してください。	―

■ リモコン

症状	原因	解決方法	参照ページ
リモコンで操作できない。	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光窓から6m以内、角度30°以内の範囲で操作してください。	8
	受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯・ストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池を全て交換してください。	3
本機または外部機器がリモコンで操作できない。	操作する機器が選択されていない。	操作ダイヤルのポジションを操作したい機器に合わせてください。	46
	システムコンポーネントは操作できません。		—
	メーカーコードが正しく設定されていない。	メーカーコードを設定しなおしてください。	51
		同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してみてください。	
	メーカーコードを正しく設定しても、メーカーまたはモデルによっては機器を操作できません。	メーカーコードで操作できない機能は、機器のリモコンから、本機のリモコンにラーニング（学習）してください。	52
リモコンが新しい機能をラーニング（学習）しない。	本リモコンおよび他の機器のリモコンの電池が少なくなっている。	電池を交換してください。	3
	2台のリモコン間の距離が離れすぎているか、接近しすぎている。	2台のリモコンを1cm～4cmの距離に配置してください。	52
	他の機器のリモコンの信号コードと本リモコンとの互換性がない。	ラーニング（学習）はできません.。	52
	メモリー容量が一杯になっている。	ラーニングされている不要な機能を消去しなければ、これ以上のラーニング（学習）はできません。	52

本機使用中に、強い外来ノイズ（落雷・過大な静電気など）を受けた場合や誤った操作をした場合などは、本機が正常に動作しないことがあります。このような場合は、電源を切った後に電源コードを抜き、約30秒後に再び接続して操作してください。

●本機は音楽や映画などを再生する目的で設計されております。従って信号発生器やテストディスクの信号またはパソコン用のCD-ROMなどを再生しますと、本機の故障の原因となるばかりではなく、スピーカーをいためる原因となることがあります。

●デジタルオーディオインターフェース規格は民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなくスピーカーをいためる原因となることがあります。

仕様

オーディオ部

定格出力（6Ω、20Hz～20kHz、0.04%THD）
　メイン　L/R ..... 100W+100W
　センター 100W
　リア　L/R ..... 100W+100W

実用最大出力（6Ω、EIAJ、1kHz、10%THD）
　メイン　L/R ..... 150W+150W
　センター 150W
　リア　L/R ..... 150W+150W

ダイナミックパワー（ＩＨＦ、6/4/2Ω）
　メイン　L/R 140/170/210W

ダンピングファクター（8Ω、20Hz～20kHz）
　メイン　L/R 80以上

周波数特性
　（CDーメイン　L/R）..... 10Hz～100kHz、－3dB

全高調波歪率（8Ω、20Hz～20kHz、50W）
　メイン　L/R 0.04%

S/N（IHF-Aネットワーク、入力ショート）
　PHONO － REC OUT、2.5mV入力 80dB
　CD － メイン　L/R、EFFECT OFF、
　250mV入力 100dB

残留ノイズ（IHF-Aネットワーク）
　メイン　L/R 150μV以下

チャンネルセパレーション
　（1kHz/10kHz、5.1kΩターミネート）
　CD-メイン　L/R 60dB/45dB

トーンコントロール（メイン　L/R）
　BASS ..... ±10dB/50Hz
　TREBLE ..... ±10dB/20kHz
　BASS EXTENTION ..... +6dB/60Hz

ヘッドホン出力／インピーダンス 150mV/100Ω

入力感度／インピーダンス（アナログ）
　CD、他 150mV/47kΩ
　PHONO 2.5mV/47kΩ
　6CH INPUT ..... 150mV/40kΩ－47kΩ

出力電圧／インピーダンス（アナログ）
　REC OUT 150mV/0.9kΩ
　PRE OUT 2.6V/1.2kΩ
　SUB WOOFER 4.0V/1.2kΩ

ビデオ部

信号方式 ..... NTSC
ビデオレベル
　VIDEO、コンポジット 1Vp-p/75Ω
　S-VIDEO
　　Y 1Vp-p/75Ω
　　C 0.286Vp-p/75Ω
　COMPONENT VIDEO
　　Y 1Vp-p/75Ω
　　P_B/C_B、P_R/C_R 0.7Vp-p/75Ω

S/N 50dB

周波数特性（MONITOR OUT）
　VIDEO、S-VIDEO ..... 5Hz～10MHz　－3dB
　COMPONENT VIDEO ..... DC～30MHz　－3dB

ＦＭチューナー部

受信周波数 ..... 76.0MHz～90.0MHz

50dB　S/N感度（1kHz、100%変調）
　モノ ..... 2.0μV（17.3dBf）
　ステレオ ..... 25μV（39.2dBf）

実行選択度（±400kHz）..... 70dB

S/N（IHF、モノ／ステレオ）..... 76dB/70dB

歪率（1kHz、モノ／ステレオ）..... 0.2%/0.3%

ステレオセパレーション（1kHz）..... 45dB

周波数特性 ..... 20Hz～15kHz　+0.5、－2dB

ＡＭチューナー部

受信周波数 ..... 531kHz～1611kHz

実用感度 300μV/m

総合

電源電圧 ..... ＡC100V、50/60Hz

消費電力 約230W
　待機時 約1.2W

ＡCアウトレット（電源スイッチ連動、合計100W）..... 2

寸法（幅Ｘ高さＸ奥行き）..... 435Ｘ171Ｘ432mm

重量 15kg

付属品 ..... リモコン
　..... 乾電池（単4Ｘ4）
　..... ＡMループアンテナ
　..... ＦＭ簡易アンテナ
　..... リモコン操作チャート

仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

● 「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。

本機は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

参考

メーカーコード一覧表

下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。他社のメーカーコードをプリセットした場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、お使いの機器のリモコンから本リモコンにラーニングさせるか（P52参照）、各機器専用のリモコンをご利用ください。

TV

A-MARK	1161
A TANDY	0941
ABEX	1151
ADMIRA	1141
ADVENTURA	1131
AIKO	1121
AIWA	1481
AKAI	0331, 1101, 1111
ALBA	0431
ALLERON	1091
AMBASSADOR	1081
AMSTRAD	0481, 1081
ANAM	0251, 1041, 1051, 1061, 1071
ANAM NATIONAL	1041
AOC	0361, 1021, 1031, 1111, 1161
ARCHER	1161
AUDIOSONIC	1001
AUDIOVOX	1051, 1161
BAUER	0441
BAUR	1001
BEIJING	1511, 1551, 1561
BELCOR	1031
BELL & HOWELL	0981, 0991
BEON	1001
BRADFORD	1051
BROCKWOOD	1031
BROKSONIC	1161
BUSH	1001
CANDLE	0351, 0361, 0961, 0971, 1111, 1131
CAPEHART	1021
CARVER	0101
CATHAY	1001
CELEBRITY	0951
CENTURION	0411
CHANGHONG	1541, 1551, 1561, 1621
CITIZEN	0351, 0361, 0921, 0931, 0941, 0961, 0971, 1111, 1121, 1131
CLAIRTONE	1011
CLARIVOX	1001
CONCERTO	0351, 0971
CONROWA	1751
CONTEC	0901, 0911, 1011, 1051
CORANDO	0941
CRAIG	0251, 1051
CROWN	0941, 1051
CURTIS MATHES	0161, 0361, 0931, 0941, 0981, 1111
CXC	1051
DAEWOO	0291, 0301, 0331, 0721, 0941, 1001, 1031, 1121, 1191, 1531, 1581, 1591, 1601
DANSAI	1001
DAYTRON	0941, 1031
DECCA	0271, 1001
DIXI	0331, 1001, 1071
DUMONT	0891, 1031
DYNATECH	0881
ELECTROBAND	0951, 1011
ELECTROHOME	0941
ELECTRON	0941
ELIN	1001
ELTA	0331
EMERSON	0001, 0021, 0061, 0071, 0081, 0091, 0111, 0811, 0821, 0831, 0841, 0851, 0861, 0871, 0901, 0921, 0941, 0981, 1011, 1031, 1051, 1081, 1091
ENVISION	0361, 1111
ERRES	1001
ETRON	0331
FERGUSON	1001
FINLUX	1001
FISHER	0171, 0801, 0981
FORMENTI	0441
FORMONTI	1001
FORTRESS	1141
FUJITSU	1091
FUNAI	1051, 1091, 1501, 1521
FUTURETECH	1051
GE	0131, 0161, 0201, 0751, 0761, 0771, 0781, 0791, 0811, 0861, 1041
GEC	0271, 1001
GEMINI	0391
GENEXXA	0431
GIBRALTER	0891, 1031, 1111
GOLDSTAR	0031, 0121, 0351, 0411, 0731, 0741, 0861, 0941, 0971, 1001, 1031, 1111, 1151
GOODMANS/TASHIKO	0271, 0661, 1001
GRANADA	1001
GRUNDIG	1781, 1791, 1801, 1811, 1821, 1831, 1841, 1851, 1861, 1871, 1881
GUNPY	1051, 1091
H/K	0721
HALLMARK	0861
HANSEATIC	1001
HARVARD	1051, 1061
HINARI	1001, 1091
HITACHI	0181, 0351, 0671, 0681, 0691, 0701, 0711, 0871, 0941, 0971, 1351
HYPSON	1001
IMA	1051
INDIANA	1001
INFINITY REFERENCE	0101
INTERFUNK	1001
ITT	0611
JANEIL	1131
JBL	0101
JCB	0951
JENSEN	0311
JINXING	1531, 1541, 1551, 1561, 1571, 1621, 1631, 1641, 1651, 1691, 1731
JVC	0261, 0281, 0641, 0651, 0661, 0841
KAWASHO	0901
KAYPANI	1021
KENWOOD	0361, 1031, 1111
KLOSS	0631, 0721, 1131
KTV	0921, 0941, 1011, 1051, 1111
LEYCO	1001
LIESENK & TTER	1001
LLOYTRON	0941
LOEWE	1001
LOGIK	0991, 1771
LUXMAN	0351, 0971
LXI	0101, 0621, 0761, 0861, 0981
MAGNAVOX	0101, 0341, 0391, 0401, 0411, 0421, 0581, 0591, 0601, 0611, 0631, 0661, 0961, 1111
MAJESTIC	0991
MARANTZ	0101, 0221, 0361, 1001, 1111
MARK	1001
MATSUI	0271, 0331, 1001
MEDIATOR	1001
MEGATRON	0691, 0861, 1161
MEI	1011
M-ELECTRONIC	1001
MEMOREX	0331, 0571, 0861, 0971, 0981, 0991, 1771
METZ	1791, 1831, 1891, 1901, 1911, 1921, 1931, 1941
MGA	0361, 0561, 0571, 0861, 1031, 1111
MIDLAND	0751, 0761, 0891, 0941, 1151
MITSUBISHI	0221, 0321, 0561, 0571, 0661, 0861, 1031, 1101, 1381
MONTGOMERY	1091
MOTOROLA	1041, 1141
MTC	0351, 0361, 0881, 0931, 0971, 1011, 1031, 1111
MULTITECH	0881, 1051
NAD	0551, 0621, 0861
NEC	0241, 0351, 0361, 0661, 0971, 1031, 1111, 1321, 1711
NECKERMANN	1001
NEI	1001
NIKKAI	0271, 0431, 1001, 1151
NIKKO	0861, 1111, 1121
NOVABEAM	0721
NTC	1121
ONWA	1051
OPTIMUS	0551
OPTONICA	0541, 1141
ORION	0831, 1001
OSAKI	0271, 1151
OTTO VERSAND	1001
PANASONIC	0101, 0191, 0251, 0751, 1041, 1311, 1371, 1431
PANDA	1541, 1721
PENNY	0161, 0361, 0521, 0531, 0621, 0731,

	0751, 0761, 0781, 0791, 0861, 0931, 0941, 1031, 1041, 1111, 1151, 1161
PEONY	1561, 1621
PHILCO	0361, 0581, 0591, 0601, 0611, 0631, 0961, 1031, 1111
PHILIPS	0101, 0401, 1001
PHONOLA	1001
PILOT	0941, 1031, 1111
PIONEER	0511, 0551, 0871
PORTLAND	0941, 1031, 1121
PRICECLUB	0931
PRISM	0751
PROSCAN	0761
PROTECH	1001
PROTON	0501, 0861, 0941, 1021, 1161
PULSAR	0891
PULSER	1031
QUASAR	0251, 0751, 1041
QUELLE	1001
RADIO SHACK	0541, 0941, 1031, 1051, 1151
RADIOLA	1001
RCA	0051, 0141, 0151, 0181, 0411, 0491, 0531, 0761, 0771, 0871, 1031
REALISTIC	0541, 0861, 0941, 0971, 0981, 1031, 1051, 1111, 1151
RHAPSODY	1011
R-LINE	1001
RUNCO	0891, 1111
SAISHO	0331, 1081
SAMPO	0361, 0941, 1021, 1111, 1151
SAMSUNG	0331, 0341, 0351, 0361, 0861, 0931, 0941, 0971, 1001, 1031, 1111, 1151
SAMSUX	0941
SANYO	0171, 0231, 0271, 0661, 0801, 0911, 0981, 1231, 1251, 1261
SBR	1001
SCHEIDER	1001
SCIMITSU	1031
SCOTCH	0861
SCOTT	0831, 0861, 0941, 1031, 1051, 1091
SEARS	0101, 0161, 0171, 0351, 0481, 0521, 0621, 0761, 0801, 0861, 0971, 0981, 1091
SHANGHAI	1561, 1681
SHARP	0461, 0471, 0541, 0661, 0911, 0941, 1141
SHOGUN	1031
SIGNATURE	0991, 1771
SIMPSON	0581, 0961
SOLAVOX	1151
SONOKO	1001
SONTEC	1001
SONY	0371, 0451, 0661, 0841, 0951, 1281, 1441
SOUNDESIGN	0861, 0961, 1051, 1091
SOUNDWAVE	1001
SPECTRICON	1161
SQUAREVIEW	0481
SSS	1031, 1051
STAR-LITE	1051
SUPREM	0951
SUPRE-MACY	1131
SURPA	0351, 0971
SYLVANIA	0101, 0361, 0441, 0581, 0591, 0601, 0611, 0631, 0961, 1111
SYMPHONIC	0481
SYSLINE	1001
TANDY	0271, 0431, 1141
TATUNG	0271, 0881, 1001, 1041, 1161
TCL	1561, 1631, 1701
TECHNICS	0751
TECHWOOD	0351, 0751, 0971
TEKNIKA	0101, 0351, 0571, 0931, 0941, 0961, 0971, 0991, 1031, 1051, 1091, 1121, 1131, 1771
TELETECH	0331
TERA	0501
THAKRAL	1671
THORM	1001
TMK	0351, 0861, 0971, 1081
TOSHIBA	0381, 0521, 0621, 0661, 0931, 0981, 1301
TOSONIC	1011
TOTEVISION	0941
TRICAL	0911
UNIVERSAL	0781, 0791
UNIVERSUM	1001
VECTOR RESEARCH	0361, 1111
VESTEL	1001
VICTOR	0651
VIDEO CONCEPT	1101
VIDIKRON	0101, 0211
VIDTECH	0861, 1031
VIKING	1131
WARDS	0101, 0361, 0451, 0541, 0581, 0591, 0601, 0611, 0771, 0781, 0791, 0861, 0971, 0991, 1031, 1091, 1111, 1771
WATSON	1001
XOGEGO	1611, 1621, 1661, 1741, 1761
YAMAHA	0361, 1031, 1111
YOKO	1001
ZENITH	0011, 0041, 0891, 0991, 1771
ZONDA	1161

ケーブルチューナー

ABC	0256, 0376
ANTRONIX	0136
ARCHER	0136, 0286
BBT	0076
CABLETIME	0166
CABLEVISION	0196
COLOUR VOICE	0306, 0346
COMTRONICS	0216, 0276
EAGLE COMTRONICS	0276
EASTERN	0066
ELECTRICORD	0206
ELECTUS	0266
GE	0116, 0126
GEC CABLE SYSTEM	0196
HAMLIN H5	0676
HAMLIN H6	0666
HAMLIN H6S	0656
HAMLIN H8	0646
HAMLIN H9	0636
JERROLD	0256
JERROLD 400L	0626
JERROLD 450L	0616
JERROLD 550	0606
JERROLD OSD CATV	0596
JERROLD SPRUCER	0436
MAGNAVOX/PHILIPS	0416, 0426
MAMM	0296
MEMOREX	0386
MOVIE TIME	0146, 0206
NORTHCOAST	0016
NSC	0146
OAK	0106
OAK SIGMA 450	0546
OAK SIGMA 550	0536
PANASONIC TZ 120/130	0476
PANASONIC TZ 170/180	0446
PANASONIC TZ140	0466
PANASONIC TZ150/160	0456
PARAGON	0386
PHILIPS	0036, 0216, 0306, 0316, 0326, 0336, 0346
PIONEER	0006, 0086
PIONEER BR50	0846
PIONEER BR60/70/80/81/82	0696
PIONEER BR90	0556
PULSAR	0386
RCA DIGITAL SATELLITE SYSTEM	0396, 0406
REALISTIC	0136
REGENCY/EASTERN	0686
RUNCO	0386
SAMSUNG	0276
SCIENTIFIC ATLANTA 175/475	0576
SCIENTIFIC ATLANTA 75	0366, 0586
SCIENTIFIC ATLANTA 8650	0566
SIGNAL	0276
SL MARX	0276
SPECTAVISION	0236
STANDARD COMPONENTS	0186
STARCOM V	0256
STARGATE	0276
SYLVANIA/TEXSCAN	0376, 0496
TEKNIKA	0176
TELESERVICE	0056
TELEVIEW	0276
TEXSCAN	0186, 0376
TFC	0026
TOCOM	0226, 0356
TOCOM 5503A	0526
TOCOM 5503VIP/5507	0516
TOCOM TC56	0506
TOSHIBA	0386
TUDI	0046
UNIKA	0136
UNIVERSAL	0136, 0156, 0206, 0286
VIDEOWAY	0096
VIEWSTAR	0216
ZENITH	0246, 0386, 0486

衛星チューナー

ALPHA STAR	0826
CHAPARRAL	0756
ECHOSTAR	0836
GENERAL INSTRUMENT	0776, 0876
HTS	0836
HUGHES NETWORK SYSTEMS	0816
JERROLD	0776, 0786
PANASONIC	0806
PRIMESTAR	0776, 0786
RCA	0766
SONY	0796

(DSS)

HITACHI	0856
MAGNAVOX	0886
MEMOREX	0886
PHILIPS	0886
STAR CHOICE	0876
TOSHIBA	0866
UNIDEN	0886

VCR

A TANDY	0902
ADVENTURA	0992
AIKO	0982
AIWA	0992
AKAI	0262, 0942, 0952, 0962, 0972
AMERICAN HIGH	0932
AMSTRAD	0992
ASA	0002, 0912
ASHA	0922
AUDIO DYNAMICS	0202
AUDIOVOX	0912
BEAUMARK	0922
BELL & HOWELL	0902
BLAUPUNKT	0412
BROKSONIC	0872, 0882, 0892
BUSH	0852
CALIX	0912
CANON	0862, 0932
CCE	0852, 0982
CITIZEN	0912, 0982
COLT	0852
CRAIG	0832, 0842, 0852, 0912, 0922
CURTIS MATHES	0662, 0822, 0932
CYBERNEX	0922
DAEWOO	0802, 0812, 0982
DBX	0202
DYNATECH	0472, 0992
ELECTROHOME	0912
ELECTROPHONIC	0912
EMEREX	0792
EMERSON	0072, 0132, 0142, 0152, 0162, 0172, 0182, 0192, 0212, 0702, 0712, 0722, 0732, 0742, 0752, 0762, 0772, 0782, 0872, 0882, 0892, 0912, 0952, 0992, 1072
FINLUX	0002, 0992
FISHER	0682, 0692, 0842, 0902
FUJI	0672, 0932
FUNAI	0992
GARRARD	0992
GE	0662, 0822, 0932
GO VIDEO	0642, 0652
GOLDSTAR	0082, 0632, 0912
GOODMANS	0402
GRADIENTE	0992
GRANDA	0612, 0902
GRUNDIG	0002
H/K	1082
HARLEY DAVIDSON	0992
HARMAN/KARDON	0632, 1082
HARWOOD	0752, 0852
HEADQUARTER	0612
HI-Q	0842
HINARI	0852
HITACHI	0102, 0562, 0572, 0582, 0592, 0602, 0992
ITT	0942
JVC	0202, 0522, 0532, 0542, 0552
KENWOOD	0202, 0542, 0612, 0632, 0902
KLH	0852
KODAK	0912, 0932
LLOYD	0992
LOGIK	0852
LUXOR	0942
LXI	0022, 0912
MAGNAVOX	0002, 0482, 0492, 0502, 0512, 0932
MAGNIN	0922
MARANTZ	0002, 0202, 0402, 0632, 0932
MARTA	0912
MATSUSHITA	0932
MATSUI	0722
MEI	0222, 0932
MEMOREX	0232, 0242, 0472, 0512, 0612, 0842, 0902, 0912, 0922, 0932, 0992
MGA	0762, 0952
MGA TECHNOLOGY	0922
MINOLTA	0592, 0602
MITSUBISHI	0452, 0462, 0542, 0762, 0952, 1082
MOTOROLA	0472, 0932
MTC	0922, 0992
MULTITECH	0852, 0992
NAD	0442
NEC	0122, 0202, 0292, 0422, 0432, 0542, 0632
NIKKO	0912
NOBLEX	0922
OLYMPUS	0412, 0932
OPTIMUS	0442, 0472, 0912
OPTONICA	0402
ORION	0212, 0722, 0742, 0772
OSAKI	0912
PANASONIC	0012, 0052, 0092, 0222, 0372, 0382, 0392, 0412, 0932
PENNY	0202, 0432, 0602, 0632, 0692, 0912, 0922, 0932
PENTAX	0592, 0602
PERDIO	0992
PHILCO	0002, 0932
PHILIPS	0002, 0282, 0402, 0492, 0932
PILOT	0912
PIONEER	0442, 0542
PROSCAN	1002, 1012, 1022, 1032, 1042, 1052, 1062
PULSAR	0512
QUARTER	0612
QUARTZ	0272, 0612
QUASAR	0382, 0392, 0932
RADIO SHACK	0912, 0992
RADIX	0912
RANDEX	0912
RCA	0112, 0382, 0392, 0482, 0592, 0602, 0662, 0822, 0942
REALISTIC	0402, 0472, 0612, 0682, 0842, 0902, 0912, 0922, 0932, 0992
RICOH	0352, 0362
SAISHO	0212, 0582, 0722, 0732, 0742, 0772
SALORA	0612, 0762
SAMSUNG	0212, 0312, 0922, 0962
SANKY	0472, 0512
SANSUI	0292, 0542, 0832
SANYO	0242, 0612, 0842, 0902, 0922
SBR	0002, 0282
SCHEIDER	0852
SCOTT	0342, 0712, 0762, 0872, 0882, 0892
SEARS	0302, 0592, 0602, 0612, 0682, 0692, 0842, 0902, 0912, 0932
SHARP	0402, 0472
SHINTOM	0852
SHOGUN	0922
SINGER	0852
SONY	0032, 0332, 0352, 0362, 0672, 0792, 0932
STS	0602
SUNPAK	0352
SYLVANIA	0002, 0492, 0502, 0762, 0932, 0992
SYMPHONIC	0992
TANDY	0992
TASHIKO	0712, 0992
TEAC	0992
TECHNICS	0932
TEKNIKA	0322, 0912, 0932, 0992
TELEFUNKEN	0252
TMK	0212, 0732, 0772, 0922
TOSHIBA	0062, 0302, 0342, 0622, 0682, 0712, 0762
TOTEVISION	0912, 0922
UNITECH	0922
VECTOR RESEARCH	0202, 0432, 0632
VICTOR	0542, 0552
VIDEO CONCEPTS	0202, 0432, 0632, 0952
WARDS	0322, 0402, 0472, 0482, 0602, 0712, 0842, 0852, 0922, 0932, 0992
YAMAHA	0202, 0632
ZENITH	0042, 0362, 0512, 0672

DVDプレーヤー

AKAI	0108
JVC	0168, 0348
KENWOOD	0288
MAGNAVOX	0248
MITSUBISHI	0268
ONKYO	0128, 0248
PANASONIC	0048
PHILIPS	0188, 0248
PIONEER	0208, 0228
PROSCAN	0308
RCA	0308
SAMSUNG	0148
SHARP	0068
SONY	0028
TECHNICS	0048
THOMSON	0328
TOSHIBA	0088, 0248
YAMAHA	0008, 0048, 0188
ZENITH	0248

LDプレーヤー

AIWA	0157
DENON	0147
DISCO VISION	0017
FUNAI	0157
HITACHI (E)	0017
KENWOOD	0087, 0107
MAGNAVOX	0027
MARANTZ	0027
MITSUBISHI	0137
NAD	0137
PANASONIC	0077, 0177
PHILIPS	0027
PIONEER	0017, 0037, 0137
RCA	0167
REALISTIC	0157
SHARP	0127
SONY	0047, 0057, 0117
VICTOR	0097
YAMAHA	0007, 0067

CDプレーヤー

ACOUSTIC RESEARCH 1295
ADC 0025, 0065
ADCOM 0205, 0255, 1015
ADS 0265
AIWA 0295, 0945, 1035, 1055
AKAI 0175, 0485, 0535
ALPINE 1215, 1305
AUDIO-TECHNICA 0545
BSR 0245, 0655, 0775
CALIFORNIA AUDIO LAB 0055
CAPETRONIC 1205
CARRERA 0245
CARVER 0285, 1135
CASIO 0345
CROWN 0185
CURTIS MATHS 0345
DENON 0275, 0875, 0885
DEUAL (E) 0505
DYNAMIC BASS (H) 0555
EMERSON 0205, 0325, 1105
EROICA 1275
FISHER 0095, 0555, 0925, 1005
GARRARD 0365
GENEXXA 0305, 0325, 1105
GOLDSTAR 1135, 1225, 1265, 1335
H/K 0105, 0175, 0465, 0995
HITACHI 0195, 0205, 0505, 0815
INKEL 0115, 0395
JVC 0315
KENWOOD 0045, 0095, 0405, 0585, 0725, 0735, 0745, 0755, 0895
KYOCERA 0025
LUXMAN 0075, 0425, 0675, 0705, 0715, 0985
MAGNAVOX 0165, 0215, 0645, 0955
MARANTZ 0215, 0235, 0375, 0785, 1345
MCINTOSH 0355, 1085
MCS 0905, 1315
MEMOREX 0205, 0225, 0235, 0305, 0325, 1105
MGA 0135
MISSION 0215
MITSUBISHI 0135, 0445
MTC 1255
NAD 0035, 0615, 0685, 0695
NAKAMICHI 0125, 0435, 0515
NEC 0255, 0905, 0965
NIKKO 0545, 1005
ONKYO 0155, 0455, 0495, 0805, 1155
OPTIMUS 0225, 0245, 0555, 0595, 0845, 0855, 0865, 0895, 0935
PANASONIC 0055, 0825, 1095, 1125
PENNY 0905
PHILIPS 0165, 0215
PIONEER 0305, 0935, 1045
PROTON 0215, 1185
QUASAR 0055
RCA 0205, 0915, 1115
REALISTIC 0205, 0225, 0235, 0325, 0555, 0845
REVOX 1175
ROTEL 0215
SABA TELECOMMANDER (E) 0505
SAE 0215
SAMSUNG 1285
SANSUI 0215, 0625, 0975, 1025, 1105
SANYO 0145, 0555, 0635, 0765
SCOTT 0325, 1105
SEARS 0345
SHARP 0235, 0665, 0895, 1065, 1075
SHERWOOD 0115, 0235, 0395, 0475
SIEMENTS GARRARD 1245
SIGNATURE 0175
SONTEC 1165
SONY 0065, 0565, 0865, 1145
STARON 1235
STS 0025
SYLVANIA 0215
SYMPHONIC 0335
TANDY 0305
TANGBERG 1195
TEAC 0235, 0335, 0385, 0525, 0795, 0835, 1355
TECHNICS 0055, 0605, 1095
TECHWOOD 1325
TELEFUNKEN (E) 0505
THOMSON (E) 0505
TOSHIBA 0035, 0685
VECTOR RESEARCH 0065, 1135
VICTOR 0315
WARDS 0175
YAMAHA 0005, 0015, 0085, 0415, 0545, 0575, 1065

CDレコーダー

YAMAHA 0414

MDレコーダー

YAMAHA 0024, 0394, 0404
KENWOOD 0384
SONY 0394

テープデッキ

AIWA 0094, 0214, 0224
AKAI 0184
CARVER 0094
DENON 0304
FISHER 0144
GARRARD 0194, 0204
JVC 0274, 0284, 0294
KENWOOD 0124, 0134, 0154, 0234, 0244, 0264
MAGNAVOX 0094
MARANTZ 0094, 0344
MITSUBISHI 0184
OPTIMUS 0034, 0064, 0204, 0334
ONKYO 0364, 0374
PHILIPS 0094
PIONEER 0034, 0044, 0064
REVOX 0354
SANSUI 0094, 0344
SHARP 0264
SHERWOOD 0334
SONY 0054, 0084, 0324
TEAC 0194, 0254
TECHNICS 0074, 0314
VICTOR 0294
WARDS 0034
YAMAHA 0004, 0014, 0104, 0114, 0164, 0174, 0264

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

● 保証期間
お買い上げ日より1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
- ◆ **技術料**　故障した製品を正常に修復するための料金です。
  技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- ◆ **部品代**　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- ◆ **出張料**　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 持ち込み修理のお願い
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※品番、製造番号は本機背面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

YAMAHA
ヤマハ株式会社
〒430-8650 浜松市中沢町10-1
AV国内営業部　TEL (053) 460－3451
AV･IT品質保証部　TEL (053) 460－3405
住所および電話番号は変更になることがあります。

■ ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問合せは

お客様ご相談センター
TEL (03) 5488－5500
ご相談受付時間　10:00～12:00，13:00～17:00
(土・日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

■ ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問合せは

(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道　〒064-8543　札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108

仙　台　〒984-0015　仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249

首都圏　〒211-0025　川崎市中原区木月1184
TEL (044) 434 - 3100

浜　松　〒435-0016　浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
TEL (053) 465 - 6711

名古屋　〒454-0058　名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230

大　阪　〒565-0803　吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262

広　島　〒731-0113　広島市安佐南区西原6-14-14
TEL (082) 874 - 3787

四　国　〒760-0029　高松市丸亀町8-7
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822 - 3045

九　州　〒812-8508　福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検

★永年ご使用の本機の点検を！

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。
事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

Printed in Malaysia ID V624900-2